



塔と花火

まだ明るさが濃うまに夜に移る
陽が落ちて 鐘が撞かれる頃
線香の束を手にしてお詣りする
蠟燭の光がちりばめられてゆく
螢火の妖しいまたたき
幻覚と回想の世界へと誘う
未来は闇にゆらめく灯の中に揺れ
澄んだ鏡の池に反映する
清々しい^{さわやか}微風に 浴衣の肌に
菩提樹の香が漂う
天地を震わす響きがあがる
鮮やかな黄を中心に
橙^{だいだい}から赤へ 緑から青紫へと
あでやかな色彩が流れて行き
鮮麗な花は塔の上へおりた

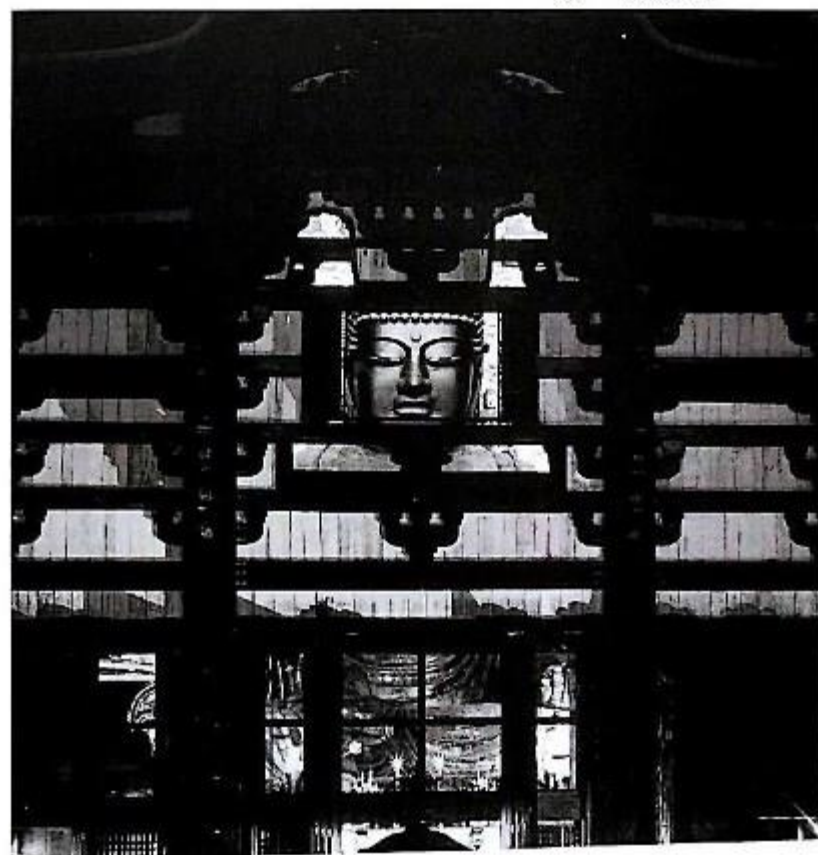


東大寺のライトアップ

Photo essay

夏の夜

題字 中田 蘭石
撮影 由井 収
文 松永 恵一



お盆の大仏殿

季節の

実景

盛夏

撮影 武市通治



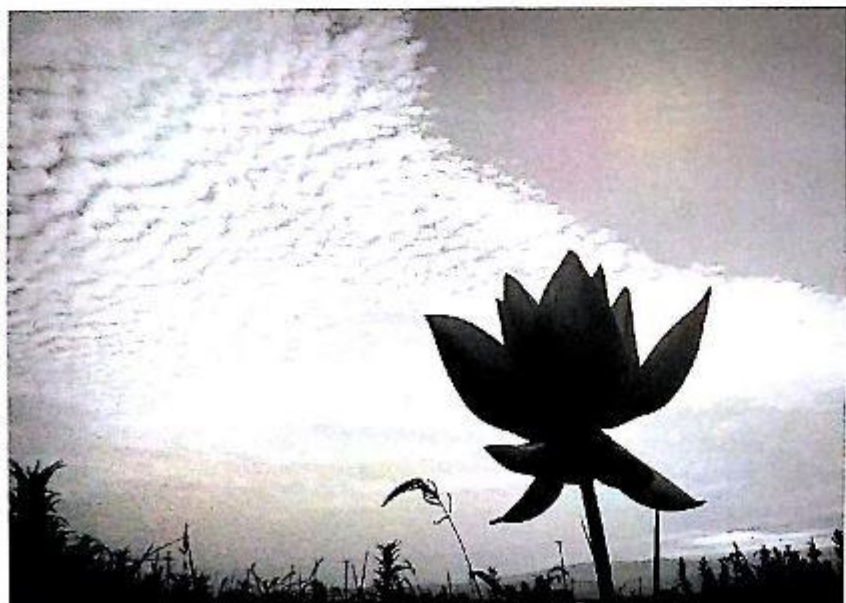
草原の朝



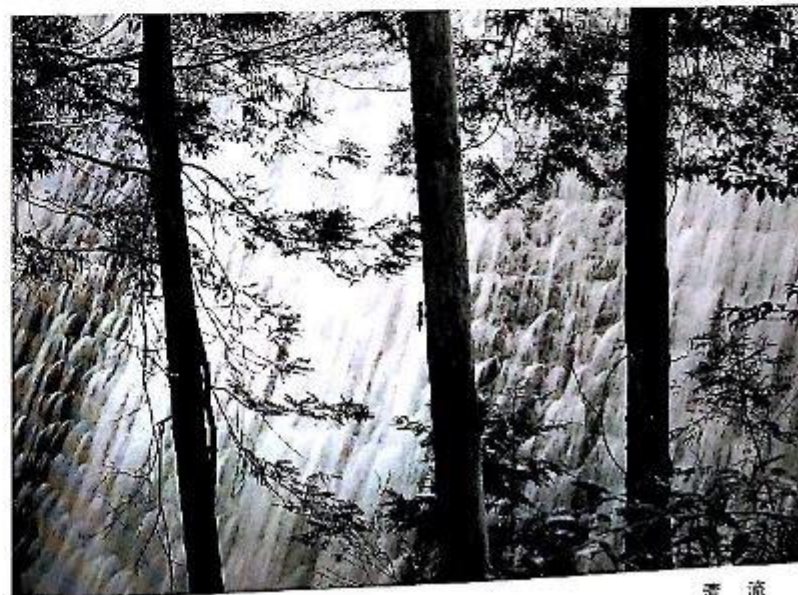
身籠峠



百合咲いて



夜明けのハス田



清流



赤岳から富士山を望む（八ヶ岳）

松浦 隆康



高谷池から火打山（妙高高原）

三浦 弘幸



仙丈ヶ岳から甲斐駒ヶ岳を望む（南アルプス）

松浦 隆康



火打山から焼山（妙高高原）

三浦 弘幸



克



克

随想 (山のエッセイ)

信心と鉄道

吉村 迪

高野山の町石道を歩き、上古沢駅から大阪難波行きの特急に乗った。車窓からの谷の眺めがなかなか良かった。山勢が意外にきびしいのである。正中はレールを軋ませながら、山の崖を緩ゆるゆると爬行する。よくもまあ、こんな山の中に軌道を敷設したものだ。「弘法大師は偉いな」と思った。

歴史上の空海とこの西成線とはもともと何の関係もない。しかし、お大師さまはこの世にいらっしゃる、私たち凡夫と行動を共にして助けてくださる——こう信じて人はついでこの前までたくさん居た。お大師さまを信じて居る者は、高野山へ杖ひかねばならぬ。この人々の信仰が背景となって高野大願鉄道お

よび高野山電気鉄道(南海高野線の前身)の敷設がなされたわけである。

信仰が鉄道を敷くとはおもしろい。現在の新線敷設は、ベツドタウンに結びつくものか、あるいは郡心へのアクセス短縮化を目指すものだ。これに比べ、信仰と信心を運ぼうなんて、往時の鉄道経営者は随分おそろしかったように思える。ところで例はほかにもありそうだが……、こんなことを車内で考えていると、「かつての社務現場参詣鉄道」がたくさん思い浮かぶので、ますますおもしろくなった。

家でざっと調べてみると、近鉄大阪・山田線(前身・参詣参詣行電)はお伊勢参りのために敷設されたようである。京阪石坂線(参詣参詣参詣)の敷設は石山寺、日吉大社、比叡山への参詣客をおとこんでのことである。比叡山の西、八幡には電車の線

路が並び、参詣参詣の旧線高野電気鉄道がこれと合併し、いまは叡山電鉄となっている。能勢妙見へは能勢参詣参詣、水間参詣へは水間参詣参詣がある。

関東にも参詣参詣を前身とするものがあり、すぐ思い当たるのが京成電鉄で、これはもちろん成田不動尊への見、小田急が江戸島まで延びたのも、信心が一言景なのかも知れない。京浜急行といえば都市間輸送を専らとする私鉄だと受け取られがちであるが、古くに川崎大師参詣の鉄道(大願電気鉄道)として発足した。

その他の地方では、濃鉄の琴鳴、出雲の一畑電鉄に信仰の影が濃い。山形には湯殿山参詣人を運んだ三山参詣というのがあったが、残念ながらこれは昭和四十九年に廃線となった。以上のどの鉄道も時代と共に参詣参詣の性格を希薄にしていたので

あるが、またそうすることが鉄道の存続発展の道であった。

さて、信仰が交通機関を引っ張ってきたのだが、交通の利便性によってどの村々に参詣するかが決まってくるようになった。ところが今ではお大師さまは御光バスでゆくべき所のように、信仰がバス会社と旅行代理店を動かす、それらが鉄道の古い役割を引き継いだかのように見える。しかしこの新事業は信仰に對して過大な先行投資をするはずもなく、この点でこれは鉄道敷設事業とは大きな差がある。

もはや何が何でも遠くの霊場へという風潮はなくなっている。信仰は既存の交通システムのかなかに矮小化してゆき、また新事業はますます効率的な参詣ツアーを推し進める。効率的とは形式に流れるということでもある。そのほうが参詣に五分がなくてよいと、人々も思っている。

決して遺蹟をいとわなかった敬虔な心、あの鉄道を敷かした人々の内より発する力は、現在では一段と弱いものになってしまっている。あらためて考えざるをえないのである。

(地名小考)

「鈴鹿」はどこからきたのか

西尾 寿一

先々号(第21号)で地名を使用する場合、初見又は一般に流通していないものについては出典を明記する必要があると書いた。そのことについて誰かが、いつ、どこで、どのような調査活動助によって、その地名を採用したのか明らかとなる。さらにその地名を土台として別の角度から調査されたものを比較検討することによって、その地名の正確さが立証されることになる。

出所不明の地名が、若くに正確す

ることとは、正確な地名を求める活動に對して障害となることを充分認識してほしいのである。そのようなプロセスを経ず、むやみに地名同定を急いではいけません。このように考えるならば「鈴鹿」という地名もまた奇妙だ。

「鈴鹿」を地名辞典にみると、鈴・鉄柱・人名・伝説・稻穂・笹竹・高杉など、実に様々な語源を示していている。

鈴は檜大社の縁起語にあつて大海皇子(天武帝)が鹿に鈴をつけたとか、その他これとべースとした分派が知られている。この説の支持者は少ないが戦前、国粋主義の盛んな時代には主流とされ、現在でも一部で残っている。

水辺植物の根に鈴鉄が集まって球形になるのをスズという、高野氏が提示している。人名としては鈴鹿工の名があるが、これは地名が先と思われる。伝説



随想 (山のエッセイ)

は横政があるが、天武帝の伝承が最もよく知られていて、国定公園の案内板表示や奥の印刷物などにも登場するので困ったことであると思っている。彼らは正確な地名を使うことから逃避しているのしか思えない。

地名学者が最も支持するのが「冠形形の山」(鈴ヶ岳)である。農耕民が稲わらを高く積みあげたことは全国的なもので説得力がある。それならばなぜ全国的に「鈴鹿」の名が分布していないのか、説明できないのは奇妙なことである。全国的に彌叢山・稲岸山など冠形形多現す意味の山名は沢山あるが、鈴ヶ岳や鈴鹿の地名はほとんどない。これは全国的に使われていることはを語源として求めにくいことを示している。ただし「鈴鹿」の地名の発祥地は、現在の鈴鹿市付近であるといわれている。そこから鈴鹿北部の鈴ヶ岳が見えるはずもないので、この説はこ

れば鈴鹿が最初かや山名でなかったことを意味している。

都が平城から平安へ北上すると、近江から阿須波越と呼ばれていた一地方の峠を官道として昇格させ、これを鈴鹿峠と名付けた。峠の表側は都であった。その鈴鹿の名が長大な山脈の名に移行したのは、都人の地名認識の強さに関係している。

都人の関心をいやがうえに引きつけたのは、峠付近に出没した陰謀だった。都近くにありながら平定できないので、ついに奥州で武廟を立てた坂上田村麻呂を派遣する。が田村麻呂もまた鈴鹿峠と陰謀してしまっただけでなく、平安末期、平家でなければ人でないとも言われた源盛の時代でさえ、峠の東に出没する源氏の威光に手が出せなかったのがある。このような次第で都人の認識に強く焼きつけられた「鈴鹿」が、「鈴鹿山脈」の名を成立させる要因となったことは

じつげの感に近い。

地名発祥地を現鈴鹿市付近とし、諸説資料として最後まで残された、藤竹と河州を検討することにした。

現鈴鹿市周辺の地形の成り立ちを想像してみよう。鈴鹿川が運んだ土砂が伊勢湾に向かって去々とした氾濫原を形成している。川の次は大雨のたびに流れを変え、幾筋もの旧河跡が笹竹を繁らせている。このような土地の一角に中央政権の東園経営の基地が築かれ、国府が配置された。こうして伊勢の洪水常習地、州都府は中央に知られることになった。類似地名「飛鳥」も古い記録によると、上流域の木の後採を禁じる布令を出していることから、共に水辺の州都であったことが推定できる。地理的条件の共通する全国の河川の近くの土地に、州都を示す「烈」という字が使われていることが多いことからみても、明

ほぼ間違いないと思われる。

エアーズ・ロック

生駒 貴峰

オーストラリアのエアーズ・ロックは、世界最大の一枚岩の山で、高さが3488m(海拔6677呎)周囲が900kmあり。オーストラリア大陸のほぼ中央エアーズ・スプリングの南西470kmにある。

山やにどってはいつか登ってみたい郷愁にかられる山、いや岩で、オーストラリア観光の目玉にもなっている。オーストラリアは南半球にあるため季節は日本と反対で、日本が冬の時は夏で、エアーズ・ロックのある中央の砂漠地帯は、夏は40度を越すこともしばしばである。

夏の間はあちらこちらと日本の山で忙しが、冬は行く所が少ないのでこの時期に出かける

らかに全国的規模に於いて州都は共通項であった。

州都、あるいは藤州地が「鈴鹿」に変化したのは、長い名称の二文字化、鮮字化の政令(通達)によるものであった。鈴鹿上はその時以降の名ではないか。鈴鹿という地名は伊勢の阿山町や旗津にもあり、共に水辺の土地である。

鈴鹿や飛鳥の名が山地になく水辺に集約していることは、鈴鹿が山名ではないことを示している。それではなぜ鈴鹿が峠や山名、山脈の名になったのであろうか。

鈴鹿がまず国府の付近の名だとすると、前を流れる川が鈴鹿川となり、水源地の山々が「鈴鹿山」となるのは成り行きといえるものである。古い文献をみると、鈴鹿川の水源地、特に三子山付近を鈴鹿山とされているものが多い。特定の山を指したものでないといふことは、逆説的にみ

ことになった。

コースは新しく出来た「副都新空港」からブリスベンへ、ケアンズを経由してエアーズ・ロックに行くもので、ブリスベンまで8時間余り、峠差す時間。冬の日本から夏のオーストラリアに一足飛び。オーストラリアの観光地はほとんど日本人観光客で一杯、現地ガイドも日本人ばかりで、特に若い女性が多かった。

ケアンズは高の観光地で、海は余り好きではないが、さすがにグレート・バリアリーフは素晴らしい。

ケアンズから飛行機で3時間。砂漠の真ん中のエアーズ・ロックに到着する。その間地上は一面の荒野で、人工物は全く見当たらず水の無い川だけがねくねと地平線に消えていた。

エアーズ・ロックにはホテル三軒とキャンプ場。それに付随したショッピングセンターやピクニックセンター等観光客専用の



克

旅だけでなく成り立っている。ともかく暑くて道路を歩くだけでも苦痛である。そのため観光は夕方と早朝に行われる。

先ず夕方四つ山の岩山からなるマウント・オルガを観光する。山には登れないが谷あいまで時間ほど散歩する。日は西に傾いているがまだまだ暑くて水は欠かせない。

その後真つ赤に染まるエアーズ・ロックを見にサンセット・ビューという展望台に行く。日が沈む瞬間に石が赤く燃えるのを見るのだが、今は雨期なので雲が多くて岩は燃えなかった。

翌朝はまだ暗い4時に起きて口の出を見に行く。このサンライズも雲に邪魔されてとうとう赤く燃えるエアーズ・ロックを見ることは出来なかった。雨期でない時期を選ぶ必要がある。

エアーズ・ロックの登山道は西側にテラスがあり、急な岩の斜面に鎖の欄が張られている。

路面は勿論石だが鉄分の多い固い砂岩で、所々表面が剥がれてあばた状になっている。ゴム底の靴だとびつたりと張りついて滑ることなく、大半の人はスニーカーで、登山靴の人は少ない。しかし傾斜は急で、鎖に頼らなければ登れない所もある。

人々は欲求満ちた所まで登って行く。20分ばかりで鎖場が終わり、後継になると傾斜も緩くなる。荒涼たる大地が広がり、登山客が登山口から続いている。

ここまで来ればもう後は楽なもの、テコボコの岩場に付けられた白いベンキを通れば山頂に達する。頂上には金剛の角型プレートがはめ込まれているだけだが、展望は素晴らしい。遙かにマウント・オルガが見える。

それ以外は地平線が円弧を描いているだけだった。地上では無風だったのに山頂は風が強い。太陽が昇るとたちまち温度が上がリ、喉の渇きを

誘う。水は必需品である。そのため登山は早朝に行われ、午前9時頃には皆下山する。温度が38度を超すと入山は禁止される。この日も9時すぎには入山禁止になった。昨年の12月には50度にもなつて飛ぶ鳥が焼けたとゴイドが笑っていた。私の場合登り45分、下り30分であった。

登山口の岩陰にこの山で死亡した人造のメモリアル・ボードがはめ込まれている。今までに死亡した人は25名で、そのうち滑落した人は5名、後20名は口射病や心臓麻痺で亡くなったそうである。この日だけでも数百人が登っているから一年間では万単位の人々が登っているはずだ。下山すると登頂証明書を得られるもお愛嬌だが、どこまで登ったかを記入させられるのも面白い。

登山そのものは大したことはないが、やはり一度は登ってみたい山である。

豊饒の山、花と残雪の

飯豊賛歌

妻 鹿 弘 子

飯豊連峰

浅草にて (後方は大日岳)



花の山、豊饒の印象はコントラパスの荘重な響き、はたまた、チューバの音か。たどり着いた浅草山から初めて見た最高峰、大日岳(1778m)の、豊饒な残雪を纏った大きな山容は、豊饒の山、神います山の呼び名を欲しいままにする。

蜂の若菜(トウモロコシ)に輝け。雨続きの夏山の絶頂を頂いて余りある上。天気にも恵まれ、秋川からの涼も、そして辛いとも思わず登って来ることが出来た。草付きの斜面「浅草」でハタサンコザクラに囲まれての10時のお茶もひとさわおしい。やがて、右前方に東からのメインルート剣ヶ峰の岩壁を横の行列のように登って

くる人達が目に入り、三回小屋で合流する。たちまちいつもの夏山の賑わいに押し包まれる。水を補給しようと思いが、大勢の人が、少ない水量の前行列にいていかなかほかどらない。幾つもの水場を過ぎて来たのに、もっと前で補給しておかなかったのかと悔やまれる。

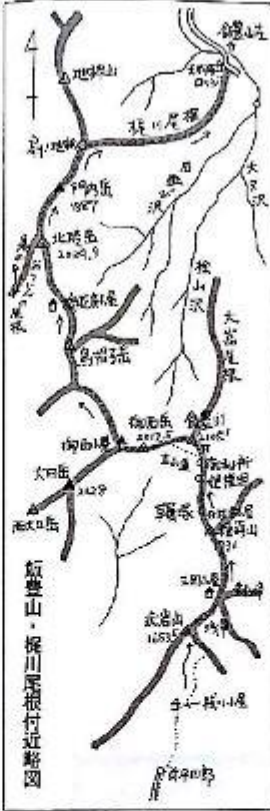
陣時山の手前でセンジュガンビに出会った。私の好きな花だ。「まあ、こんな所で、なつかしい。元気に咲いてね」と、そっと花を撫でる。頼りない程、細い茶がサラサラとゆれる。飯豊でのお日当ては、もちろんイデリンドワとヒメサユリだが、花の時期には少し遅かったのか会えない。昼時に切△小屋に着いたが、大勢の人がそこ

ここで食事なので、もうひと踏ん張りして雪田をトラバースし、草履塚手前の水場で昼食にした。

荒涼とした感じのガレキの被褥、建屋(たけや)あたりで、不測だったSがやや遅れた。その昔、女人禁制だった頃、このあたりのしきたり、13歳の飯豊参り、で遠征した母子を探しに来た母親がここまで来た時、神の祭りにふれ、石に要えられたという哀しい話の伝わる石仏が祭られている。御秘所(ごひところ)の踏場を通き、御前坂の登りは暑く、グ

ラグラと幸いが、見事なシャジンの群れが目を眩しませてくれた。可愛いイイデリンドリもまだあった。15時にやっと飯豊本山(一等105・1)に着いた。今夜の泊まり、御西小屋までは1時間のゆるい下りなので、360度の展望をゆっくりと楽しむ。一度はコースとして考えた大宮尾根の峻々たる岩峰が真北に伸びている。大宮尾根には熊が多く、しかも人を恐れず、夏でもマタギが入ると小屋で聞かされ、よくぞ取りやめたことだとソツとした。

黄昏の御西は黄色に暮れて、南に会津磐梯山、その下に猪苗代湖、会津若松の町が見える。上天気はたった一日で、あやしい色に暮れ、夜半には暴風雨となり、そうでもなくとも積目のお盆の小屋は、テントから逃げ込んでくる人で少し結末になった。



夜が明けても風雨はおさまらない。窓から外を見ると、潰れたテントが撤収もままならず、むなく地にたためている。雨をたいて出ていく人もいる。終焉を決めこむ人もいる。

「飯豊で一番良いコースは湯の平から、おういんの尾根。ぜひここを歩きなさい」と強くすすめてくれる人がいて、湯の平に行きたくて飯豊に来たのに、この風の中を新道黒割に下るのはとうてい不可能だ。昨夜、旭元の人が「あそこは本当に良い湯ですよ」と白股していたのが一層恨めしい。

停泊を決め、することもなく辺で雨の音を聞いていると、8時過ぎに少し音が低くなったような気がして、突然飛び起きて出発することにした。管理人に相談すると

9時間開かかかかか、山形県側へ樺川尾根を下るのが無難だろうという話で、パンとチーズをカッパのポケットに入れて8時30分に出発した。

ひどい風である。二、三步、歩いては風におおられてよろめく。御西から北股までは雲山を怖い思いをしながら何度もトラパスした。せめてストックでもあればと切実に思った。天気さえ良ければ、どんなにか美しかろうという場所をいくつも通る。風にたたきつけられているハクサンシャジンの大群落に一株真っ白な花があった。白花のシャジンなど見たこともなかったが、立ち止まると吹き飛ばされてしまいそうなので、頭を下げ、腕を組む、体を斜めにして、黙々と歩くよりよい。

梅花皮小屋で5分程、立ったままチーズを頬張る。雨も強敵だが時間もない。門内岳を過ぎる頃、風はやわらぎ、雨も小降りになってきたが、湿気の根の浮き出た道は膝まで滑るひどい田圃になっている。

扇の地帯から樺川尾根を少し下ると、新道黒割から吹きつける風は主稜にさえさらされ、ヒタリと止んだ。有り難いことに、雨まで止んでかすかに空も明るんだ。足元にお花畑が広がり、ついにヒメサユリを見つ

けた。時間が無くてもこれだけは撮りたいとカメラを出すのを見て目が呆れている。樺川尾根は3時間40分の長い長い急な下り。途中で御西小屋を5時に出た人に追いついた。少し年配の人がが疲れ切っていて、なかなか腰を上げることが出来ない。初めて5分程歩いて休んだが、いつまでも坐っているのは気が力が衰えて立ち上がれなくなる。気にはなっていたが、先に出発した。飯豊連絡はオムライスのような地形で、鐘が近づくにつれ、傾斜がきつくなる。最後のロープを巻くようにして下ると、やっと林道に出た。18時だった。平狗平ロッジまで5分程の車道をモウロウとなって、フラフラ歩く。



ロッジのテラスでドロドロのスポンや靴を洗っていると、近くのテーブルで食事中のグループが、「ここにおいで」と席を空けてくれ、「これを飲みなさい、これも食べて」と次々サユリに差し出してくれる。「大変だったね、どこから来たの?」と優しい言葉にホッと気がゆるんで思

わず涙ぐんでしまった。お盆のこととて部屋はなく、玄関ホールでもなければ、と書かれ、背に腹はかえられない。それでも温泉につかり、食事をすると、人心地がつか、あの風雨でさえ懐かしく思えた。外はすっかり暗くなったのに、さっきの単独行の年配の人はなかなか到着しない。どうしたのだろうかかと心配していたが、やっと20時過ぎに着いた。

翌朝も雨。山頂は相変わらず真っ黒な雲に覆われている。強行突破が正解だったと話し合いつつ、朝一番のバスで帰途についたが、湯の平と真っ白いハクサンシャジンがなんとしても、心残りではない。

どうしても心に残って仕方がないならばと、性悪りもなく翌年、六人パーティーで出かけたが、打って変わった傾斜に不調者続出で、又もおういんの尾根を断念した。しかし花期に合わせ、7月20日に出かけたので花は真盛り、北股から飯豊本山にかけては百花繚乱。なかでも御西から玄山道分岐にかけての樹洞たるお花畑にしばし夢心地で見物している間に、はるかに置いてけぼりをくって帰った。白いハクサンシャジンはおるかシャジンの大群落も時期が早

かったのが見ることが出来なかった。

二つの目的のため、再度出かけたのに、二つ共駄目になって悲し物が落ちたように気持ち冷め、もう飯豊は終わり。再び出かけることはないだろうと思っているが、夏山が近づくにつれ、今度こそ、おういんの尾根を歩こうかと、テラッと思う。飯豊はくせになる手強い山だ。

民宿のお爺さんは「わしらが子供の頃はイトヨ山と言った。あの字でイイデなんて読める訳がない。いつの間にかイイデになったのだから」と訝しんでいたが、山登駅の案内板には、湯の出る山、ユイデとも言われたと書かれていた。全くの私見だが、イトヨの字とユイデがくっついて飯豊(イイデ)になったのかと思う。

(平成5年8月12日、15日歩く)

△コースタイム▽

赤平四郎(1時間40分) 樺川山荘(泊)

(2時間) 磐岩山(40分) 三國小屋(1時間30分) 切合小屋(2時間) 飯豊山(1時間) 御西小屋(泊) (2時間30分) 梅花皮小屋(1時間20分) 門内岳(30分) 扇ノ地帯(3時間40分) 天狗平ロッジ(泊)

△地形図▽昭文社「34飯豊山」

東北地方の避難小屋のある山巡り

焼石・栗駒・虎毛・屏風岳

松田敏男

奥羽山脈

今夏は事情により、私の居場所自宅から遠く避難できる山脈を計画した。東北本線沿いのビジネスホテルに宿泊し、翌日は山中の避難小屋に泊まるという繰り返しを、四つ重ねた。

夜行バスにて仙台駅に朝8時に着き、新幹線とバスを乗り継いで、正午に夏泊温泉に辿り着いた。歩き始めるにはすでに暑い時間だが、山奥の歴史ある檜風呂として名高いこの温泉に入らない訳にはいかない。誰も入湯客のいない屋下がりの湯にゆつたりとつかって、はるか遠くまで来た感傷を味わう。

温泉の前より焼石岳の登山路があるはずだが、標識には牛形山の登山口と書いてあ

る。登山届けのポストがあり、数枚の届け書を見て、焼石岳へ入山の記載がなく、どうしたものかと林道を左へ右へ探すのだが、どうも分からぬ。工事関係の人に聞いてみても時が明かず、途方にくれかけていたところへ、遅よくひとりの登山者が下山してきた。聞けば、もうひとつ上の林道で牛形山への登山道と焼石岳への林道に分かれるとのこと。安心した。ほんとうにタイミングが良かった。林道が尽きて、ムンムンするような緑がいっぱいの急な坂を登る。テントもなく、一泊分の食料だけなので、いつもの夏山山行に比べれば荷物は軽い。未知の山だが、低いので、安心して進んだ。

焼石高のお花畑より南本内岳を望む



御坪の畦という平坦な溝木道に入り、一息入れる。するとどうしたことだろう、冷蔵庫の中のような涼しさなのだ。空洞のある岩の間から、涼しい風が吹き出ている。それもあちらからこちらからと。不思議な自然の節理に出会った。

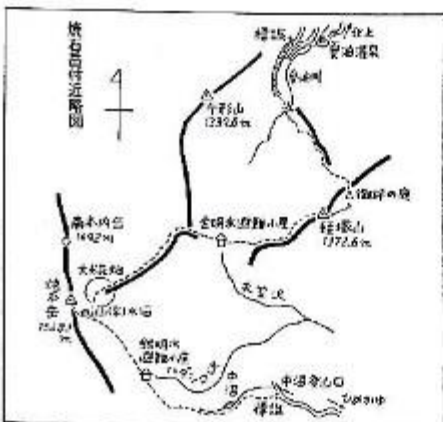
これより上はまた夏の熱気の中に道は続いていく。もう大きい木はなく、檜塚山への急な登りとなる。夕方の光線になり、行

く先は青く霞み、迎えてくれる花は光を透して輝いていた。檜塚山の頂上で、一夜泊まる予定の避難小屋を探してみたが、いくつかのコブの向こうらしく、まだ長い道のりがありそうだ。

暗くなるまでに着けるだろうか、少し緊張してきた。もう17時である。しかし夏だから、そして道もはっきりしているので、必ず着けると信じて、夕日に染まる檜塚山の美しい形に振り返りながら、次のピークに登り返す。紫色のハクサンシャジンがた

くさん咲いていて、美しい所だ。

金明水避難小屋に着いた。18時を少し過ぎていて、小屋に入。た時、暗がりの中寝る体勢になっていた三人が、緊張気味にすり直して私を見るのが、分かった。できるだけ音をたてないようにザックをほどき、シュラフを広げて寝る用意をしてから、小屋の外で食事をした。水はすぐ前を流れていて、小屋のまわりのゴミにさえ目をやらなかつたら、居心地のよい泊まり場だった。翌日は焼石岳に登って、長い道のりをひ



夏油温泉

めかゆへ下山し、バスで水沢市まで行くという、きつい道程である。しかし快晴で、森林限界の上を歩くのだから、気分は絶好調となる。機織りが出て、いくつかの雲川を持つ山が見えた。焼石岳だと思い、絵を描いた。お花畑が広がり、トンボが舞い、雉とり会うこのない麗しい光景が続いた。進むにつれ、本峰と思っ掛いた山は北に派生している南本内岳と分かった。焼石岳はその左側に丸い姿を現し始めた。平坦な大花畑に出た。こんな広々とした規模のお花畑にめったに見られない。標高が低いから花の丈は高い。心がとんと燃しくなっていく。

仙水(泉)沼より焼石岳本峰を往復する。広い登山道となり、上がむき出しになった荒れた跡の所をひとりで山頂だった。登ってしまおうと慥感はなく、すぐに引き返して湧水をめざす。こちらの道は入道りもあり、ラジオの音をこだまさせる登山者にも出会うが、感傷が続き、景色は変化に富み、美しい。

盛夏なのにミズバシロウが咲いている所もあり、雲の深さが推察できる。下って行くほど、ミズバシロウは葉のおぼけとなっていくが、浅い夏の頃には点々と咲いて、

さぞ美しい所だろう。

中道登山口に下りきった所で、ちょうど登山車に乗せたタクシーが到着。運よくタクシーに乗ることができて、ひめかゆままでの長い道のりを歩かずに済んだ。タクシーの運転手によれば、この辺は数年後ダム湖の湖底に沈むとのことだ。

バスの時間までたっぷり時間があり、ひめかゆ温泉に入る。新しく清潔な温泉だった。

次の日は水沢市から東北本線で一ノ関市へ行き、バスに乗りかえて、いちばん上の登山口まで乗った。予定では少し下の地点から栗駒山を周遊しようと思っていたのだが、あいにくの霧なので、簡単なコースに



んだ。雪渓がいくつもあり、向こう側の登山道を誰かめて渡る。栗駒山の花期は過ぎていたが、道さへ遠くへ深くまで静かな山だった。

直登一ノ関まで行くバスはなく、栗駒で栗原出鉄に乗る。栗駒駅は遠分古くて、昔の情緒が色濃く残っていたし、電車内の吊り広告は、田舎の素朴な旅情を彷彿とさせていて、ほほえましかった。この夏よりレンタサイクルA駅に予約。日駅には3台用意しました。という案内が手刷りのシルタスクリーンで印刷されていたのだから。



栗駒山裏コースのワタシタスケ
ここは雷発
へと同なる
後、鬼首
バスを待た
手にはタク
タクシー前

三つめの虎毛山こそ、この山脈の白眉だった。鳴子までJRで行き、長いバス待ちの後、鬼首

バスの中で変更したのだ。しかし、バス終点のイワガミ寺は、レストハウスから取道曲が大きい音で流れ、駐車場にはたくさん車の車が並ぶ賑わいがあった。

中央コースと呼ばれる道に登ったのだが、それ以上の幅で、石をコンクリートで固めた全く登山道らしからぬ道が一直線に前方に延びていた。中学生や高校生の団体がなだれるように走り降りてくる。これらは登山者とは言えない。先生らしき人が苦悶の顔と羨望を浮かべて、一面静けなく暗い気持ちにさせられる。バスの終点の標高は1100m程度で、まわりはハイマツの冷える高山なのに、特に今日は霧が濃くて、冷えた登山道に危険な高さにもかかわらず、軽装の親子づれのはしゃぎ姿は何と無防備なことか。木々の匂いは涼のき、鳥のさえずりは去り、足の感度は向く悲しい。

なぜこんな道を選んだのだろうと自分が恨めしくなる。コンクリートの道が終わったと思ったら、目の前にシヨベルカーが現れた。道を開削している。ふかふかの草付きの斜面を2台運搬している。その底を、地球の断面を見ながら、悲しく歩いた。

頂上は台風に匹敵するほどの烈風の中、木綿のシャツ姿の人がいっばいいいた。霧で降りしきる中、鬼首タクシーは一台のみだった。運転手はいなくて、代理の人が運転してくれた。計道5000円もかかったが、帰日も明日の13時10分に米でもらうようにお願いで、赤倉橋で降りる。

この日は日曜日だったので、日帰りの登山客数人と入山も少ない所でずれ進んだが、そのあとには下山まで、誰にも会わなかった。標高は低い、尾根通しだから、全く雪はなく、また花も咲いていなかったが、ブナの林の美しさは見事だった。幹は太く、枝ぶりには軽快だ。奥美濃や湖北にも大きいブナはあるが、こんなに林立している光景は初めてだ。中部山岳のものより風格がある。大が小さくなってきて、高松岳の分岐に着く。あとはこもりとした山頂をめざして、緩やかに登って行くと、視界が開けて頂上の小屋に着いた。

三角点は小屋のすぐ先、荷物を置いて、この山の見どころの海原に行く。イワツバメが舞い、池瀬のまわりにはモウセンゴケが紅く染まって、初秋の薬園をかたどっていた。すべてが優しかった。

小屋は条件が本づくりで、ていねいに使われていることがよく分かった。除菌を塗った床の美しさは、気持ち良かった。しかも

1000mほどしか標高はない。すぐに詳しく、崖登小屋への分岐に戻る。手さげカバンの奥に、スカート姿の女性が登ってきた。

早足で長い道から左への小径をとる。メインルートから早く姿を消さない、間違えてついでに人がいてはいけないし、大声で呼び止められるのもいやなものだ。

霧の中から、突然ひと気のない所になると、不安になる。雷川が現れ、わずかに上がついているのを手がかりに、下って行く。谷は石を拾って渡ったりする裏道という感じだが、分岐には道標があるので、心強かった。

崖登小屋は立地条件のよい所だった。目の前には柔らかなおらかな谷の源頭が湧き出て、滑らかな水が流れていた。霧も徐々に晴れ、遠くの山も姿を見せ始めた。小屋は木づくりで滑らかだった。今宵は一人だと決めこんでいたのに、18時になって地元男性がひとり到着した。ふたごをひとしやべった後は、それぞれ自分のペースで静けさを深しんだまま、すぐに暗闇となった。下山の裏コースは、また霧の中だった。一枚の絵も描かず、またこの道は全く道標もないので、慎重に前後を確認しながら進

汗をくみ出す **wickron**
濡れても暖かい **ZEO-LINE**
蒸れない完全防水 **GORE-TEX**

CAMP-HIKE-CLIMB
TOMY WALK

定番グッズに飽きたら
アークサリクス・ラフマオ
スプレー・ビックバック

営業時間 12:00~20:00
定休日 月・火曜
秋田市本町1-23-7
TEL 06-319-0597



屏風岳のアオモリトドマン



屏風岳付近地図

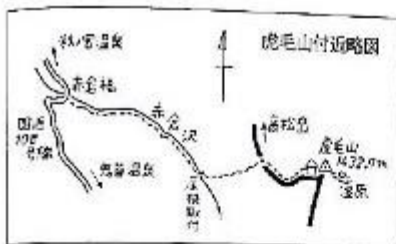


「37感上」

窓は手をのばして開閉するものが高所
にわずかあるだけで、半屋のような
外の強い風もよく小屋を揺るがすことなく
中は静かである。屋下がりに置いたのに、
霧が深いこともあって、小屋の中は薄暗が
りだ。地図も読めないぐらいである。
今日も一人きりの夜となったが、小屋の
造りが頑丈なので、遠くでゴォーという風
の音を聞くばかり。いつの間にか寝入って
いた。

翌日の天気もすぐれなかったが、刈田峠
遊歩小屋まで行って、ときおり雨のぼらつ
く中、霧の晴れるのを待った。中腹の芝草
平は期待していたので、とりあえずはそこ
まで登ろうと、霧の中を渡る。
アオモリトドマンの深い森林は思ってたえ
がある。道ははっきりしていて、登山者にも
ときおり出会った。芝草平の花はもうほ
とんど終わっていたが、池畑が点在して、
まわりを針葉樹が囲み、それを霧が隠して
り、急に切れて近くに見えたりしたのが印
象的だった。裸地化の進んでいる所もあり、
今後はだんだん平凡な景色になっていくよ
うに思えた。屏風岳の頂上は通過点みたい
な所で、花が少し咲いていたが、長閑は無
用だった。

▲コースタイム▼
(徳石) 夏油温泉 (3時間40分) 御坪の
庵 (1時間) 経塚山 (1時間20分) 金明水
遊歩小屋 (3時間) 姥ヶ岳 (1時間30分)
銀明水遊歩小屋 (1時間40分) 中津登山口
(栗駒山) イワカガミ平 (1時間50分) 栗
駒山 (1時間10分) 京森遊歩小屋 (3時間)
オートキャンプ場
(虎毛山) 赤倉橋 (1時間) 尾根取付 (2
時間30分) 虎毛山 (3時間) 赤倉橋
(屏風岳) 刈田峠より刈田峠遊歩小屋往復
(40分) (1時間30分) 熊野岳遊歩小屋
(2時間30分) 杉ヶ峰 (1時間) 屏風岳
(2時間30分) 刈田峠
▲地形図「昭文社」『38栗駒・甲池峰』
「37感上」



虎毛山山頂の湿原

し、夜になると
風が強くなり、
小屋の軒にとり
つけてある霧が
時々明った。小
屋の中のちよっ
とした物音が不
審な気配に感じ
られて、ヘッド
ランプをつけて
確かめたりしな
がら、眠れぬ夜
を過ごした。で
も一方では、登山口の国道まで直線で4km
の半路の中には、たくさん動物たちが棲
息していて、人間は私ひとりだけだ。命の
ありがたさに感謝するあたかな感情が沸々
とこみあげてくるのだった。
翌朝は曇りがちだったが、もう一度湿原
をゆっくり散策して、絵を一枚描いた。湿
原のかなたには、優美な三角形の長く裾を
引いた栗駒山が、青味を帯びた鈍色に望ま
れた。
大自然がいっぱいの気に入った山を下
するときの冒険で、この山から下る時もゴ
ミを拾った。人の少ない山であっても、平
坦な沢に下った頃には、少し大きめのビニ
ル袋が溝林になっていた。たゞは悪いが、
むずかっている我が子がたくさん便をした
時に、親も心底からすっとする気持ちのよ
うな、爽やかさを感じながら、沢の日だま
りでコーヒーを飲んだ。タクシーとの約束
の時間までの残り時間をはかりつつ、ゆっ
くり峠道を戻った。
仙台駅前のホテルから最後の山の麓王へ
向かう。観光地へ行くバスなので、装備の
しつかりした登山客は私だけで、少々気遣
れするが、南蔵王へ行く人はいないだろう

から、少しの我慢と決め込む。途中の流見
台やコマクサ見物に10分ずつ停車しながら、
刈田峠に着いた。水を持ってくるのを忘れ
ていたのに気づく。地図を見れば水場のな
いことは分かったのに、山原も大半滑んで、
最後はあまり期待していなかったのか、気
持ちも緩んでいたのだろうか。宿泊予定地の
刈田峠遊歩小屋に着いたのだが、木の腐生
した中を沢へ降りるのは、戻るのに相当大
変そうなので、しかたなく観光地の刈田峠
に登る。
バス道を出さずして登山道が通じてい
たが、その道は花がたくさん咲いていて、
心がなごんだ。今回の山原の中で最も高い
所だから当然と言えるが、考え方を変えれ
ば、昔はこの刈田岳の大斜面は一面のお花
畑だったのだ。
バスの終点にある玉洗所にて水を入れる。
観光客の間を縫いながら、異様なお釜の光
景を右に見て、熊野岳をめざす。霧がだん
だん濃くなって、人もまばらになる。遊歩
小屋に着いた時には、すぐ近くの熊野岳の
三角点へ行くのは危険だと思ふ程、深い霧
と強い風が吹き流れていた。
遊歩小屋は1日行程の高さの板を乗り越え
て入室する構造になっていた。石づくりで、

中高年・女性のための山旅

日帰りから本格的な縦走コースまで、全コース経験豊富なツアーリーダーが同行します。お一人でもお気軽にご参加下さい。

★他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。
★現地集合・解散もできます。ご相談下さい。

大雪山縦走と愛山溪 4日間

8/3~6 123,000円

鹿島槍ヶ岳と爺ヶ岳 3日間

7/28~30 43,000円

キナバル山ゆったり登頂 6日間

8/2~7 198,000円

韓国雪岳山縦走 3日間

10/7~9 128,000円

黒部峡谷「下の廊下」

黒部川下流には日本の代表的な峡谷で、切り立った懸崖が崖下のよけに続き、異なった景色が続いている。サントニルズに似る深い深い歩道をスリムと道合を共にしながら峡谷の雄姿を楽しんで加えて、美しい山景と見えます。

(期 日) ①10月8日(日)~10日(火) (2泊3日)
②10月13日(日)~15日(火)

(代 金) ①44,000円
②57,000円

羅臼岳と斜里岳と雌阿寒岳

雄大な日本百名山に選ばれるコースです。7kmまでマツクなく白布帯の如き雄偉な雄岳の羅臼岳、雄嶺する小樽の奥に響きわたる斜里山の利尻岳、群を峰を抜んで、雄嶺帯角と対峙する雄大な雌阿寒岳。この山ばかりも、素晴らしい山景が自慢です。また、紅葉登山と見るとは違う景色が楽しめます。

(期 日) ①7月27日(金)~24日(日) (3泊4日)
②9月22日(金)~25日(日)

(代 金) 135,000円
②は10,000円増し

屋久島宮之浦岳と縄文杉

九州最高峰の宮之浦岳が雄姿を現し、足元まで大樹の根が露出している山頂です。また雄嶺の頂上から見た縄文杉の姿は、その巨木の偉力に圧倒される思いです。

(期 日) ①9月14日(水)~17日(土) (3泊4日)
②11月2日(水)~5日(土)

(代 金) 104,000円
②は9,000円増し

マッキンレー展望とアラスカハイキング

新築したホテルが美しい雪原。フィヨルドの雄々たる雄大な氷河、氷山とマッキンレーの雄々たる、自然のままに広がる新緑の雄嶺。アラスカの大自然は、心も体も癒やしてくれます。山や湖、木々、自然の山々、大雪山とそこを駆け行く沢水や氷谷など、その雄偉な山景の雄姿、美しくハイキングいたします。展望の良いプラットフォームにも設置いたします。

(期 日) 9月1日(金)~8日(土)

(代 金) 360,000円

剣ヶ峰へはバスからバスターミナルから鶴ヶ池のほとりを歩いて魔利又天岳の山腹に登り、現在肩ノ小屋と呼ばれている至堂に達する。ここを過ぎると登山道は歩きにくいザレた斜面となり朝日岳の肩に登る。眼前に山頂が近づき、右下に美しい水をたたえた龍現池があり、背後をふりかえると右手から常念岳、槍ヶ岳、穂高連峰が、更に立山連峰、笠ヶ岳が見える。西方には遠く



愛宕岳山頂神社前にて(撮影 山本高由)

加賀の白山 近くに木曾の御岳が見えてくる。

ここから山腰につけられた登山道とどろいて剣ヶ峰の乗鞍神社の前に立つ。すると更に山岳展望が広がって来る。多分昔の巻物者達はこの山頂から加賀の白山や木曾の御岳を拝んだにちがいない。私達もこの展望の中にならばらく身を置いてからバスターミナルに下った。

(平成6年10月14日、15日歩)

▲参考タイム▼

最速バスターミナル12・20→室堂13・00→剣ヶ峰13・32→14・05→室堂14・45→最速バスターミナル15・15
△地形図▼ 2万5千1乗換所

山の本紹介

渡野 孝一著

「のんびり山歩きハンドブック」

楽しく安全に歩くために。渡野さんの書かれた一冊目の「登山入門書」。初心者にもよく理解できる。

●自由国民社刊 定価1,500円



低山登山~本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。



とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスク

野外塾

日本縦断 3000 峰 踏破

関西アウトドアスクール 校長 二名良日

昨年の初秋号(第18号)で紹介しました、昨年度の「冒険大賞」の報告をします。

冒険大賞

選考の過程で大議論があったのですが、最終的には「冒険大賞」の該当は無く、二つの準賞が選ばれ、若手登山家で世界的クライマーとしても通用するといわれている山野井泰史さんの「チョーオユー峰南西壁単独初登攀」と、若い環境レンジャー宮下尚之さんが友人と二人で計画実行した、東マレーシア・サラワク島のドラム川の、源流から河口までの無雨雨林を、「ジャングルに落ちた一滴の水」の原として体感したチャレンジの二つを決定しました。

前者は、古典的なヒマラヤ登山ですが、8201mの世界第六位峰の、22000ftもある西壁を、無酸素による新ルート登攀ということと、90年秋のスイス・ポロランD隊に次ぐ成功ということと、今後とも同氏の世界的レベルの活躍が期待できる……という点が評価されました。

後者は、前者とは対照的に、現代的な普通の若者が、手作り感の発想とプランで地球環境問題を解決した自己テーマを、楽しく個性的にやり遂げた点がユニーク……

ということと、点数が入りました。

その他、最終選考に残った冒険としては、日中合同メコン川源流探査・単独無寄港コトト世界一周・熱気球AX10級世界最長飛行・幻の水回廊チャタール踏破……などがありました。

チャレンジ賞

この賞は大自然への肉体的限界の挑戦である大冒険に限らず、老人や障害を持つ方……のようなさまざまな人たちの、それぞれの状況や目標へのチャレンジを評価しよう……と設けられた賞で、オベル冒険大賞のユニークさを小さく特別賞です。

岩壁探査による下半身の麻痺を克服して、双足の特製カメラで緩河急流断崖断崖に挑戦し、鳥中に完登した芝田耕太郎さんが受賞しました。

このカメラ挑戦と最後まで激しい援救を演じたのが、今回本欄で取り上げる「日本縦断3000峰21峰踏破」の岩崎直さんの快挙です。これについては、後で詳しく報告します。

その他には、イェティ捜索隊・モンゴル騎馬横断隊・ローラーブレッド日本列島縦断・古の自動車冒険旅行復活の旅……などが残りました。

スカラシップ賞

これは、やはり本賞ならではないと考える子供部門の特別賞で、受賞の成川ファミリー日本カワウソ探検隊と、モンゴル大平原30km耐久騎馬レース挑戦者が、一、二位を争い、意見が分かれました。この他に、自然生活チャレンジキャンプ・山形・仙台の「ウォーク……」などが注目を集めました。

日本縦断3000峰21峰踏破

日本海から太平洋までの間に、3000峰級の山、21峰全山が集中していることに注目した岩崎直さん(小学教諭・66歳)は、去年の夏休みを利用して、この3000峰級21峰を一筆に連続踏破しよう、との計画を立てました。

日数は40日間で、全行程は約4000km、一日平均で約100kmという計画は、46歳の岩崎さんにとって極限的なチャレンジでした。その準備としての体力作りなども、半端な努力ではなかったようです。数年前からこの計画のために、「夏山縦走やフルマラソンの完走などをこなして、体力作りを励み、」「フューチャー1000登山達成」に次ぐ大冒険だったこの計画に挑みました。

年齢と仕事の忙しさを考えると、この夏

休みが最後のチャンスということで、7月23日に新潟県の親不知をスタートし、記録的な猛暑の中を、35kgの重い大きな荷物を担いで、まず白馬岳を目指しました。標高3000m近い登りを、原則的にテント泊であるため、一日当たりの食糧は約800g程度に抑えてあるものの、ザックを肩に食い込ませながら、歩き続けたのです。「嵐の平地歩き」も含めて、標高差3000m以上の登り下りの繰り返しは、想像を絶する苦しさで、最初から極度の疲労に襲われ、食べ物も喉を通らず、脱水症状の一步手前のような状態で、こんなことではタイムリミットのある、絶対に変更の許されない計画はよりだ……と絶望しつつも、教え子たちの期待する顔を見出し、勇気を振りました。

そしてついに7月26日に白馬岳に到着。標高の低いところでは蛇におびえ、ヤブ蚊の猛攻撃に悩まされたり、やっとたどり着いた水場が濁っていて、水を求めて山中を徘徊し続けたりするハプニングなどもあったようです。

松ヶ岳・奥穂高・前穂高・乗鞍岳・剣岳をやっつけて、8月1日にやっと木曽福島にたどり着きました。

テント・シムラン・カメラ・調理用品・寝袋など約25kgのザック、この他に奥さんからサポートしてもらった10日間の約10kgのザックの食糧を加えて、一日30~40km、10~13時間を歩き続けました。

「体力勝負」「地獄の苦しみ……」とはよく言ったものだと言葉が、明になるとまた「希望からの一步」を始めてしまおう、自分の体に我ながら感心することしきり……だったようです。

8月12日に伊那市を出発し、身延までに10山を越え、最後の日本最高峰富士山(3776m)に登頂したのは8月29日でした。残りの日数はあと二日間しかありませんでしたが、予定通り8月31日に、静岡県の子ノ前に達し到着。日本縦断全3000峰21峰の踏破を目前に達成しました。

一日も休まずに歩き続けたため、体重は6kgのザックも減り、両腕にピンポン玉大のタコ、足の裏にはママママママ……だったそう、それでも頑張った「自分の体をほめてやりたい」とのコメントでした。以上、岩崎先生の記録から作製した冒険大賞報告書より、抜粋してレポートしました。

山を知る皆さんの感想は如何でしょうか？

壮大な山岳展望と稜線漫步

白馬岳から白馬大池

鷺見守康

北アルプス

立山を歩いた昨夏から、今夏は北アルプス白馬岳に決めていた。夫妻の山行に再び同行。今年もKさんも加わって、車一台に四人という最も効率的な人数となった。

白馬岳は、日本三大雪渓の一つに数えられる大雪渓とお花畑が有名で、お花畑は国の特別天然記念物に指定され、南アルプスの北岳と並び、わが国の高山植物の80%が見られると言われている。しかし、季節的にはタイミングが悪く、白馬岳にはすでに秋風が立ち花の盛りは過ぎた後であった。それでも、約60種の花が咲き、ミヤマアズマギク、ウルップソウ、オノエリンドウなど初めて見る花も13種を数えた。

第一日目、朝7時岐阜発。土岐から中央

自動車道に入り、長野自動車道から10時半には豊科町に到着。国道147号線に出て、車は安曇野を軽快に走るが、雲の多い天気。常念の山々は望めない。木崎湖、青木湖。そして八方尾根を眺めながら白馬村へと進み、正午過ぎ、目的地である猿倉に到着した。

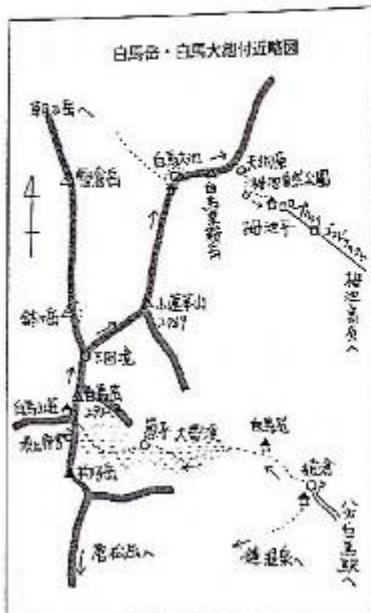
猿倉荘で昼食をとり、13時15分出発。今日の行程は、1時間ほど歩いて白馬尻の小屋まで、という余裕のあるものだから、林道の花を観察しながら進む。まだ夏休み中とあって、観光目的の家族連れが結構すれ違って行った。

林道の終点で、かなり高齢の男性二人が休憩していた。ひよりは白髪に白い髭をた

てしまい、山小屋と同じになったのを幸いに、私たち四人は老人一人と一緒にカメラにおさまった。

白馬の老人はSさんといい、かつては記録映画の監督だったそう。その関係で若い頃から山に登っていたようである。Sさんの旧友であるもうひとりの老人Nさんは、77歳。東映映画の黄金時代をプロデューサーとして活躍した人で、片岡千恵蔵、大友柳太朗、中村錦之助、大川橋蔵といった俳優のことなど興味深い話を聞いた。

白馬のSさんはもとより、77歳にして初めて高山に登るといふNさんがSさんを相手に、食事後いつまでも若者のように、しかし静謐に焚火を煮るっていた姿が印象的であった。



14時30分に白馬尻着。白馬尻には山小屋が二軒並んでいる。二軒ともプレハブ小屋で冬期には雪崩に押しつぶされるため、シーズンが終わると解体されてしまう。私たちは村営白馬尻荘に泊まった。

なめらかな斜面で足を持ち上げる必要もないので、疲労度はむしろ低いようだ。前方の大きな石の上に腰を下ろして休憩しているカップルがいる。私と前後して歩いている高齢カップルの男性がそれを見て非難していた。雪渓への石は落石によるもので、たまたまその地点に留まっているだけのことだから、それに触れるのは大変危険だ。



白馬大雪渓上部

くわえ、パイプをくゆらせ、「人生の達人」ともいべき雰囲気のある老人だ。落し物をしたもう一人の連れを待っているそう。言葉を交わすうちに白馬の老人から白馬岳は60年ぶりという話が出た。驚いて「失礼ですが、お歳はおいくつですか」と聞くと、何と81歳。私が今まで山で出会った最高齢者である。

一氏がこの白馬の老人をすっかり気に入っ

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 北アルプス総論 | 34 飯倉山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・出羽三山 |
| 3 奥島橋・常盤橋 | 36 奥志山 |
| 4 船・立山 | 37 富士・白山・新山 |
| 5 上高地・樽・樽高 | 38 栗駒・早池輪 |
| 6 奥只見湖 | 39 八幡平・妙高山・妙高 |
| 7 新山 | 40 十和田湖・磐梯湖 |
| 8 中央・南アルプス総論 | 41 ニセコ・羊蹄山 |
| 9 不肖湖・留木岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 白山 |
| 11 奥島・磐石・磐岳 | 44 奥山・伊吹・飯島 |
| 12 妙高・戸部 | 45 御在所・鎌ヶ岳 |
| 13 池田湖・草津 | 46 比良山脈 |
| 14 野井沢・湯田 | 47 京都山脈1 |
| 15 西上野・妙高 | 48 京都山脈2 |
| 16 奥ヶ岳・霧ヶ峰 | 49 赤松山 |
| 17 八ヶ岳・翠ヶ岳 | 50 北奥の山々 |
| 18 霧立・富士五湖 | 51 六甲・摩耶・石炭 |
| 19 花巻 | 52 高城山脈・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 会津山・宮崎山 |
| 21 丹沢 | 54 紀伊山脈 |
| 22 高尾・奥馬 | 55 奥美濃 |
| 23 大菩薩峠 | 56 大雪山脈 |
| 24 赤松岳 | 57 大分山脈・大分山脈 |
| 25 奥只見湖・磐石 | 58 赤田・奥美濃高原 |
| 26 奥只見湖・磐石 | 59 赤ノ山・磐石 |
| 27 奥只見湖・磐石 | 60 大山・群馬山脈 |
| 28 妙高・戸部 | 61 四国山脈 |
| 29 妙高・戸部 | 62 石炭山 |
| 30 奥只見湖 | 63 福島の山々 |
| 31 日光・奥只見湖 | 64 九龍・阿蘇 |
| 32 奥只見湖 | 65 沼田・群 |
| 33 奥只見湖・安達太良 | 66 奥久良山脈 |

※ 昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年更新発行されます。この行の版になるべく最新版をご使用ください。また、お申し込みの際は、昭文社の「山と高原地図」への「お問い合わせ」がございましたら、本社編集課「山と高原地図」担当までお電話にお電話ください。また、お申し込みの際は、お申し込みの住所を必ずお知らせください。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪府茨木市西中倉6-1-28
電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・新潟・千葉・福岡・岡山
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



白馬山荘と白馬岳
足し、
1時間
後に
出

である、
居食に、
I大妻
共参の
レトル
ト食品
をいろ
いろ食
べて満
足し、
1時間
後に出
発。

白馬乗鞍峠を越え、天狗原を通り、15時15分精池自然園に至ったのだが、露岩帯など足場が悪く、「大平沢の方が良かった」という声しきりであった。

樹海自然園には今夏から車両の乗り入れが禁止され、新設のロープウェイ、そしてゴンドラリフトで樹海高原まで下った。樹池高原からはタクシーで養倉に戻り、養倉から一路岐阜へ。

夜のとりりの終りた中央自動車道を快走しながら三日間の山行を回想し、夏山シーズンの終わりにかすかな感傷を覚えた。

(平成6年8月25日、27日歩く)

- ▲コースタイム▼
- ①目目 養倉(1時間15分) 白馬原
 - ②目目 白馬原(3時間) 養倉(2時間30分) 白馬山荘
 - ③目目 白馬山荘(20分) 白馬岳(1時間) 二洞境(1時間) 小蓮華山(2時間) 白馬大池(30分) 白馬乗鞍岳(30分) 天狗原(1時間15分) 樹池自然園
- ▲地形図▼2万5千1白馬岳・白馬町

トラン「スカイアラザ白馬」で居食。高山に登ってレストランで食事をするなどというのは初めての体験だ。白馬山荘は、収容人数1500人のわが国最大規模を誇る山小屋で、個室はおろかツインルームや特別室まであるというのだ。

食事後、丸山まで散歩するつもりだったが、周囲はガスに支配され、まもなく雨が降り出した。

3日目、曇りっぽい晴大となった。6時10分に山荘を立ち、白馬岳山頂へ。

すばらしく壮大な山岳展望であった。西から南へ、毛勝三山、前大日岳、奥大日岳、剣岳、立山三山、養師岳、黒部五郎岳、赤牛岳、水師岳、鷲羽岳、野口五郎岳、栗波岳、槍ヶ岳、奥穂高岳、前穂高岳、大天井岳、常念岳、鹿島槍ヶ岳、五郎岳、白馬駒ヶ岳、杓子岳と北アルプスの山々が連なり、東に視線を転じれば、中央アルプス木曽駒ヶ岳、南アルプス北岳、仙丈ヶ岳、伊豆駒ヶ岳、南八ヶ岳と続き、かすむ北八ヶ岳、霧科山のまわりに美ヶ原が広がるかような様子を眺め、東には、ふだんは馴染みのない高妻山、妙高山、火打山、焼山、雨降山など上信越の山々、そして北には、きょうの縦走路にあたる小蓮華山、白馬乗鞍岳を目前に

しつつ、雲倉岳、朝日岳の向こう、はるか日本海を望む。

この大展望の前に立ち尽くす私たちの心の内には、生きていることのとときめきが見え、上野、駒場の奥深く、樹めくばかりの雲霧が吹き付けられていく。このときめきと樹めきを体験してしまつた人は、山に魅了され、くり返し山へ登ることになるのだらう。

剣岳と立山三山はとりわけ見事であった。昨夜、立山三山を縦走しているI大妻には、感慨ひとしおであつたらうと思う。

剣岳は、あくまでも縦走して樹海であつた。「剣をもう一度登りたい……」と思つた。

コーヒープレイクの後、7時30分山頂を後にした。咲き残つた花をめで、晴れ渡つた空の下のはまはゆるい山岳風景を心ゆくまで味わいながら、快適な縦線歩が続く。

白馬岳一帯は、山岳地形の美しさとともに第一級のものだ。杓子岳、白馬岳、小蓮華山は東側が急峻な岩壁、西側が凹凸のない滑らかな斜面という典型的な非対称山稜である。西側斜面は、岩屑の斜面であつたり、植物群落と砂礫地を交互に配列し、精緻な風景をつくる風情草原であつたりするのだ

が、その滑らかな斜面の美しさには思わず感嘆の声をあげてしまう。

小蓮華山には、一重山稜が明瞭にあり、この稜線を山岳地形の研究者と一緒に歩き、地形の解説を受けることができた。さらさらしいだらうと想像した。

わが国の山岳は世界で最も美しいと言われている。その山々を歩きながら、「山の自然学」に親しみたい……そんな気持ちがあふつて湧いてきた。

8時30分三洞境に到着。文字通り、昔からの三洞境で、現在は良野、富山、新潟三県の県境となつている。私たちは一昨日良野から登り、稜線に至って富山県に入り、これから白馬大池まで新樹原を歩くのだ。

9時25分、小蓮華山頂。晴天なのだが、少し前からガスが湧き、小蓮華山から白馬岳を向き見ることができなかった。

白馬大池の手前、登山道にあるケルンでオコジョに出会った。オコジョを見るのは私たちの誰も初めての経験であった。オコジョは人間を恐れず、こちらが動かなければすぐそばまでやってくる。石の間から顔を覗かせる草花はとも愛敬があつた。

11時30分白馬大池着。白馬大池は火山にこぼれ止めた池だが、澄んだ水の大きな池

八ヶ岳を北へ縦走

赤岳から北横岳・天祥寺原へ

八ヶ岳

押川 とみ子

中岳から阿弥陀岳



待ち合わせ場所には彼女はどうも来なかった。宿舎ではなく、ここ駒田駅西三番街バスターミナルで落ち合うことにしたのには、間違っていたのだろうか。バスは定刻に発車した。車中、単独行となることを覚悟している。新大阪駅で彼女が乗り込んできた。伊丹空港から新大阪駅に出たので、付近で時間をつぶしていたようだ。今夜は芝野泊まりとする。

2日目、朝6時のバスで美濃戸口へ。美濃戸口はまだ眠っているかのように静かでひっそりとしていた。登山口の箱に用意の登山計画書を入れた。ここから美濃戸まで一時間程の林道歩きた。彼女は元氣よくスタスタと歩いて行く。美濃戸のゲートをく

ぐった所で南沢と北沢にコースが分かれる。私達は南沢に入る。二度目に沢を渡った頃から彼女のペースがダウン。私について来られない。一本道なので間違うはずもないが、念のため腰を下ろしてしばし待つ。やがて姿を取したので大きく、用を足していたこと。それではと歩き始めるが、また同じことになる。急ぐこともないが、そろそろゆくりもしておられない。赤岳頂上小屋まで先は長い、午後には雷の心配もある。すぐそこが行者小屋だとわかっていたが、少し手前の河原でお昼にする。

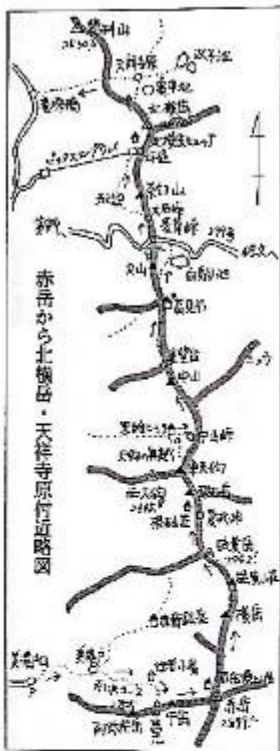
行者小屋で水を補給し、小屋を出発したのが11時20分。これから行く中岳、阿弥陀岳のシルエツトがくっきりと望める。あの

峰を越えて行くのだと二人して見上げる。中岳のホルへの登りにかかると、彼女の歩行ペースが一段と落ちてきた。荷が重いのだろう。先程の水は捨てるように言う。「登りになると足が前に進まないとしゃもん」と彼女は言う。そういえば以前に腰を痛めたと聞いたことがある。中岳のホルには12時46分に着いた。阿弥陀岳はカットしよう。

砂糖を多めに入れて熱い紅茶を作る。彼女が飲んでる間に、遠慮してよこまなかつた荷を私のリュックに移す。あとは赤岳頂上直下の登りだけ。ゆっくり、ゆっくりと足を運べばいい。ふり返れば後輩の顔みたいな阿弥陀岳が、こちらが高度を上げたぶんだけ大きく迫って来るようだ。どうやら今日の標高は通り過ぎたようだ。やっと赤岳頂上に着いた。

前泊の申し込みをしてから夕食までの間、のんびりと景色を楽しむ。背に西日を受け、紅色の輪っかの中にある自分を発見する。プロッケン現象だ。私が手を振ると影も手を振っている。その夜はぐっすり眠った。夜半、雨が降ったようだが私は知らない。

3日目、今日は岩間地帯の通過がある。



天気は良い。彼女は自分の荷は持てると思う。前を歩くように言うが、後からついて来ると言う。小岩を巻いたところで待っていたが彼女は来ない。戻って見たが彼女はいない。大雨で呼ぶが返事はない。しばらくすると進行方向に歩いている彼女が見えた。岩ベンキの○印ではなく×印を間違えたようだ。はつきりした道があったぞ。

破登山荘付近には高山植物探査のロープが張られていた。探査員の紐の砂塵の中、一面にコマクサが咲いていた。赤岳から紅蓮岳まで時間かかった。単独行ならここから赤岳駅まで下るつもりだったが、予定通り北へ縦走することにした。榎行山荘前で食事を取り、東天狗岳に着く。西天狗岳はあきらめる。天狗の奥庭への下

り道は難路、大きな岩が累積していて油断すると片足がスポッとほまり込んでしまいそう。今日も危さんペースだ。空が暗くなって、ポツリポツリとききたので雨具をつける。もう少しで黒百合ヒメツチという所で本降りになった。容赦なく雨に打たれてヒュンチに逃げ込んだ。今日の泊まりはここに決めた。

4日目、朝雨は上がっていた。今日は中山の登りだけだと気合いを入れた。中山展望台では天狗岳と粟科山が美しかった。写真を撮り合っこする。高見石からは白駒池が見えた。山の中で水筒を見るときはなかホッとす。芙蓉峠のアスファルト道を滑り切って大石峠に向かう。ここから五七峠山に予定を変更して野方歩きを楽しむこととする。

この道を選んだのは正解だった。オートキリ平の周辺にはリンドウ、ヤナギラン、それから少し行ってコケモモ、トリカブトなど、それの名前も知らない秋の草花が野原いっぱい咲いていた。坪庭を右に見て最後の登りを北横岳へ。「頑張りな、もう少ししな」すくすくで終わりと助まし合いながら三ツ岳からの道へ戻して北横岳のキャンプに着いた。北横岳山頂に雨のみ持つて



参料山(天祥寺より)

行く。空は曇っていたが、山頂からの展望は素晴らしい。いくつものピークを放り投げながら八ヶ岳の稜線は南へ蛇行して

二人でヨクヨク歩いて来たぶんだけ、その峰々のどれもがいとおしく感じられた。登れなかつた阿部野郎も西天狗岳も別な意味でいとおしい。さらに山頂を北に数分行った所の2480m地点からは、目の前に堂々とした参料山が見えた。あの山もカッパだけとまあいいや。ここまで来たらただけでも感謝したい気持ちだから。天狗がブローロ鳴り出したのでヒュッテへかけ戻る。やがて雨は暗雲を引き連れて天狗岳方面に

去った。
翌5日目も晴れ。北極岳山頂まで御来光を見て、朝食後二度目の北極岳に登る。何度見ても良い眺めだ。甲斐駒、仙丈、御嶽、槍、白馬すべて見える。名残りはつままない

が頂上を後に池田池に下る。昨日こちらを登ってきた人が言っていたがこの道は急下り。登りもさぞきつからう。湯気味悪いくらいに樹林の中、暗くてひと気がない。赤いテープが「ここです、ここです」と導いてくれた。私達は目道歩いていたようだ。池に出るすぐ手前に登き道があった。池田池から天祥寺までは小池の生い茂る快道な道。道に感る雨雲で腰から下がぐしょり濡れてしまった。逆光になるが北極岳の稜線をカノラにおさめる。

大河原峠・参料山への分岐から電線橋方面に下る。親湯まで降りる時間と想う所で彼女が左足のくるぶしの辺りが痛いと言ふ。ために私の右足の踵と交換してみる。彼女は革製。私ののは布製。サイズも違ふ。右足は普通に歩いて左足は真上に持ち上げて真下に下る歩という歩き方が、一番彼女の踵に合っているようだ。何とかなりそう。振り向くと彼女も親子良さそう。童謡橋から先は乗りもの利用を考える。バスは季節運行で先週末で終わっていたが、運よくタクシーが拾えてフル平まで案内してくれた。参料の公衆温泉で4日間の汗を流すが両脚が日に振けて痛い。パンサイズをする格好で湯に入る。雨対策はしっかりして

きたが大層にやられた。乗客乗客13時40分。ここで参料に向かう彼女と「じゃあ又合宿でね」と別れる。
大坂行き電車に乗れながら、私の頭の中は空っぽだった。いすれ、そんなこともこんなことも二人だけの思い出となってゆくだろう。私が自立できた、意義ある山行になった。

☆コースタイム☆

- ①2日目 美濃河口(1時間) 美濃戸(2時間) 行者小屋(1時間) 中岳コル(1時間) 赤坂頂上小屋(池)
 - ②3日目 赤坂頂上小屋(2時間30分) 参料山(40分) 夏沢峠(40分) 横石山荘(1時間) 更夫御岳(1時間) 天狗の奥庭(20分) 豊田合ヒュッテ(泊)
 - ③4日目 豊田合ヒュッテ(1時間) 中山屋敷吉(30分) 高石石小屋(1時間) 参料ヒュッテ(15分) 大石峠(1時間) 五辻(30分) ピラタスロープウエイ山頂駅(1時間) 北極岳ヒュッテ(泊)
 - ④5日目 北極岳ヒュッテ(1時間) 池田(30分) 天祥寺原(1時間) 電線橋(タクシー) 参料山頂フル平
- △地形図▽明文社刊「17八ヶ岳」資料

厳しい登降と豪快な稜線歩き

かみこうら だけ ひじり だけ あかいし だけ
上河内岳・聖岳・赤石岳縦走

酒井賢治

南アルプス

毎年、夏から初秋にかけて楽しむ往年一回の日本アルプスへの山旅……。近年は南アルプス南部が多く、昨年も上河内沢より茶臼岳主峰へ登り、上河内岳・聖岳・赤石岳を縦走し赤石聖岳を推して下山した。南アルプス、それも南部の良さは、展望のない長い樹林帯を響きながら登り終え、明るいお花畑や被褥に立った時の歓び、そして縦走といえども起伏の激しい山塊を一つ一つ越えていく爽快さにあり、肉体的にも精神的にも一層の充実感を与えてくれる。それに登山者が少ないことが何よりも嬉しい。

さて、昨年度の内アルプス南部は、一昨年度の八木尾又上流の外山沢地点での土砂

閉れや、秋の千枚小塵の損失で、少し不便になったが入山に支障はなく、そのぶん例年比で登山者も少なく静かな縦走を楽しむことができた。

8月5日、午前8時自着出発。京都駅7時45分発の新幹線で静岡駅に9時30分着。新幹線バスターミナルを時50分発の八木尾又行き特快バスに乗る。乗客は30名程度でほとんど登山者だ。静岡市をでるとバスは安倍川に沿って北上、池田より井川への県道に入り富士見峠への急坂を走る。坂で10分停車。眼下に井川湖を見下ろし、その向こうに朝日岳や大黒山が美しい稜線を見せていたが、南ア・南部の山々は雲に隠れていた。峠からつづつ折れを下り、井川ダ

大沢岳からのパノラマ(百間平・赤石岳方面)



ムの上を巡って大井川鉄道井川駅に着く。S字の観光客たちうか大勢の人で賑わっていた。南ア特有の車を停った雨が道端にいた。
バスは井川湖に沿って走り、八木尾又東の展望を抜けた後合治の飯坂停留所に13時過ぎに着く。例年ならば煙草第一タムまが入っているが、山腹の土砂崩れのため通行不能でバスはここまでである。登山届け

を済ませ、大井川右岸の樹間の傾斜地に設けられた特設歩道で一旦大井川に下り河床を歩く。山腹の崩壊現場は道路から川すく上の斜面にまで達し、改修工事中であった。河床から再度特設歩道に登り返し、道端に出て少し歩いたところから東海フォレストのリムジンバスが福島まで運行されていた。この間徒歩約40分、一行かいた。全員揃ったところで2台のバスに乗り14時50分出発。V字状の大井川渓谷を要に進む。畑一ダムを通過し15時過ぎ、柳井大吊橋で私と他三人が下車する。

大吊橋を渡り茶臼岳から下る鳥小屋尾根の末端を直登し、途中から右へトラバース気味に樹間の道に登り、ヤレヤレ峠を越えて上河内沢の溪谷に下る。溪谷に沿って右岸、左岸と二本程吊橋を渡り、深流を要でながら奥に進む。鉄梯子を登ると少しして16時40分、今夜の前ウソッコ沢小屋に着いた。素朴な管理人夫婦が温かく迎えてくれた。茶臼り2300円、缶ビールは3000円で小屋として格安だ。当夜の泊まり客は私の他に男性の単独行一人と露営一組というひと気の無さで静かな一夜を過ごすことができた。

2日目、午前5時前ウソッコ沢小屋を出

発。茶臼の主峰線まで約14000分の登りだ。すぐ上河内沢にかかる吊橋を渡り、鉄梯子を登って上河内沢とウソッコ沢を分ける尾根を電光石火に登る。樹林帯の急坂で重いザックが肩にぐいぐい込む。展望がないのでただただ登りに専念した。途中の平坦地・中の段で小休をとり6時50分、樹林帯に登り着く。今日初めて露営が得られ、前面高く朝の光に照らされた上河内岳の南面を仰ぎ見る。山頂の向こうから煙のような薄いガスが谷底に昇っていた。

峠から少し下り上河内沢支流の横溝沢を渡ると、あたりは明るく開け新しい木組造りの横溝沢小屋が建っていた。野外の流し場で洗顔し朝食をとっていると、昨夜同窓だった町田市の男性が私を追い感していった。今日は光岳まで徒歩とのことだった。小屋を覗くと管理人夫婦が朝食中で「気を付けて……」と私を見送ってくれた。再び樹林帯の急坂を登る。森閑とした原生林の中のつらい長い登り……、自分を励まし一歩一歩前進するのみ。木の段で小休止し、栄養と水を補給して再び回復。長い長い尾根を登り、ようやく樹林帯から抜け出し尾根から降りて花の咲く山腹道をトラバースすると、赤い屋根の茶臼小屋の領域であった。

一気に見えがけ、鳥小屋尾根の向こうに大無間山、V字状の谷の向こうに青峰山の山腹が深く峻険を連ねていた。小屋を通過し5分と砂礫の斜面を登りきり、10時過ぎ主峰線踏掛横溝沢分岐点に着いた。しかし、いつの間にか長野側からガスが発生し展望無し。ここにザックをデポして茶臼岳を往復したが、山頂の巨岩を確認しただけで展望もなく、元へ戻り砂礫の幅広い尾根を北上する。逆コースのパーティーとすれ違う。展望のない中、飽甲状土の点在するお花畑を頂々と歩く。前に見えるはずの上河内岳もガスの中に消えている。竹内門の岩峰の間を通り、岩壁の山腹斜面を登り、上河内岳の肩に着く。空身で上河内岳を往復するが山頂は濃いガスで、今日最大の楽しみだった逆高の展望は得られずガッカリした。展望のない山頂に用はなく肩に戻って朝食をした。ここで熊本市からの単独行の中年女性と会話する。鳥小屋から光岳に登り途中、赤石岳・荒川岳を縦走し横溝沢下山とのことで、何とも達者なご婦人であった。

13時過ぎ鳥小屋を出発、二重山稜の間道につけられた聖岳への縦走路を下る。途中の南岳を過ぎたあたりからガスが消え、聖岳の

深い谷の向こうに上半分がガスに隠れた聖岳の膨大な山腹を見る。上河内のガレに沿った縦走路を愉快に進む。やがて樹林帯に入りぐんぐん下って15時過ぎ、聖岳に到着。薄曇りの下でゴヒューを沸かし休憩した。今夜の宿・聖岳小屋はすぐ近くに見えている。小屋は近年新築された立派な建物で、素泊り2300円、シュラフも5000円で貸してくれる。当夜の客は40名程度、露営も10名ばかり。熊本市の女性や同窓の人数と話をすると、便ヶ島小屋が開発された女性西沢渡から聖岳、赤岳へ縦走する登山者が

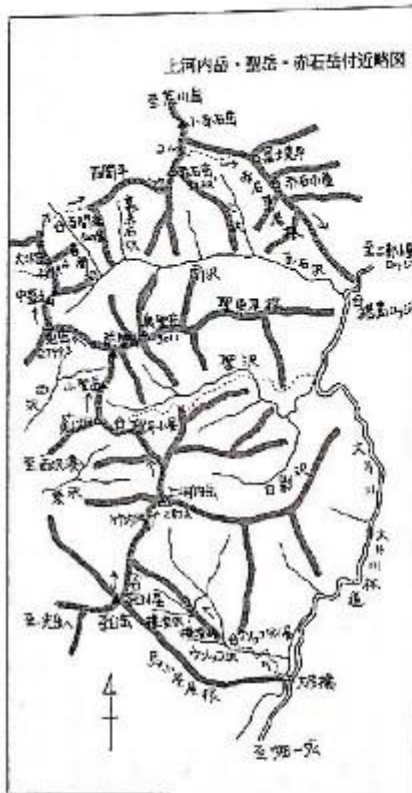
多い。どうやら聖岳は南ア南部でも最も人の集まる基地になったようだ。20時過ぎ就寝。

3日目、4時30分暗いなか小屋出発、今日は最も重要な日なので、好天を祈りつつ標高差7000分の聖岳へ登ります。樹林帯をひと登りした柳畑のお花畑で助かる。左に西沢渡への道が絞れるが一度は歩いてみたいコースだ。カンバの樹林を抜けるとすぐ小屋まで、腹面に聖岳南面のどどかい山腹が感ずるようになっていた。西沢渡頭から早朝の薄いガスが湧き上がり、

聖岳西側を一面険しく見せている。岩壁の縁に沿った岩塊のミニニードクを幾度か越え、妙傑の大斜面をぐんぐん登る。今朝、体調はすこぶる良い。高度をあげ後をみると、昨日歩いた上河内岳などの山腹が朝もやに隠れて見えた。昨夜同窓だったグループの人たちが早々と登頂をすませ下山していった。今日は光岳まで徒歩するぞうだ。

6時50分聖岳山頂に着いた。山頂は薄いガスが漂い、視界が全く霧に覆った。しかし頭上は薄空でガスは動きは早く、次第にそれらも払拭されつつある。7時過ぎようやくガスが切れ、前面、赤石沢の深い切れ込みを隔てて巨大な赤石岳が姿を現した。千枚岳からの稜線を刻んで雲を落とす赤石も立派だが、前山からの赤石も重厚な存在感。何事にも動じないような神々しい偉容であった。そして聖岳頂と赤石岳を結ぶ稜線が西に大きく逆Vの字型に続き、聖岳、中嶺丸山、大沢岳などの山々を連立させている。山々は朝の光を浴びて萌えたしたばかりのような若葉色だった。

7時20分、前聖岳を出発。聖の大クスレに沿ったヤセ尾根を下る。聖岳とのコルまで爽快な4000分の下りだ。前面にこれから歩く主稜と山々を見ての下りは全く快適





兎岳への登りから南ア・南郭の山々(左に大沢岳・中盛丸山・右に荒川岳と遠く塩見岳)

の一言だった。兎岳コルのカンバの疎林で小休。逆コースの大谷千生パーティーと挨拶を交わす。岩場も湿る兎岳への縦走路を約10分ほど登り返して時50分、頂上に着く百間洞からの登山者が10名ばかり休んでいた。私も気分休んで30分程度の展望を楽しんだ。南方向には荒川支谷の上部に綿のよな雲が深達し、光岳あたりまでの南部の山々が青白く続いていた。

兎岳から小兎岳、中盛丸山への縦線は、赤石岳と聖岳の巨峰と兎岳のバットレスなどを見ながらの楽しいプロムナードだった。時々逆コースの登山者が通過する。日笠状の中盛丸山へ一気に約2000級急登、10時30分山頂に着く。この時間では聖岳への縦走者は通過したようで山頂は私一人。東方向には赤石岳と聖岳から派生する支尾根が、着物の襟を重ねるようにV字状に交互に赤石沢に下っている。そしてその向こうに、策が岳など白峰南稜が青く連なっていた。残念ながら富士山は見えなかった。30分休憩し、だだっ広い大沢岳とのコルに駆け下る。ここから百間洞へ下る道はロープが張られ通行禁止になっていた。百間洞山の家の移設でどうやら盛道になったようだ。

再び塩松と岩壁多い大沢岳への縦走路を

登り返す。左へ大沢岳への道を破けて岩の縦線を通り11時40分、山頂に立つ。今日五つ目の山頂だ。360度の大展望を見ながら昼食をとる。膨大な山容の赤石岳を目前に、その左に峻々とした灰色の荒川岳、さらに遠く塩見岳。遥か彼方に仙丈岳を望む。小沢川の谷間からぼつぼつ午後後の薄いガスが湧き上がっている。40分の休憩はまたたく間に過ぎた。大沢岳から百間洞へは本峰より下り北峰東面を巻くように降下点にて、砂礫と塩松の急斜面を約300級一気に下る。基部の岩壁帯に下ると、赤石岳は百間平の山腹で姿を消した。百間洞源流を渡り、露营地から右へ沢流に沿って下り13時30分、新しく建てられた百間洞山の家に着く。1泊を食付7000円、ここは東海フォレストの経営なので、リムジンバスの料金2000円を割引きしてくれた。少々早く着きすぎたようだったが、14時半頃より雷を停ったドンシャ降りの雨で、早着は正解だった。15時過ぎから昨夜同宿だった人たちが泊まり定客が雨に濡れて次々到着、当夜の泊まり客は10人程になった。雨上がりの空に映える聖岳を見ながら楽しい食事、雑談したりして20時前シュラフにもぐる。

4日目、今日は下山日だ。4時20分弁当持参で小屋を出発。露营地を経て赤石岳への樹間の道を登る。暗いので少し道を外れた。樹林帯を抜け百間平への岩壁の急斜面をぐんぐん登る。赤石岳まで約600級の登りだ。まだ薄暗いなか、あたり一面乳を流したような朝もやで道筋がきかず、唯ひたすら黙々と登る。百間平の一角に着き、小休して花の咲く芝地をのんびり歩く。遠くいっぱいの馬の背にかかる項、ようやく朝もやが晴れ、前面に赤石岳が逆光の中にシルエットを見せ、後を振り返ると百間平の向こうに大沢岳と中盛丸山が頭をのぞかせていた。

聖赤石沢源頭のお花畑で雪鳥の親子が朝の散歩をしていた。灰色の岩肌を落とす赤石岳西面基部から南面を巻くような岩壁の道を高度を上げ、さらにカールのような砂礫の山腹を急登し、赤石岳山頂南端部に登りきる。なだらかな頂上部を歩き、右に避難小屋をみて5時50分、山頂三角点に着く。登頂者は5人程度、皆それぞれ思いがあった。昨日縦走した聖岳より大沢岳、白峰南稜など東西南方は望めたが、荒川岳の方向は奥西河内の谷より薄いガスが湧き

見えなかった。朝食も含めて約40分山頂に居る、7時30分出発赤石のコルに下る。ここから根島まで約1900級の長い下りだ。最後の展望を網膜に残きつけ、赤石沢支流の北沢源頭のカール面につけられた急傾斜の道を下る。爽快に500級程下った源頭水場よりさらに塩松とお花畑の美しい谷を斜めに下り、小赤石岳から派生する長大な赤石支尾根の南面山腹をからみ、高度を合わせて樹林の屋根にのる。赤石小屋からの登山者と挨拶を交わす。尾根上のピーク五十見平からの赤石岳、荒川岳の展望を期待していたが、ガスのため残念ながら窺えずガッカリした。カンバやシラベなどの樹間の屋根道を軽快にとぼす。ひと気の無い赤石小屋を過ぎたあたりで、右の樹間より長々と縦線を下げる聖岳東尾根を垣間みる。展望のない長い長い尾根を無心で下った。

奥西河内側が見える所で休憩し、最後の果物を食べた。根島からの登山者が次々と登ってくる。林道を横切ると樹相も徐々に変わり、アルプスではなく因西の山を歩いている感じになった。植林帯をジグザグに下り、鉄梯子を降りて大井川林道にとび出て11時30分、根島ロッジに着いた。

百間洞山の家の宿泊係室を見せ、リム

- ジンバスの乗車札を確保し、輪風呂に入って4日間の汗を流しビールで喉を潤した。のどかなロッジの庭で静かに、19時15分小型バスで根島を出発。往路同様外山沢付近の開墾地は歩いて登り、15時半静岡駅行きバスに乗り継ぐ。富士見峠からみる南アルプスは雲の向こうに鎖されていた。18時30分静岡駅着、新幹線に乗り継いだ。
- (平成6年6月5日〜8日歩く)
- △コースタイム▽
- ①1日目 畑澤大石橋(1時間40分) ウツコ沢小屋(泊)
 - ②2日目 ウツコ沢小屋(1時間30分) 横窪沢小屋(3時間) 三枝縦走路(赤白岳) 竹登20分 (2時間) 上河内岳(2時間) 聖平小屋(泊)
 - ③3日目 聖平小屋(2時間20分) 龍聖岳(1時間30分) 兎岳(1時間20分) 中盛丸山(40分) 大沢岳(1時間) 百間洞山の家(泊)
 - ④4日目 百間洞山の家(2時間30分) 赤石岳(4時間) 根島ロッジ
- △地形図▽昭文社「11塊見・赤石・聖岳」ヤマケイ登山地図「荒川・赤石」

近江側から登る鈴鹿の山々

— 鈴鹿の思い出・おもしろ話 — (3)

岩野 明

⑩ ヒミズ谷の雄大な思い出
綿向山のヒミズ谷は手頃な滝やナメ流が
切れることなく続き、沢登りの醍醐味が楽
しめる。

平成3年の夏、友人と二人で谷に入り、
沢歩きを楽しみながら核心部のゴルジュ帯
を登っている時、ラグビーボールを一回り
大きくした位のうりぼう(猪の子)が滝壺に
落ちていた。何とか助けてやりたい。軍手
をはめ、うりぼうの頭からビニール袋を破
せて捕まえようとしたが、右に左に逃げ回
り捕まらない。そのうち、横の急斜面を一
気に登りだした。しかしその岩壁は上が垂
直に近い。はらはらしながら見ていると、
ずるずると落ちてきて、あっという間に下
の滝壺の横の岩にまともに当たって滝壺に

落ちてしまった。そのあと涼いで岸に上が
り岩の橋でうすくまっしてしまった。

私たちは後からゆっくり近づき、素早く
私たちは後から被せて捕まえ、素早く
ビニール袋を頭から被せて捕まえ、う
りぼうは裸で尻を破ってしまった。四本
とも足をしかり纏んで抱きかかえたが嫉
れる。このままでは登ることもできない。
靴紐の子傷を出して首に巻き、抜けない程
度に結んだ。地面に下ろすと見えながらも
立った。紐を引っ張ると歩いた。しかし強
いものだが、約3分の高さから岩の上さま
もに落ちて何ともないようだ。そこから
犬の散歩のように歩ける所は歩かせ、崖は
引っ張り、押し上げながら何とかゴルジュ
帯を脱出。両岸が緩い紙面の所で紐を外し
てやると、ガタガタ震えながらうすくまっ

てしまった。横に腰を下ろし、二人で頭と
背中をなでながら助ましたが動かない。で
もいつまでも付き合っているわけにはいか
ない。そのうち落ち着いたら山に帰るだろ
う。ひと休みしてうりぼうと別れ、綿向山
に向かった。

アキアカネが飛び交う山頂で、爽快な気
分で昼食をとっていた。その時友人がザツ
クの中を全部ひっくり返して何かを探して
いる。聞くと言計がないと言おう。谷に入っ
た時、ザツクに入れたと言おう。うりぼうと
出合った時、軍手だ、ビニール袋だ、紐だ、
と大騒ぎした時に落ちたようだ。しかし
沢を下るのは危険だ。その日はあきらめて
登山道を下った。

この時計は友人が誕生日に家族から貰っ
たものだったと聞いて気になり、次の週末
一人で谷に入り探したが見つからなかった。
うりぼうも山に帰った。うりぼうも山に帰った。
夏も終わり、晩秋のある日、白倉谷から
大峠、清水ノ頭、雨乞岳へと登り、下って
きた時、天気が急変し薄暗くなり雨が降り
だした。白倉谷から疎道にでて、急いで下っ
ていると、左下の谷の河原に猪の群れが見
えた。子牛ぐらいの大ききのオスと、それ
より一回り小さいメスが、四頭のうりぼう

を引き連れ河原を登ってくる。

しゃがみ込んで見ていると、岸の落ち葉
や土を鼻で廻り返しながらゆっくりと登っ
てくる。真下に来たのでカメラを出してい
ると、河原の下の方で猪の音がした。藪の
中から出て来たもう一頭に気付かれたよう
だ。オスが声を上げ素早く向こう岸の藪に
入り、山の斜面を二列になって登り樹林の
中に消えた。

猪のテリトリーはこの程度なのか知らな
いが、ここからヒミズ谷の上流は近い。夏
ヒミズ谷で助けた猪の一家だろうか？ 最
後に出てきた一頭は、他のうりぼうたちよ
り一回り大きくやんちゃ坊主のようだった。
そうか、そういうことが、最後に出てきた
うりぼうが助けてやったあの子か。そう思
われてならない。

⑪ バイクのバンク

秋、淡川までバイクで入り、藤原岳に登
り、下山してきたのが16時30分。帰ろうと
バイクで走り出した後、後輪がバンクし
た。押して歩こうにも先は長い。置いて帰
るにしても取りに戻るが大変だ。見ると
タイヤはかなり振り回っている。そのまま
乗って約500mのスピードで右にころだらけの

林道を走りだしたが、デコボコの道はハン
ドルをとりたてなかなか進まない。薄暗く
なる頃やっとならぬ道に出た。地元の人に
自転車を引かせる、永福寺にあるにはあ
るが、日曜日はどうかなあという返事。仕
方がない、行ける所まで行こうと思ひ走り
出したら、チェーンがはみ出して、ゴスゴス
当たりだした。

用心のため針金をバイクに付けていたの
を思い出し、チェーンを針金でぐるぐる縛っ
て走ると何とか走れる。ゴトゴト、ゴトゴ
トと伴奏付きで直線道路なら10、15分は出
たが、曲がる時にハンドルを取られて転びそ
うになる。道路の端をゆっくりゆっくり作
奏付きで走った。

八日市の自転車屋に着いたが聞まってい
る。そのまま向とか走り10時過ぎ、近江八
幡の我が家に着いた。近江八幡市から淡川
までは約50kmある。そのうち林道が約10km、
バンクしたバイクで大体45km走ったことに
なる。エンジンさえかかれれば、バイクはパ
ンクしても結構走れるものだと思ひした。
尚、修理代は5000円もかかった。

⑫ 縄と約定紋

友達と二人で出雲の田村谷林道から御所

平と仙ヶ岳に登り、小社界から林道に下る
ことにした。昔からはテープの印が続いて
いたがすぐ消え、大きな滝が現れた。右を
巻いて滝の下に降りたが、その先に谷の切
れ込みも鋭く、そのうえ次々と滝が現れる。
何とか下れるが益々谷は険しくなり、又大き
な滝が現れた。左を高巻きして降りた所で
谷が分かれ、一俣の分岐で約500mの崖になっ
ている。

縄りは切り立った崖で手がかりはどこと
もない。どうしようかと、相談しながらふ
と見ると、横に一本の藤づるが斜めに伸び
て木に這い上がっている。そうか、とリュック
から縄を出し、藤づるを手の届く一番上
で切り、崖に垂らした。友達は素気にとら
れて見ていた。藤づるを伝って無事に降り
ることができた。

谷の地水時や崖などで渡れない場合、縄
があれば非常に便利だ。折たまたみ縄と庭師
が使うバナネ付きの約定紋は、私の山歩きの
大切な持ち物になっている。縄も使ってみ
たが約定紋のほうが軽く、ポケットにも入
る。細指ぐらいの太さの木や枝なら簡単に
切って進むことができる。いかがでしょうか、
皆様も使ってみられては。

鈴鹿のユートピア・セキオノコバの池

竜ヶ岳・静ヶ岳

竜ヶ岳はセブンマウンテンの宣伝もあり
人気が高い。山頂部は一面の笹に覆われて
明るく、360度の大パノラマが展開する。
登山道は宇治溪から表登山道・中道・裏登
山道と三つのコースがあり、休日はかなり
の人達で賑わっているが、近江側から登る
人は少ない。近江側からも石神峠や治田峠
を基点にすれば、林力や時間に応じてい
いろなルートを選ぶことができる。

今回紹介する静ヶ岳へのルートはほとん
ど歩く人がいない。特に静ヶ岳の東河にあ
るセキオノコバは鈴鹿のユートピアともい
えるので、疎林の中は柔らかな草に覆われ
小池もあってまるで日本庭園のような趣が
ある。

国道421号線は、朽木峠を過ぎると石
神峠に向かって登りの山道に変わるが、杉
の中を進むと右側に京ノ水という名水があ

る。ここで水を確保して石神峠へと向かう。
八風峠を過ぎ、カーブの多い道を進むと前
方に、竜ヶ岳の雄大な山稜とマイクローエー
プの中継所が望めた。道筋にはススキとオ
トコエシの花が咲き、気持ちの良いドライ
ブコースだ。石神峠にはゲートがあり普通
車以外は通行止めになっていた。

峠の広場に駐車して9時に出発。V字形
に深くえぐれた道が続く。登りきるとすぐ
脆い岩場の登りに変わった。岩場には鎖が
張ってある。道筋はきれいに列り込んであ
るが、道自体はかなり荒れている。登った
平地地に石英の多い白ハゲが二、三個所あ
る。

二年半友人が家族で登山の途中、このハ
ゲで休んでいると、キラリと光る石があっ
た。小石で叩いて取り出して、よく見ると
水晶の原石だったとか。それから家族で探

竜ヶ岳



して水晶の原石を二個拾った、と聞いて、
早速ハンマーを持って探しに行ったが、そ
う簡単には見つからない。その後このルー
トを通る場合は、いつも注意して見ている。
登りになると道は荒れ、V字に深く掘れ
込んだ滑りやすい道に変わった。小枝や木
の根を掴んで登り、左に回り込むと重岩
に着いた。涼風が吹き抜ける岩の上は最高
の休み場所だ。南に大きく異型が開けた。



左は伊勢平野から名古屋方面、そして鈴
鹿の主稜線が、三池岳・釈迦ヶ岳・御在所
岳・雨乞ヶ岳へと続き、右には湖東平野・日
本コバへ続いている。ひと休みして急な坂
道を登りつめると竜ヶ岳の両端に着いた。
展望は益々広がり、さほど遠くのものは何も
ない。小さなクマを二つ越えようと竜ヶ岳の
山頂に着いた。北方には静ヶ岳・藤原岳・
御池岳が続いている。笹原を右に進むと広
場があり、眼下には宇治溪と伊勢平野が大
きく広がっていた。四日市・名古屋方面の
眺望をゆっくり楽しんで静ヶ岳へと向かう。
下りにかかるとすぐ眼下に広大な笹原が
広がり、クラから遠足隊根へと続いている。
濃い緑の笹原の中に疎らに生えているドウ
ダンツツジが色つき始めていた。その先に
藤原岳の両端の探石所が階段状に崩れ取っ

れ、山の骨格が白く露出して見えるようで異
様な光景だ。いったん下って緩い登りを辿
りながら振り返ると、濃い緑の竜ヶ岳は優
美な山容を見せていた。

静ヶ岳に向かう分岐への道は道のトンネ
ルになっている。左折して笹をかき分けて
進むと、道は尾根の右側面を巻いている。
覆い被さる笹をかき分けながら印を辿ると
尾根にのった。緩い下りが続くとV字の印
も続いていて、以前より歩きやすくなっ
ている。右側樹林の中の窪地にヌタ場があっ
た。黒々とした土が目立ち、辺りの木に擦
り付けた跡がある。下りきって道の中を辿
ると急な登りに変わった。登りつめて平坦
な道を進むと探石所があり、静ヶ岳への分岐
に着いた。右は緩急路だ、左にとり静ヶ岳
へと向かう。登りにかかる手前で、前方の

関西 山越の古道(上)

中庄谷 直著 四六判・二〇〇〇円
生駒越・高城二八越・六甲・丹生越
忘れ去られようとしている山越の古道
を、石仏や道標や丁石をたどり、石畳
を踏みしめる静かな山旅全30コース

京都丹波の山(上)

内田 嘉弘著 四六判・二〇〇〇円
山陰道に沿って 国道9号線に
沿って、山城、丹波境の大枝山から
丹波、丹波境の大山山まで約70山初
めの方イ下。下巻「丹波高原」来秋。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二木松町2
京都 075-751-1211 〒606



セキノコバの池

雑木に囲まれた山頂は狭く、雑草の中に二角点があった。南に展望が開け、正面に濃い緑の竜ヶ岳が眺望できた。腰を下ろして休んだが風がなく暑い。槍の尻根まで引き返し昼食にする。谷から吹き下る風は口じっとしていと寒いくらいだ。

池が気になり早々に引き返す。登山道から短い下草の中を池に下る。晴天続きで池はいくぶん小さくなってはいるが、かなり大きな丸い池だ。底深約10mほどありそう。まわりの黒い土はヌク場になっていて、動物が寝転んだ跡もあり跡の跡がいっぱいだ。けもの道が緩衝に延びている。北に続く深い谷のけもの道を通ると鹿の足跡があった。人が全然入らないセキノコバの雑林は、短い下草に覆われ、鹿の溜り場になっている。まさに鈴鹿のユートピア、別世界のようだ。登山道からは死角になっているので、こんな近くに池があるのを誰も気がつかないさうだ。大陰の柔らかな草の上に寝転び山の静寂を楽しんでいると、今にも鹿が跳んできそうなきがした。

一面短い笹に覆われている雑林の中に細長い窪地があるのが見えた。窪地の手前に何か光るものがある、池か？ 登山道を急いで登り、光るものの真上あたりで右に進んで確認した。やはり池だ。こんな所に池がある。

なほ、このセキノコバは倉屋川の支流・大天谷の源頭に当たる。茶屋川の焼尾谷の途中から大天谷の北斜面に回り込んで延びている林道がある。これは大天谷の源流に

70〜80年の杉の森があり、その杉を切り出すための林道だと聞いた。近い内に切り出しと植林が始まると思われる。この林道を利用して大天谷の源流からセキノコバ、槍ヶ岳に登るルートも面白そうだ。
(平成6年9月15日歩く)

▲コースタイム▼

石崎峠(30分) 重松岩(40分) 竜ヶ岳(15分)

遠尾尻根分岐(60分) セキノコバ分岐(20分)

槍ヶ岳(2時間50分) 石崎峠 ▲地形図▽製文社「44室仙・伊吹・藤原」

(宮野 明)



エリア別 徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑭

黒尾山から南東尾根へ

八區街道を水源寺^{（小坂）}に向かう道筋から正面に台地状の目立つ鞍線が望めるが、この鞍線の北の端のピークが黒尾山(△948.7)だ。この尾根を鎌子ヶ口に向かって南東に進むことになる。北斜面は植林がほとんど終わっている。送電線の鉄塔に登る遊根路があり、この道を利用して登ることが出来る。そして西側に続く稜線は鈴鹿でも屈指の素晴らしい樹林の尾根が続く。鞍形に下る稜線では、西側がスパッと切り取られた深いガレキ場になる。その先の100〜80mのピークからは360度に近い大パノラマが展開する。復路は鎌子ヶ口への登山道を白雲尾に下ると、町営バスの15時21分発か17時42分発が利用できる。

水源寺ダム左岸の401号線を進むと左に大杉の茂る大瀬神社があり、神社の横の道路脇の広場に駐車する。8時30分出発。

山に向かって斜めに登る道があり、辿るとすぐ支尾根に着いた。鉄塔の黄色い表示板があり道が分かれている。右折して支尾根に登るが、なおも直進して少し下ると鉄塔がありその横で水も確保できる。尾根には赤いテープ印が続いている。左斜面は杉の植林、右は大きく茂る自然林、その間を折り返しながら登っている上の方でバサバサバサと音がする。山鳥かと思いつつ近くに近づくと、目の前に動物が現れた。猪、いや狸だ。驚いた狸はチョコチョコチョコと必死に逃げるが、重い金球を引きずるようにして、短い足は土砂の中だ。左斜面を落ち葉や土砂にまみれながらつんのめって流れるように落ちていった。真下には道路が見える。こんな大狸近くにいる理を追い回す大もへいはいないようだ。夜行性の狸に出会ったのは久しぶりだ。

水源寺ダムから黒尾山を望む



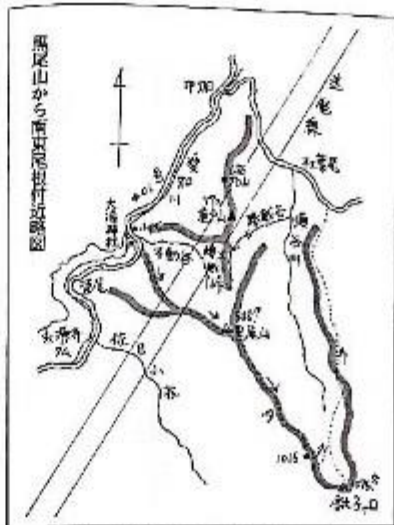
真上に鉄塔が見えてくると道が分かれた。右は鉄塔へ登る道、左折して次の鉄塔へと向かう。植林の中を登りつめ鉄塔の下に着くと北東に展望が開けた。水源寺ダムの先に湖東平野が広がっている。小休止の後、支尾根に登った鞍部で道が分かれた。遊根路は山腹を巻いて右に緩んでいるが、支尾根を直進すると赤い杭とテープの印が緩んでいた。やせ尾根の急坂が続き、途中ひと



台地状の南東風根

広い谷を須谷川に向かってストレットに下る。須谷川を少し下って右岸の杉植林の中を谷に沿って進ると、鎌子ケ口への登山道に出た。

紅葉尾のバス停には15時間に着いた。バスは21分発だ。国道沿いの酒屋に行きビールを飲みながら話し込んでいた。バスが来て停まっているのが見えた。慌てて行こうとすると、手を挙げるとどこでも平まってくれますよ、と言うので、酒屋の前で



からこの山の山腹へと続いていた。左斜面は植林、右は自然林が続く。緩い下りから最後の登りに変わると生え込みがひびく。だが、小枝をかき分けテープの印を辿って紅葉尾の山頂に着いた。

三角点は大きく茂る樹林の中で展望はないが、東の峰に出ると展望が開けた。竜ヶ岳から釈迦ヶ岳へと続く稜線、そして尾元から鎌子ケ口と続く樹林の冠根の右に深谷山・雨ヶ岳・ダイジョウウと続いていた。眺望を楽しんで右にいったん下った鞍部から緩い登りを辿ると、テープの印は消えたが、尾根は切り開かれ赤い杭が続いていた。ゆつたりと大きく茂る樹林は青むしっている。谷から吹き上りてくる風が何とも心地好い。イワカガミの群落も現れた。ほとんど平坦な稜線がどこまでも続き、右下に永源寺ダムが樹間から見え隠れる。緩い下りに変わると尾根は次第に細くなり、やせた岩稜に変わった。急に前方が開けた。眼下には深く切れ込んだ佐目小谷の樹海がイブネへと続いている。その右にはダイジョウワ・カクレグラと続く稜線、そ

息つける平坦な所もあるがすぐ急な登りに変わる。道は不明瞭になるが雑木の尾根にはテープの印が続いている。やがて後方に展望が開けた。

湖東平野が大きく広がり、その中央には近江富士、琵琶湖はほんやりと大きく、その先は比叡山から比良山系へと続く山並みだ。愛知川は大きく蛇行しながら右奥に消えている。小休止して隙間を楽しむ。さらに登りつめると北に展望が開けた。正面が黒尾山の山頂、左には雲仙山、御池岳、藤原岳と続いている。頭陀ヶ平から延々と続く送電線は、黄瀬川に下って正面の彦戸山

からこの山の山腹へと続いていた。左斜面は植林、右は自然林が続く。緩い下りから最後の登りに変わると生え込みがひびく。だが、小枝をかき分けテープの印を辿って紅葉尾の山頂に着いた。

三角点は大きく茂る樹林の中で展望はないが、東の峰に出ると展望が開けた。竜ヶ岳から釈迦ヶ岳へと続く稜線、そして尾元から鎌子ケ口と続く樹林の冠根の右に深谷山・雨ヶ岳・ダイジョウウと続いていた。眺望を楽しんで右にいったん下った鞍部から緩い登りを辿ると、テープの印は消えたが、尾根は切り開かれ赤い杭が続いていた。ゆつたりと大きく茂る樹林は青むしっている。谷から吹き上りてくる風が何とも心地好い。イワカガミの群落も現れた。ほとんど平坦な稜線がどこまでも続き、右下に永源寺ダムが樹間から見え隠れる。緩い下りに変わると尾根は次第に細くなり、やせた岩稜に変わった。急に前方が開けた。眼下には深く切れ込んだ佐目小谷の樹海がイブネへと続いている。その右にはダイジョウワ・カクレグラと続く稜線、そ

- △コースタイム▽
- 大滝神社(50分) 鉄峯(1時間10分) 黒尾山(30分) ガレ場(45分) 10016峰(10分) 数盛(20分) 登山道(1時間30分) 紅葉尾
- △地形図▽2万5千 御在所・日野東部 図文社 145御在所・鉄ヶ岳 (三野明)

手を挙げてバスに乗り、永源寺ダムの手前小代で降りた。

なお、紅葉尾から鎌子ケ口に登り、復路にこの稜線を下る場合は、黒尾山で尾根が分かれるが、直進して、下りの左斜面植林の中に一際大きく茂る檜の大木がまばらに続いている。この檜を目印に下ると彦戸山(676m)へと続く支尾根にのることができる。尾根にのるとすぐ自然林の中、急な下りが続き、やせた岩稜の素晴らしい尾根に変わる。下り終わると腰越峠だ。すぐ上に鉄塔があり、巡視路が彦戸山を越え紅葉尾へと通じている。このルートも巖が多く以前歩いた時は二頭に出会った。

皆さん、黒尾山の裡も待っていますよ。(平成6年10月22日歩)

の奥は雨を戻、そして湖東平野へと続いていた。この稜線の西斜面には、盆栽にする岩根(岩ひび)やしのぶが生えている岩場もある。急な下りに変わると右側がスパッと切れ落ちたガレの上に出た。やせ尾根の急な下りを大を割んでゆつくり下る。鞍部からは広い稜線になり登りが続いた。

前方の樹林の中に何かがある。鹿だ、あつという間に右の斜面に消えた。そのあとビョーと深い音がした。ほかにも何頭かいるようだ。ゆつくり登っているも前方でバサバサと音がして右斜面に消えた。これも鹿だった。登りつめていったん下った鞍部が日溜りの広場になっていた。

腰を下ろしてゆつくり昼食。小鳥の音がするだけの静かな広場だ。曇天でもしたい気分だが先を急がなければ、10016峰に向かって緩い登りが続いた。湖大と草原の10016の山頂は360度近い展望だ。左には釈迦ヶ岳、そして南に落ち込んだハト峰の先に四日市と伊勢湾が遠望できた。正面には鎌子ケ口、右は琵琶湖だ。ここで小休止。緩い下りから次のピークに登るとハゲた荒地が広がっていた。この山頂からは特に近江側の眺望が素晴らしい。ゆつくりしたい所だ。下り終わった鞍部から左に

キャッツの来だ!

至

知能と良品をお届けする店

10分間おしゃべり

10分教える

100点満点の商品

を売る店

アドスポーツ

営業時間10:30~19:30 定休日 毎週火曜日

〒570 姫路市東辻井2-6-37 ☎0792-97-8098 Fax0792-97-5332

カクレグラ (水谷岳)

カクレグラ(2990・1位)は水鏡寺^{ミヅキョウジ}の南に聳える峰で、2等三角点が設置されているが、近い割には目立たない山で登る人はほとんどいない。北斜面と稜線の北東斜面は植林が終わり、現在下刈りが進んでいる。山腹を送電線が横切っているため鉄塔に登る巡視路がある。この巡視路を利用して稜線に登りカクレグラへと通るルートは、西北東に素晴らしい展望が得られる。山頂からは南西に雄大な展望が開け、双耳峰の雨乞岳を中心とした広大な山域と、眼下には湖東平野と琵琶湖、そして近江富士が箱庭のように納まっている。

水鏡寺ダムの上に佐目の集落があるが、トンネルを出るとすぐ左側に大きな広場があり、集落の駐車場になっている。ここに車を駐めて9時過ぎに出発。集落の中心から右折して集落を通り抜け、山に向かって

登りきった左側の高台に若宮八幡神社がある。横に塔屋^{タヤ}・金明神の小さな社もあるので、参拝してから山に向かう。すぐ山道に変わり杉林の中、左の谷に向かって緩い登りが続いている。道は今回の台風で川のようになったらしく、落ち葉は全部流され地肌が出ていた。谷に近づくとつれ、流れの音が次第に高くなってくる。

谷には集落の人が繰出で川に入り、取水口の掃除をされている。土砂がかなり入っているようだ。谷はこうこうと凄まじい音を響かせ白い滝の帯となって流れ落ちていく。聞入者にびくびくして全員が仕事の手を止めて、話しかけてきた。カクレグラに登ると言くと、「一人でですか」と全員驚いている。いや何回も登ってますからと、飛び石伝いに何とか谷を渡った。麓の人でも東山のカクレグラを良く知っている人は

銚子ヶ口山系からカクレグラを望む

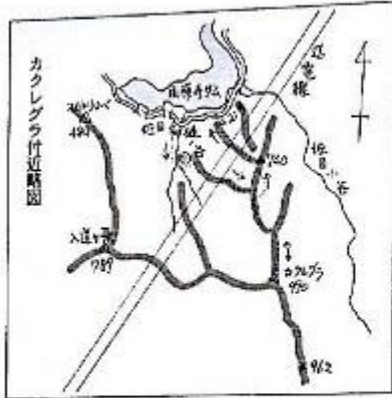


少ないようだ。

谷の橋に「山火事注意」の赤い垂れ幕があり道が分かれた。右は入道ヶ原の稜線に向かう道だ。左にとり支尾根を回り込むと、左下に谷が現れ、凄まじい音が聞こえる。谷には滝が続き、こうこうと白い飛沫を上げ勢いよく落下していた。杖でバランスをとりながら岩を跳んで渡る。杉木立の中を左斜めに登ると支尾根に出た。尾根の左斜

面は枝打ちと下刈りが終わったばかりのようだ。整備された道が尾根上に続き真上に鉄塔が見えた。後方に展望が開けてくる。鉄塔の下を通り次の鉄塔で一眼、西に展望が開けた。眼下は茶色の水を湛えた水鏡寺ダム、そして愛知川が大蛇のようにながらながら扇形に開けた湖東平野に消えている。正面は巨大な日本コバの山塊、その山肌を雲の影がゆっくりと流れて行く。

登りだすとすぐ十字路に着いた。左右は巡視路だ。直進すると道は右側植林の藪の中に消えている。尾根の左斜面は稜線まで下刈りしてあるようだ。下刈りの境目を直



進すると黄色の杭が打ち込んでありよい目印になった。稜線に着くと北東に展望が開けた。眼下に佐目小谷の渓谷、そして黒尾山から銚子ヶ口・イブネへと続く稜線、北に続く稜線の植林の中に赤松の太木が残されているが、立ち枯れの白い木が多く異様な光景だ。稜線の左斜面は植林して間がなく橋脚に下刈りしてある。いったん下ると急斜面の登りに変わった。赤い杭が植林の境目に続き、古い道は横の雑木の藪の中に続いていた。喘ぎながら登っていると、谷からの涼風に乗り、草刈機の音が聞こえてきた。休み休み振り返るが人影は見えない。登りつめるに従って展望が開けた。北に天狗堂・御池活・磯屋岳と続き、眼下には湖東平野と琵琶湖方面が展開した。

右に続く自然林の稜線を通ると緩い下りから登りに変わり、雑木の中に古い道が続く。登りつめると樹間から右前方にカクレグラが望めた。このピークには「ここは900級のカクレグラです」と書かれたプラスチック板が木に取り付けてあったが、三角点も確認せずに間違えた表示である。取り外してカクレグラに向かう。少し下ると緩い登りが続き深い樹林の中目印となった赤い杭を通るとカクレグラ山頂に着いた。

広い山頂は樹林に閉まれ展望はない。三角点の横の杭にさっき外したカクレグラの表示板を取り付けた。北に少し下ると樹林の間から西に展望が開けた。

今までもつと湖東平野を眺めながら登ってきたが、やはりここからの眺めが一番だ。入道ヶ原へと続く稜線の先に広大な湖東平野と愛知川、そして近江富士、琵琶湖は霞の中にぼんやりと広がっている。その先には比叡山から比良山系と続く山並み。豪華な眺めをゆっくり楽しみ、山頂から南に少し行くと左に黒松が二本あり、その先端に出ると前方が大きく開けた。左は銚子ヶ口の稜線から深谷山・イブネ・杉峠へと続き、その手前ダイジョウから尾元へ続く稜線は深い樹林に覆われている。中央に一際高く聳える双耳峰の雨乞岳は、右にゆったりと肩を落として清水ノ頭へと続き、大峰に落ちて又急角度に突き上げたイハイガ岳、そして輪向山へと続いている。左下には佐目小谷が、深い樹海の中多くの谷を左右に配して佐目峠へと突き上げている。前の週に蕨切谷の支谷、向平谷からのカクレグラに登ったが、ガスで展望がきかず高い山は見えなかった。

そして今日は静寂の中、一人で雄大な眺

おとうら
近江の展望台

にゅうどう
入道ヶ原

2等三角点のカクレグラ(990・1)から西に派生する尾根は、入道ヶ原(△789・6)で北向きを変え、スモトリコバ(△484・0)へと続き、相谷の集落で消えている。この尾根から湖東平野に突き出た入道ヶ原とその東のピークは、眺望が素晴らしい近江の展望台とも言える。

カクレグラの山腹には送電線が通り、入道ヶ原の東の尾根を越え縮向山山系へと続いているが、この鉄塔に登る巡視路を利用すれば案内標に登ることが出来る。

佐目集落の大きな駐車場から歩きだしてすぐ右折し、集落の中を通り山に向かって登りきった左の高台に若宮八幡神社があり、その横に山に入る道がある。杉林の中、左斜めに緩い登りが続き谷に着いた。谷を右岸に渡るとすぐ道が分かれ、右にとり、「山火事注意」の赤い垂れ幕の横を通り、

谷を左岸に渡り返して上流へと向かう。道は谷の右斜面の杉植林の中を高巻きしながら続いた。谷の左上としてその奥の右上にも鉄塔が見えてきた。左斜面の鉄塔に登る道の分岐を過ぎると次第に谷に近づき、谷を渡って右岸に道が続いた。夏の台風で谷が荒れ、道が消えている所もあるが、すぐまた道は続いていた。

谷を左岸に渡り返して上流へと向かっている。右斜面の雑木の中に異様なものが見えた。故り敷いた鮮やかな落ち葉の中から鹿の角が二本出ている。近づいて角を持ち上げると頭骨がついている。近くには背骨と足の骨だけが残っていて、骨のまわりの地面を毛がびっしりと覆っている。肉は全て土に返ったようだ。骨格を見ると、かなり大きな鹿だが角は一回り小さい。この山はほとんど植林のため、環境が悪化し、

入道ヶ原より湖東平野



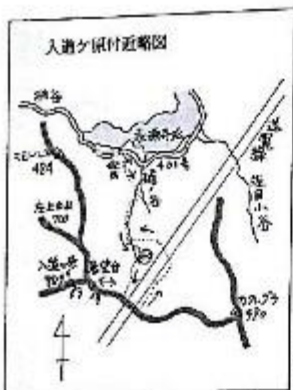
角が伸びなかったのだろうか。こんなに集落に近い整備された巡視路の横で、鹿の角が発見できることは驚きだ。ビニール袋に入れ、ザックにくくり付けた。

右斜面を折り返している道に登ると左に鉄塔が現れ、後方に展望が開けた。佐目の集落と水原寺ダム、日本コバ、奥には御池岳・黒尾山と続いていた。

急坂を登りつめると緩い登りに変わり、植林の中に見える大木が現れた。左前方に鉄塔が見えると道は緩い下りに変わるが、右に続く尾根に切り開きの植道が下っ

ている。入り口に印を付けておいた。

右折してこの道を入道ヶ原へと向かう。左斜面は二、三層に育った櫛の植林が続く。右は雑木と灌木、斜面は櫛の植林が続いている。道のはっきりしない稜線には赤い杭が続いていた。赤い杭を辿り緩い下りから左に登り、右に緩い下りを過ぎ登ると尾根も次第にはっきりしてきた。後方に展望が開け、左にカクレグラ、右に雨乞岳と縮向山が望めた。さらに緩い登りを登ると左にガレ場が現れ、黒松の続く道を登りつめると、菅原が広がるピークに着き一気に展望が開けた。植林して間がないため広大なススキの原が展開、右前方に入道ヶ原が望めた。緩い下りから登りつめると山頂に着いたが雑木と藪に覆われ展望はない。左に続



くガレの上の細尾根を進むと切り開きがあり、前方が大きく開け三角点に着いた。

湖東平野が眼下に広がり、愛知川が大きく蛇行しながら琵琶湖へと注いでいる。琵琶湖も比良山系も霞の中だ。右は白鹿背から柳立山へと続く稜線だ。ゆっくり眺望を深しめ、引き返して菅原のピークを右の端に進むと、伐採した丸太が転がっていて最高の休み場所だ。300度に近い大パノラマ、眼下には箱庭のような湖東平野、その中に近江富士も望めた。東にはカクレグラからタイジヨウと続く稜線、イブネから雨乞岳・潜水ノ頭、中央には向山から甲津畑へと続く稜線、そして右は縮向山から竜王山と続いている。

展望を楽しみながらゆっくり昼食。このピークもそのうち櫛の植林に覆われてしまいうだろうが、当分は素晴らしい眺望を楽しめそう。食事をしていると、目の前の菅原の鞍部でバナバサバサと言がする。ススキが揺れて何かがちらに近づいて来るが何も見えない。すぐに尾根の切り開きに出て来た。鹿だ。一頭の鹿が頭だけを見せ、すぐ左の植林の中に戻った。

巡視路まで引き返し右折して鉄塔に向かう。緩い下りと登りが終わると菅原の広場

になっている鉄塔の下に着いた。小休止の後、巡視路を進み次の鉄塔を過ぎると、尾根の左斜面の雑木の中に道が続く、左斜めに下ると山腹の巻き道に変わった。植林の中に整備された巡視路は、谷の源流を大きく回り込んで支尾根を下り、鉄塔の下に出た。左下の谷に向かって折り返しが続き、谷を渡ると往路の道に出た。

なお、入道ヶ原からスモトリコバへと続く尾根も歩いて見たが、サルトリイバラが絡みつくほど、藪が生え込んでいた。下刈りが終わるまでは当分歩くのは無理のようだ。スモトリコバに直接登るには、相谷口のバス停から入り、藪の印を辿ると西の谷から尾根に登ることが出来る。尾根をつめるとスモトリコバに着く。山頂からは西に展望が開け、湖東平野が望める。

(平成8年11月23日歩く)

△コースタイム▽

佐目村(20分) 桶ノ谷(15分) 被線(40分) 入道ヶ原(40分) 鉄塔(30分) 往路(35分) 佐目村

△地形図▽2万5千:日野東部

昭文社「45御在所・鎌ヶ岳」

(佐野明)

稽古照今『記・紀』を歩く④

南山の辺道 (大和王権三代 崇神・垂仁・景行の道)

① 榊原神社 (大和郡榊原町) ② 大輪神社 (大和郡大輪町) ③ 大輪神社 (大和郡大輪町) ④ 大輪神社 (大和郡大輪町) ⑤ 大輪神社 (大和郡大輪町) ⑥ 大輪神社 (大和郡大輪町) ⑦ 大輪神社 (大和郡大輪町) ⑧ 大輪神社 (大和郡大輪町) ⑨ 大輪神社 (大和郡大輪町) ⑩ 大輪神社 (大和郡大輪町)

中村敏文

日本最古の道として人気のある「山の辺の道」の文献上の初見は、『日本書紀』の垂仁天皇元年冬十月の条に「御間城(御間城)天皇を山辺道上(山辺)に御り申しあげた」とある。次いで成務天皇二年冬十一月の条に「大足彦(景行)天皇を倭国の山辺道上(山辺)に御りまつた」とある。

現在の「山の辺の道」は三輪山(山麓)から大和郡原の西山麓を伝い、奈良の春日山麓に至る曲折の多いハイキング道で、古代の山辺道や彌夜僧が奈良と長谷寺を往復していた道と同一ではない。観光主体の古道として徐々に整備された道であろう。今回は日本書紀に始めて「南山の辺道」をたどる。

① 磯城嶋から山の辺道へ(榊原町) 山の辺道へは榊原町北口から古代の磯城嶋

嶋を歩き、榊原市の外山沖水堀内の欽明天皇御宮跡に立ちよる。そのまま東へ直進して三輪山麓の東海自然歩道へ入るか、北進して大向千橋で初瀬川(大和川)を渡り金屋集落の山の辺道(上辺道)に入る。

有名な異君として記録に残る武烈天皇が影姫と収めさせた海防備市跡には、つばいち観音堂への参道口に万葉歌碑と顕彰の立札がある。古代は大和川の船着場や、市や牧場の場として、平安時代は長谷寺詣での休憩・宿营地として栄えた聖所である。金屋の上折道から道標に従い山坂の小道に入ると、喜多美集落前の鉄筋のお室内に重文指定の金屋の石仏がある。高さ2.12mの二枚の石塔に浮き彫りされた像は、右側に釈迦如来、左側に弥勒菩薩像で平安末か鎌倉初期の作との説がある。

して朝野の信仰厚く、明治には官幣大社に列せられ、幅広い信仰を集めている。大物主命を主神に大己貴命・少彦名命を配祀するが、江戸時代には三輪神領六〇石、若宮の大御崎寺(おおみわじ)が三丁石、平等寺が八〇石の朱印状を受けている。

現在、数十億円の浄財を集め平成の大造営工事を進めているが、国重文指定の拜殿(徳川家綱が高取藩榊原家吉を奉行として一六六四の寛文四年に再建)と明治一六年再建の三輪御居(三輪御居)も、旧態を残して再建する計画である。

新築された参拝若休憩所で一息入れて、しずめの宮・華道社の秋井神社へ向かう。御社の神とされる大輪神社(秋井社)と五十鈴地の他に三輪を祭祀する。4月18日に



は吉合根・忍冬(にんどう)などの熱帯を供え、全民の製菓業者が参拝して鎮華祭が行なわれる。

② 禁足地である三輪山の麓や山頂の高宮社への参拝は、秋井神社で許可のタスキを受けて上り一時間の山坂道を登る。

③ 秋井神社から山の辺道の東海自然歩道に戻り、ハイカーのための休憩所から女宿庵を経て榊原神社までは1.3kmの地帯である。狭井川を渡る人園園宝の月山刀匠の家があり、その横に神武天皇聖跡の顯彰碑や口舌の伊弉諾余里比売の歌碑がある。拾原神社は三輪御居(三輪御居)を通じて御社の三輪山を拝する神威のない社で、崇神天皇が天照大神を移したとする笠縫邑

② 磯城嶋(御木水堀宮) 伝承地

金屋右松前の天理教教區大教会と志賀御厨坐神社境内に、大和政権樹立の第十代崇神天皇の宮跡といわれている。大和の六所に築られた御厨神社の一つで式内の大社である。祭神は大己貴命や御厨の魂などと諸説があるが、今は金屋集落の氏神である。春日の率川宮で即位した崇神天皇は三年後の秋に都を磯城に移した。湿地の多い古代大和盆地東限の養高地で、大和川と山麓とで、水運・陸運ともに良く、政権の場にもふさわしい要地とみただろう。

天皇は、皇祖神の天照大神を笠縫邑に、大輪大神を宮中から移して祭祀し、三輪山の大神主大神を大田田根子に祭祀させ、四道將軍を派遣して大和政権の勢力を拡大したと記されている。

③ 大和園一の宮 大神神社(三輪山) 御厨社から山の辺道に戻り三輪山麓を伝うと、榊原町から平等寺を経て大神神社境内までちょうど3kmの道のりである。

④ 三輪山から東へ向かい、巻向川中流の東谷で山辺道に入り、小大・田原本線を西へ下り、おかげ灯籠の少し西から地帯に入る。曲がりくねった穴師の山の辺道を抜けると、穴師坐兵主神社の参道にでる。拾原神社から1.5kmの参道の右側に相模神社の小さな社がある。野見宿禰ゆかりの地といわれ相模刀工も参拝する。

穴師坐兵主神社は大兵主神社と巻向坐若神神社の式内の古社が集められ、明治六年に御社となり、翌年には社殿三棟を並べて再建している。

兵主神社から参道を引き返すと右手に最行天皇百代宮跡の碑がある。古代の大集落があったといわれる進向は、日本書紀の垂仁・景行天皇の条に都を遷向に移すと記されている。垂仁天皇の珠城宮跡の石標は珠城山の西、長谷原集に建てられている。

⑤ 景行・崇神(天理市洪谷・御木) 兵主神社参道から北へ向かう山の辺道はのどかな田園の風景で、0.7kmも歩くと天理市洪谷の皇行天皇陵の後門部東側に

和佐又山から大普賢岳へ

松永恵一



笹の窟

聖の食べ物
 大峰 行ふ聖こそ
 あはれに尊き ものはあれ
 法華経 誦する所はして
 誰かの正体 まだ見えず
 『法華経』巻二 1-8-8
 修験者は厳密に守り、忌布を焚、松を割
 い、水垢離をとって世俗の垢をそぎ、人
 間と世の中の罪やけがれを除くべく苦行す
 るのである。

平等院御正行尊は大峰修行に白米七升を
 携行したが、笹の窟で破れ切った山伏にほ
 どこしになり、ほとんどなくなってしまう
 た。『古今著聞集』は伝える。山野修行中
 の常食は、持参の米のほか、山に自生のも
 のを利用すると『梁塵秘抄』は巻二に伝える。

聖の好むもの
 比良の山こそ尊めなれ 第二道りて
 松茸 平茸 滑海
 さては池に宿る蓮の露
 櫻餅 櫻餅 牛蒡
 河骨 湯治 蕨 土筆
 建き山伏の好むものは
 味気無 凍てたる山の芋
 山菜 糗米 水筆 沢には根芹とか
 『本朝法華験記』に載せられている時
 比較山西著の宝徳院の附随は南部の牟田寺
 で仙人になる方法を会得した。初めは穀類
 を絶ち菜食のみとし、次には菜食を離れ果
 実のみを食し、そしてこれも止め、粟一粒
 のみを服する。かくして悶勝は仙人となり、
 芻藁を松の枝にかけ、空に飛び去った。

笹の窟
 笹の窟は、大峰山中の数ある行場の中で
 最も早くから開け、十百代末から中世を通し
 て、大峰山に入ってはげしい修行をした数
 多くの修験者が冬籠もりをした聖地。
 聖の窟の窟にこもりて詠める。
 寂滅の 苔の岩戸の しづけさに
 涙の雨の 降らぬ日ぞなき
 『新古今和歌集』巻二十 聖歌歌 1-9-24

『寂滅無人声、詠此歌』という法華
 経の釋文そのままの、苦むした岩戸の家の
 物言ひとつないけけさに、法悦のために
 流す涙の雨が降らない口はない。
 日蓮は漢學者三途修行の弟。十二歳で金
 峰山に入り修行。はじめ道賢、のちに日蓮
 と改名。『扶桑略記』所収の「道賢上人冥
 土記」で知られる。天慶四年(941)八月
 二十、二十七日間の無言断食行中に死去
 したが、十二日に蘇生したという。冥途
 で菅原真実、醍醐天皇に逢った話は有名な。
 『平治物語』に、日蓮が笹の窟で修
 行中、鬼に出逢った話がある。

身の丈七尺ほど、かっただの色は紺青で、
 髪は火のように赤く、首が細く、胸の骨は
 ここのほか出、張って白張っており、眼は
 ふくれて、はきは相い姿の鬼が、合掌して
 泣く。「おまえはいつたいつたうい鬼か」と
 聞く、鬼は涙にむせびながら答える。
 「私は四、五百年も昔の者ですが、人のた
 めに恨みを残したので、鬼の身となりました。
 た。そしてその敵を廻いの通りにとり殺し、
 その子や孫、ア孫にいたるまで、一人も残
 さず殺して、今は殺すべき者がなくなりま
 した。が、怒りの炎は前と同じように燃え
 ています。私一人、尽きさせぬ怒りの炎に

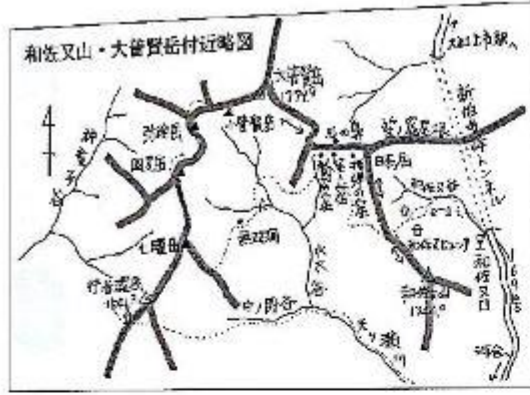
燃えこがされて、どうしようもない苦しみ
 を受けています。こんな心を記こさなかつ
 たなら、藥業や天界にも生まれ変わったで
 しょう。このほか恨みを残して、こうい
 う身となって、はかり知れぬ水劫の苦し
 むを受けることが、どうしようもなく悲しい
 次第です。人のために恨みを残すのは、つ
 まりは、わが身にかえってくることなので
 した。敵の子孫は尽き果てました。私の命
 は異てありません。前もってこういう子
 細を知っていたら、こんな恨みは、残さな
 かったでしょう」と言って、涙を流して泣
 くこと限りがない。その間にも頭の上から
 炎がだんだん燃えだした。そして山の奥の
 方へ歩いて入って行った。
 日蓮上人は氣の毒に思い、その鬼のため
 に、さまざまの罪滅しになるようなこと
 などを、なされたといっことである。
 行尊は、靈感源基平の子。天台座主とな
 り平等院大徳止と呼ばれ、笹の窟の禪定は
 著名で、『撰集抄』に笹の窟の物語が載る。
 草の庵を なに擧げしと 思ひけむ
 もらぬ岩やも 袖はぬれけり
 草庵の生活をどうして断つぞいと思つたの
 ださう。雨のもらぬ窟の中だが、涙で袖
 が濡れてしまっているからなのだ。

行尊の大峰山中で様を見て詠んだ歌は、
 小倉百人一首によってよく知られている。
 大峰にておもひもかけずきらの花の
 咲きたりけるをきて詠める
 もろともにも あはれと顔へ 山桜
 私がおまえのことを心なつかしく思つよう
 に、おまえも私をなつかしく思っておくれ。
 山桜よ。こんな山奥では、私の心を知って
 くれる人はいないのだから。
 行尊を詠った西行は『山家集』に歎した。
 朝屏より笹の窟へまゐりけるに、「もろも
 いはやも」とありけむをり、おもひ出で
 れて
 胸もらぬ いはやも袖は 濡れけり
 聞かずはいかが あやしからまし
 『山家集』中 雑 9-1-1
 胸も濡らない笹の窟でも袖は濡れたことだ
 と歎まれた事を知っていなかっただらば、
 こころも参りして自分の加が濡れたことが
 どんなにか不審に思われたことであろう。
 寛永九年(1632) 茨城に生れた純修
 りの伝説で著名な円空は、好んで山岳に登
 り、窟に住んだ。笹の窟に籠もり承んが歌
 こけむしる 笹の窟にしきのへて
 長き夜のこる 法のとほしみ



和佐又山からの展望

コース概観
 今回のコースは、春は新緑、夏は涼を求め、冬は良質の雪のスキー場として知られ、四季を通じて訪れる人が多い和佐又山(1344.0m)に一泊し、行旅をはじめ数多くの修験者が冬嶺もりをした霊地「笹の窟」から、統一の大岩壁に囲まれた大菩薩岳(1770.9m)に登る。



少し下ると山岳帯に驚きの窟がある。間口の約10m、奥行き約20m、役行者と前鬼の後像が彫られている。笹の窟と驚の窟の背後を見上げると恐ろしい。この岩峰は日本ヶ岳と称される。両面をからんで急峻な岩の谷を登り鞍部に出る。トウヒとウラジロモミが美しい。さらに岩の間を通り

鉄梯子を登る。登りきると道は水平となり東に突き出た岩場に続いている。

ここが石ノ鼻と呼ばれている巨岩の展望台。岩上に立てば南から北東一帯の景観がすばらしい。行者遺傍、弥山、釈迦ヶ岳、そして大台が原から延々波濤を描く台高山脈まで一望のもと。双眼鏡を取り出し、ゆくりと眺望を楽しむ。足元に目を落とすと石楠花やスイカズマ、シロヤシオが咲き競っている。

ここからさらに急峻が続く。岩場の中にうまく登山道が付けられ、岩壁に鉄網が架けられている。石楠花の密生する小菩薩岳(大菩薩岳の北方に同名のピークあり)の頂を越え、急坂を登って、大菩薩岳の鞍部を経て、さらに登り直すと大菩薩岳の北の頂に着く。ここで奥街道に合する。奥街道は大菩薩岳の頂上を踏まじ、西側をからんで通過しているので、左へ戻れば道を登る。6分も登ると大菩薩岳の頂上である。低い薪木に囲まれた狭い頂上に3等三角点の礎石が埋まる。

下山は鉄梯子や鎖にしつかりつかまっつて気を抜かないで、落石などを起こさないよう、ほかの登山者とのすれ違いにも気をつけながら、あわてず慎重に行動したい。

近鉄吉野線の大和上市駅で下車。駅前から奈良交通バスの杉の湯連絡新宮駅行きに乗る。和佐又山へのバスは一日1便。午前9時55分発は和佐又山11時28分着。もしくは午後13時25分発で15時08分着が便利。新伯田峠トンネル(全長1963m)を抜けた和佐又山で下車。和佐又山沿いの林道に入る。左右に秋色を染しみながら幅広い舗装された林道を歩く。いつしか道は左岸から右岸に移る。バス停から約15分。道標に従って林道を離れ、谷沿いの小道に入る。沢伝いの小道はまもなく樹林の中を登る。ススキやササに覆われたスロープが美しい広がりを見せると、メルヘンチックな和歌文ヒュッテの建物が目に入って来る。今夜の泊まりはヒュッテのお世話になる。旅館が許せば、雄大な自然に包まれてテントで星降る夜を過ごしてみよう。

翌朝、清々しい空気のゲレンデを通過してスキー場の上に出る。別荘者の別荘が立っている。雑木林の中を進むと鞍部に出る。道標が立ち、ベンチが二つ佇良くなる。和佐又山の頂上を踏む。3等三角点の礎石がある。本誌「せせらぎ」でお馴染みの上田啓弘さんのアウトラリア教室記念の立て札がまぶしかった。鞍部まで引き返し、

熊取洞への道を左に見て、笹の窟へ向かう。道は見事なブナやモミの木の間を緩やかに登って行く。尾根をつつめると伯母峠の分岐。左へより西面の山腹の道に入る。前方上部に大菩薩が近づいてくる。岩壁の下が抉れてきた指輪の窟に着く。道は絶壁の窟をからむ。鉄梯子と鎖を使うと朝日の窟。さらに登ると三の窟。南面する窟は間口約11m、奥行き約6m、高さは中央部で4mの自然窟。大輪七十五郎の一つで、第六十一石壁になっている。中央に不動明王の石像を祭る。天井からしたたり落ちる滴は右側に溜められている。昔から大菩薩一の秘所とされ、とくに冬の窟龍は山伏の最高の名譽を得るといわれた。

笹の窟の本尊の塑造不助明王尊像は明治初めごろまで洞窟内に安置されていたが、現在は奈良国立博物館に保存されている。三月に、日光の中興開山升寛が源実明の菩提を弔って造立したものとわかる。

平成五年(1993)8月、奈良山岳遊歩研究会が発掘調査をした。平安時代の灰釉陶器や中国・北宋の銅銭「天禧元宝」や水筒製の五輪塔の破片などが出土し、笹の窟の修験が考古学的に立証された。

〈コースタイム〉

- 近鉄阿倍野線駅(特急約1時間5分) 発行約1時間35分 大和上市口駅(奈良交通バス1時間46分) 和佐又山(1時間15分) 和佐又ヒュッテ(泊)
- 和佐又ヒュッテ(30分) 和佐又山(1時間) 笹の窟(30分) 石ノ鼻(1時間) 大菩薩岳(1時間) 笹の窟(1時間) 和佐又ヒュッテ(1時間) 和佐又山(1時間) 大和上市口駅(近鉄阿倍野線駅)
- 〈費用〉**
- 近鉄阿倍野線駅・大和上市駅 800円
- 特急料金 720円
- 大和上市駅・和佐又山 1380円
- 〈地形図〉** 2万2千1000
- 昭文社『56大峰山脈』
- 〈問い合わせ先〉
- 和佐又ヒュッテ 074688(3) 0027
- 奈良交通バス吉野営業所
- 07475(2) 4101
- 近鉄タクシー・市営営業所
- 07468(2) 2961
- 上北山町役場企画観光課
- 07468(2) 0001
- 近鉄旅客案内テレフォンセンター
- 06(771) 3105

海が見える十二支の山

亥谷山

いがたにやま
初級コース(★)
慶佐次盛一

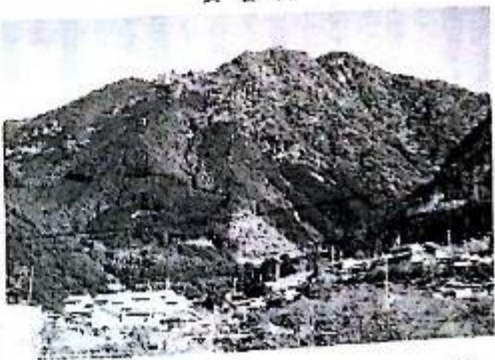
故今西錦司先生が十二支登山を提唱されてから、十二支登山も山登りの一つの形態として定着しつつある。私が十二支登山を始めたのは昭和58年(1983)の甲子の年で、南紀の子ノ泊山からスタートした。子に因む名前の山は非常に少なく、この年は子ノ泊山一巡で終わっている。次に次いで少ないのが未(羊)に因む名前の山だが、これは偶然にも古昔から羊ヶ岳という山名を見つけて登ることができた。

十二支登山の楽しみは、地形図からその年のエトに因んだ山名を探し出すことにある。そして自分の体力と趣味に合った山を選べるという楽しさもある。私はエト尻の亥谷山生れだから、子の年から始めて、私の

エトの亥年までは12年間を楽しめる登山でもある。さて、私の十二支登山も今年の乙亥で一巡することになった。亥は猪で、猪と名がつく山は多いが、エトの亥の字がつく山は日本山名辞典を調べても南紀の亥谷山(Haigayama)しかなく、もうろん亥年の本命の山として最後まで残しておいた山だった。ところが地形図には一本の登路もなく、大峰と紀州の山に詳しい新宮山彦グループの玉岡憲明さんに相談したところ、私達の会との交流例会を組んで下さり、一緒に登ることになった。

新大阪駅深夜発の魚釣り列車で新宮駅着。玉岡さんの用意された車に便乗して、国道4号を経て尾鷲市の賀田に着く。北西に亥谷山のきれいな双耳峰が見えてくる。高圧鉄塔の立っている所が頂上らしい。我々一行、2名の登山を聞いた公民館長・榎本了也氏がかけつけて来られる。普段は脚と真珠森の小さな漁村だが、今年は十二支登山で全国の登山者の注目を浴び、地元では道標を立てたり登路の整備をしていられるそうだ。コースについてアドバイスを頂き、地元の老舗有字で作られた可愛らし

亥谷山



い亥谷山のマスコットまでもあった。思いがけぬ程かい歓迎だった。

館長は高圧線の巡視路コースの往復を勧めてくれたが、最初の予定通りヒヨノ山(「比叡山」と書く)を経て、変化のある東屋根から登頂。巡視路コースを下ることにする。これは玉岡さんが12年前(昭和58年1月15日)に今西先生一行を案内された時の逆コースである。下山地点となる地形図の林道終

点(実際には地形図にない林道が延びている)に車を置いて、東屋根の登山口へ向かう。

林道を下り、緩い登りの車道を東へ進む。美しい賀田湾が足下に広がる。前方右手に神社の森(樹高10m、沢ヶ峰と呼ばれ昔の亥谷山の通称所と推測される)が近づいたら、左側に注意しよう。側溝状の谷の入り口に、「ヒヨ上り口」の小さな道標がある。ここから石段のような道に入る。登るにつれ樹の植生帯となり、踏み跡はすっかりしている。最初の巻き道をそのまま進みがちだが、分岐のテープに注意して稜線にコースをとる。しばらく稜線をたどると再び巻き道が



続き、ヒヨノ山への本格的な登りとなる。

ヒヨノ山は展望はない。ここから東尾根にアンテナケーブル線が続いている。いつしか植生帯から南紀の山らしい暖地性の常緑闊葉樹林帯となり、傾斜もゆるむ。露岩の多い稜線の起伏を越えながら、極間から亥谷山の影も望めるだろう。亥谷山の前山の登りは木の根を掴みながらの急登だ。この辺りにはヒカゲツツジが見られ、テレビのアンテナが立っている。前山のピークをいったん下り、少し登り返すと亥谷山の頂上だ。

2等三角点の頂上。高圧鉄塔が立っているが展望は全開だ。西に対峙するのはゲジ山。高峯山の彼方には、白い雪を置いていた大合ヶ原が闊揚なスカイラインを描いている。幾重にも連なる山並みの北西の奥に、白銀に輝く大峰の釈迦ヶ岳が神々しい。東には太平洋の大海原が輝海と広がるという素晴らしい山頂で、亥年の山では第一級の展望だった。

下山は巡視路コースを下る。館長が勧めただけあって、地元の道標や電力会社の道標が完全に導いてくれるが、露岩も多く、落ち葉で滑らぬように慎重に下らう。途中の鉄塔まで下ると再び賀田湾が見える。こ

の辺りから植生帯に変わり、やがて亥谷山登山口の道標が現れ、梯子を使って新しい林道に下る。後はこの林道を歩くか、途中で右側の谷道を歩いて鉄板の橋を渡り元の駐車地点に戻る。

※ 館長の話では、ヒヨノ山への登りは5月頃はクニが多いとか。また地形図に弱い人は巡視路コースの往復が無難であろう。地元では全国からの登山者を歓迎しているが、ゴミなどで汚さないように。京阪神からは夜行自給りで登山可能な山である。
(平成7年3月5日歩く)

△コースタイム▽

駐車地点(8分) ヒヨ上り口(1時間) ヒヨノ山(40分) 亥谷山(1時間30分) 駐車地点

△地形図▽

2万5千1:1 賀田

△問い合わせ先▽

賀田公民館館長 榎本了也

△電話▽

059721712076

民宿 大勝館

059721712025

好展望を楽しむ

伊予富士

中級コース(★★★) 尾野 益大

「もう一度、あの頂上に立ちたい」というよりも、「ふたたびあの紺碧の空に飛べないかな」と思ふのが、伊予富士である。山頂を極めた喜びのみでなく、遊歩するものない、狭い天辺の爽快感が、得られない喜びを生み出すのだ。例えば、隣接する山々との間に穿つ空間は、まるで割って作られたかのように怒々として、眺める者に対し、一切削りつけがましい印象を与えず、何の圧迫感もない。吸い込まれそうな足下の谷間も高度感に満ち満ちて、いっしょに浩然の氣に浸ってしまふほどだ。晴れ渡った青天のまはりに、視界を欲しいままにすることができれば、きつとその

日の空の色と風の香りは忘れられぬであろう。

北の瀬戸内海や瀬戸内海、瀬戸内海を望む西の太平洋を望むことができる。山頂からは伊予富士の山容が一望でき、山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。

伊予富士山頂から眺める景色

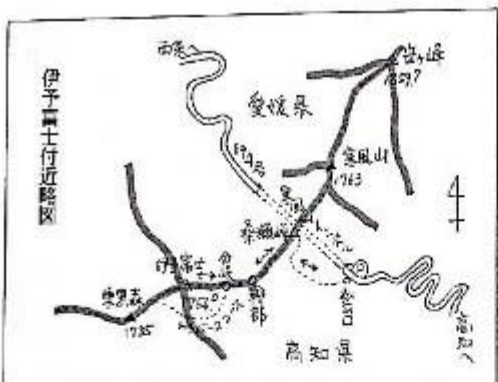


色気得られる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。

いつ来ても北風の吹くには驚かされる。山頂に上って山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。

登山だけでは満足しきれぬ人は登るといいだろう。往復時間もかければおつりがくる。

ここからコースは南(左)へとる。来るたびに拡大している崩壊地の跡を抜け、樹林帯の急坂を過ぎればやがて木陰になった鞍部に出る。ここで初めて目の前に、伊予富士の全容がおおびきになる。尾根は長大な石垣通峰と重なり、この辺りは



山脈の重要な位置に当たる。そのおかげで東の笹ヶ峰や冠山、平家平、西の西黒森、稲ヶ森、石鐘山など名峰が望見できる。トラバース道は縦断で時間を短縮するには便利だが、今日は用はない。縦断路を左に見送ると、まずまず伊予富士が迫って来てそのボリュームに圧倒される。普通ならそのその緩れてくる足も逆になんかきつてくるようだ。最後は頂が出るほどしんどい斜面だが、あとわずかで最上部に手が届く。立ち止まって呼吸を整えながら、背面から見守る寒風山に目をやろう。きつと踏ん張るパワーが湧いてくるはずだ。車を離れてから、およそ2時間足らずで3等三角点のある伊予富士山頂(1756m)に到達することができる。申し分ない展望。愛媛と高知の主要山岳はもうすぐ目を見れば北の瀬戸内海、瀬戸内海、瀬戸内海を望むことができる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。山頂からは伊予富士の山容が一望できる。

「日本山岳史」(高橋式編輯)にも掲載されているところを見ると、この山は往時から人気が高かったと察せられる。もちろん近代登山の始まる以前は、ハイキングなど観光で訪れた訳ではなかったであろう。また村から村への往還道が尾根を縦断し、素材な生活の舞台を提供していたに違いない。桑畑峠などもその一つで、今でもそ残っているが、峠の北麓の瀬戸内の東海へ向けて山道が下っている。この峠や、海側の産物と山村の作物が輸送に行き交ったであろう峠が目に浮かんでくるようだ。身も心も洗われて伊予富士を後にする時、山頂直下は急角度で落ち込んでいるので細心の注意を払ってほしい。

- △コースタイム▽
J及西条駅(車1時間) 登山口(40分) 桑畑峠(40分) トラバース道分岐(30分) 伊予富士(20分) トラバース道分岐(30分) 桑畑峠(30分) 登山口
△地形図▽ 5万5千:1日ノ浦
5万:1日ノ浦、石鐘山
昭文社「22石鐘山」

2等三角点のある山

乗鞍岳と三國山・赤坂山

初級コース(★)

山形 越之

琵琶湖の北方に湖を見下ろせる山として乗鞍岳と三國山・赤坂の山々がある。乗鞍岳には一等三角点、三國山には二等三角点、赤坂山には一等三角点が設置されていて、共に湖北の良い展望が得られる山である。どの山にも登山道があり、簡単に登ることが出来る。山脈は、赤坂山を東に三國山・乗鞍岳へと連なっているが、乗鞍岳への縦走路はなく、登り直さねばならない。

乗鞍岳

三國山と赤坂山
白谷への道を戻って、「三國山黒河津」の道標の所から林道に入る。舗装路はすぐ南に切られた県道となり、車は波に乗ったかのようによたよたと走る。黒河津の手前近くは、案内板の立つ登山口がある。5km



敷に覆われて通行は困難である。二つ下のピークで合流する在原有の道も同様に敷が覆っていた。下山時、林道で道の二層に合流。意外と村に近い所にもいるものだ。在元の村にすれば在原有の道がある。ついでに訪ねてみるのもよいだろう。

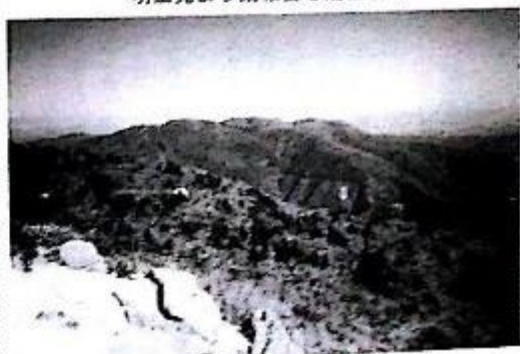
三國山と赤坂山

6台は駐車可能である。道標完備の登山道はすぐ上の林道に入る。少し林道を左に歩いて又登山道となる。やがて尾根上に出ると展望が開けて琵琶湖が姿を現す。木道のある尾根を過ぎ、やがて沢を渡ると三國山の分岐にでる。縦走路を見送ってまず三國山(877m)に登る。ここには二等三角点があり、先に登った乗鞍岳が目の前に広がっていた。高止原が山一面に広がっている。琵琶湖から日本海まで一望できた。

先程の分岐まで戻り縦走路を南にたどる。少し下って右に回り込むと、明王禿の荒れた山肌が目の前に広がる。緑の中にここだけ赤茶けた岩肌が揃々しい。明王禿に出る。この展望も素晴らしい。もう赤坂山は目の前。一条の道が山頂に延びている。少し下って登り直すと二等三角点のある赤坂山(853m)に着く。展望は乗鞍岳・三國山と変わらないが、琵琶湖の眺めはここが一番素晴らしい。マキノの海岸から遠く長浜市街、雲仙山、一際めきんでた伊吹山。さらに琵琶湖越しに比良の山々が霞んでいた。風は車を吹いているので、黒河津に戻ったが、この先、南の要橋越に出てマキノスキー場まで約5km、約2時間以下の行程

と在元の村に入る。村の東はすれに乗鞍岳のアンテナ専用道がある。乗鞍岳登山口の道標が立っているが、塗料が剥げ落ち汚れてしまっている。地形を見ると、乗鞍岳には国境スキー場と、在元の村の東側から登山道が記入されている。車道を登りたくないのだが、在元からの道はすでに敷に覆われて通行不能。スキー場は少し此の方に回らねばならない。

明王禿より乗鞍岳を遠望する



眼下に国境スキー場と国道を走る車が手にとるように見える。遙かに伊吹山や雲仙山が霞み、湖上には竹生島が浮かぶ。横山岳や金巻岳も見えているはずだ。西を望めば今歩いて来た縦線にアンテナが三つ。その先に広がる三國山。赤坂山の明王禿の荒れた山肌が目に入る。又何本もの高圧線が山を越して、琵琶湖を流している。地図にある国境スキー場への道は、すっかり

もできる。

バス停のある白谷には温泉があり、下山後汗を流して帰るのも良い。

(入浴料350円)

△コースタイム△

- (乗鞍岳) 白谷(約20分) 三國山分岐(約30分) 在元村林道ゲート(50分) 林道終点(30分) 乗鞍岳(20分) 林道終点
- (三國山・赤坂山) 三國山分岐(約20分) 黒河津登山口(40分) 縦走路分岐(20分) 三國山(15分) 縦走路(40分) 赤坂山
- △地形図V20万1:5000 5万1:25000

登山用品専門店

汗対策のザックが
できました。

IMOCK
KOBÉ

神戸ザック

パンフレットお申し込みの方は250円送料以下記まで、
神戸市長田区大橋町9丁目3-1
〒653 TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

「……直接的な表現ではなかったにしても……わたしは好きだとは言った。でもそれだけ……あなたにとって、必要だとは言った。でもそれだけ……あなたにね、わたしは……」

「わたしは、人の幸せを奪ってまで、自分が幸せになろうと思つたことはないし、そんなことをして、本当に幸せになれると思えない。……だから……現実問題として、あなたに具体的にどうこうしてほしいなんて言つてるんじゃないんだからね。……でも……お互いいっごんな事情で終わりになるかもしれない関係なんだから、いつもあなたの本当の気持ちを聞いていたい。……傷つけてもいいから、嘘は言わないでね」

「ほくには、自分のほうから先に好きだと言つた資格はないんだぞ。だから、言わなければ、必要だと言つた資格はないだろう。……それは単体というか、女々しいということだ、……実行できもしないのに、心だけで信じてくれと、恥ずかし気もなく涙流して言えるようなヤツのほうが、キミにとってはいい男なのか？ そうじゃないだろ？ もしそんな程度の女だったら、は

じめっから好きにもならなかったらどうし、オレは、キミがそんな程度の女だと思つてつき合つてんじゃないぞ。……同じ程度の技量・体力のパートナーで行動しているとき、てめえが苦しいりゃ、前のヤツも後ろのヤツも、同じように苦しんだぞ」

「……怒ってるのね。……めんね。……どうにもならないことだとわかつてるのに、ダダをこねたりして。……でも、そこまで言つてくれて、うれしい面もある……」

「いや……あやまることなんかはないよ。……お互いに賢くはないということだ。……言いたいことがあるば、みんな吐き出せばいい。気がすむまで」

「じゃあ、もう少しだけ言わせてね」

「……」

「長い間のことではないだろうけど……わたしは、奥さんに気づかれぬように、気をつけてね。……もしそんなことになったら、あなたは奥さんと私の両方を幸せにできなかったことになるのよ。……お願いね」

「それから……これもまたお願いだけど……わたしは別れると言つたまでは、あなたのほうからは言わないでね。……わたしのため

「ウフッ……」

軽く飲んでいるうちに、カーテンを通して、もう朝のきざしがやってきました。

「朝食は八時半にしたらだっただか？」

「うん。そうよ」

「じゃあ、今から八時まで寝よう」

「うん。あと二時間半ほど寝られる」

だが、実際には、そうはならなかった。ふとんに入ったものの、

「ほんとにもう寝てしまふの？」

彼女は反撥けに無邪気な表情でそう言った。

「うん」

「ホントにホント？」

そう言いながら、彼女は横すべりにぼくふとんの中へ侵入して来た。

昼食なので早目に宿を出て、すぐ近くのバス停で時間を過ごす。バス待ちの客はぼくたちだけだ。

「今日は太陽が黄色く見えるなあ、ハハハ」

「ほんま、話には聞いたことがあるけど」

「九歳にきまつてるじゃないか。近ごろの若いヤツとは、スタミナが違うよ、スタミナがあ……とは言うものの、なんとなくくだ

るいなあ」

「フハハハ」

「笑ってるが、キミはどうなんだ？」

「モウ、アキマセウツっていう感じ」

「ハッハハハハ、アコのは言葉自慢というもんだ。オレは嫉妬者だからね」

「では、お探め致しましょうか？ それともお元氣ドリンクになさいませ？ 丁度うしろに自動販売機もございませ、ウフッ」

バスに乗ると、彼女は右側の後部座席に必死つと立った。そしてその意図はまもなくわかった。運転席から最も見えにくい位置だからだ。

彼女はぼくの手を握り、肩にはほを乗せた。乗客はぼくたち二人だけのローカルバスだから、彼女もそんなことができたのだらう。

「こんなところをうちの会社に見られたら、言い訳のしようがないだろうなあ。それに、こんな関係まで知られたら、女性会員から総スカンを食らうこと間違いなしだ」

「そうとは限らないわよ。そんないいことしてくれるのなら、つき合いたいと思うかもしれないもの」

「フフッ、気になるか？ おバカさん。それはあり得ないよ」

「あなたは会社とこんな関係を持ったことはないの？」

を思つて言ってくれるにしても、いつ言われるかもしれないと思うと、胃が痛くなつてしまふ。……でも、嫌いになつたときは別よ。……あなたも、わたしが別れると言つたとき、ふられたなんて思わないでね。……始めから終わりまで、ふられてるのは、客観的にはわたしなんだから。……もしいい人と出会えて結婚したとしても、あなたほどの人ではないがと思つて結婚したと、わかつてね。……せめて二、三年早く出会えてたら、もっと長く一緒にいられるのだから。……結婚しないかもしれないけど……」

「……それで終わりか？ 言いたいことは」

「……うん」

「……わかった。……よくわかったぞ。……オレは少し飲み直してから寝る。キミはもうこのまま寝たほうがいい。気にせずはっといでくれ」

ぼくはいたたまれない気持ちでそう言った。

「わたしもつき合いたい」

この時意外にも、彼女は急に明るく顔をそう言った、何か吹っ切れたものがあつたのだらう。

「うん。……ハハハ……そうか……よく飲むヤツだなア、こいつは」

ぼくは彼女の鼻をつまんで軽く振った。

「あたりまえじゃないか」

「ほんとに一度も？」

「そんなことをして、テレビのコマーシャルじゃないが、『わたしはこれで会を辞めました』ってなことになるたら、一生の恥だよ」

ぼくは小指を立ててそう言った。

そのあと彼女は、ぼくの所属している山岳会のことについて、いろいろと尋ね、ぼくは答えた。

「いっそのこと、うちの会へ入るか？ 独身のいい男がたくさんいるから、より取り見取りだぞ。もっとも、相手にも逆さ権利があるけどね」

「あなたとつき合ひのある人と結婚するなんて、わたしには考えられない……」

「ハハハ、そんなもんかおねえ。オレに言わせれば、どこの馬の骨かもわからんヤツめりも、オンが信頼できるヤツのほうに安心できるんだが。……新婚夫婦で仲良く例会に出て来るどころか、見たくもねえから、そのときはオレが会を辞めるがね。それならいいいだろ？」

「ウフッ……」

彼女は困ったような顔をしたあと、ぼくの膝をつねった。(次号へつづく)

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 叡電 京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄
▽文学散歩・歴史街道を行く・悲劇の皇子たちシリーズ③「蓮良親王の巻」 7月9日(日)集合吉野線吉野駅前10時(コース) 吉野駅→中土平→西城山→花衣倉→藤堂→村上→赤松→吉野神社→吉野神社駅(約9時) 会費300円(バス代は別途) 参加自由 講師大阪成蹊女子短期大学教授岡田保造氏、天土寺事業06(624) 038213

▽近鉄登山・歴史街道・修験道シリーズ①(吉野古道を歩く)「吉野山から滝川龍泉寺へ」 7月15日(土) 16日(日)雨天決行集合吉野線六田駅前10時30分(コース) 1日(土)六田駅前→柳の宿跡→丈六山(河上表光苑)→吉野山(金峯山王城址)→竹林院(宿坊跡)→2日(日)竹林院→吉野水分神社→金峯神社→青根ヶ峯→四寸岩山→百ヶ峯→大天井ヶ岳→五峯閣→トネネル→瀬川龍泉寺→下市口駅(約8時) 会費1500円(バス代宿泊費用含む) 7月15日(土)の昼食弁当は各自持参 定員50名 電話申し込み制 参加資格中学生以上 60才までの健康な方 講師金峯山寺副住職五峯茶室氏、登山指導奈良山岳

▽夏のほのツアー「夏の大台ヶ原日帰りの旅」 7月16日(日)集合あべの橋駅東口テレメイトセンター17時(コース) あべの橋駅→大和上市駅→大台ヶ原→大蛇窪→正木ヶ原→生石ヶ原→大蛇窪→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上市駅→あべの橋駅(約9時) 会費大人5840円(小人3140円) 定員150名 電話申し込み制 あべの橋駅東口テレメイトセンター06(624) 0026

▽夏のほのツアー「大業山と穂村ヶ岳一泊の旅」 8月12日(土)13日(日)雨天決行集合あべの橋駅東口テレメイトセンター12時30分(コース) あべの橋駅→下市口駅→瀬川温泉→大業ホテル丸文(泊) 2日目(日)旅館→大業大橋→酒ヶ峯→山上ヶ岳→旅館(入浴) 旅館→五代松→法力峰→稲村ヶ岳→旅館(泊) とも大業ホテル丸文→下市口駅→あべの橋駅 会費15090円

▽夏のほのツアー「大台ヶ原原野一泊の旅」 8月6日(土)7日(日)雨天決行集合あべの橋駅東口テレメイトセンター17時30分(コース) あべの橋駅→大和上市駅→大台ヶ原→大蛇窪→正木ヶ原→生石ヶ原→大蛇窪→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上市駅→あべの橋駅(約9時) 会費大人5840円(小人3140円) 定員150名 電話申し込み制 あべの橋駅東口テレメイトセンター06(624) 0026

▽夏のほのツアー「大台ヶ原原野一泊の旅」 8月6日(土)7日(日)雨天決行集合あべの橋駅東口テレメイトセンター17時30分(コース) あべの橋駅→大和上市駅→大台ヶ原→大蛇窪→正木ヶ原→生石ヶ原→大蛇窪→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上市駅→あべの橋駅(約9時) 会費大人5840円(小人3140円) 定員150名 電話申し込み制 あべの橋駅東口テレメイトセンター06(624) 0026

円(大人の多) 定員100名 電話申し込み制 あべの橋駅東口テレメイトセンター06(624) 0026

▽万歩ハイキング・てくてくてくまっふの飛鳥コース「高松塚から岡寺へ」 8月20日(日)集合吉野線飛鳥駅前9時50分(コース) 飛鳥駅→高松塚→有馬台→岡寺→飛鳥(約9時) 会費無料(拝観料は別途) 参加自由 天土寺事業06(624) 038213

▽歴史先アモリーハイキング・てくてくてくまっふの大台ヶ原回遊コース「東大台回遊」 8月28日(日)集合吉野線大和上市駅前9時(コース) 大和上市駅→大台ヶ原→尾瀬→生石ヶ原→大蛇窪→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上市駅(約9時) 会費無料(バス代大人3960円 小人1980円) は別途 定員200名 電話申し込み制 天土寺事業06(624) 038213

京阪
▽比良運峰アタック「明王谷・奥の深谷コース」 8月20日(日)雨天中止 集合JR東山線時分(コース) 栗田駅→坊村→伊藤野瀬川合→牛ノ木→大橋→金峯分岐→八雲ヶ原→山ノ根→山麓駅→比良駅(約6時) 健脚回 京阪事業部06(914) 2626

▽自然観察シリーズ2「貴船の植物野外教室」 8月6日(日)雨天中止 集合貴船駅(京山線) 出船口 貴船から徒歩約5分(コース) 15時10分(コース) 貴船の宮→栗貫池→流谷→奥の宮→瀬神京植物園(好会) 本館先生 田中徹先生 叡信連輪部連絡 075(781) 5121

神戸電鉄
▽あじさいホリアー「ゲルム祭」 参加「六甲山上とシユラインロードハイク」 7月16日(日)集合六甲ケーブル山上駅10時 30分(コース) 六甲ケーブル山上駅→記念碑台(ゲルム祭)→六甲山上回遊→シユラインロード→有馬口駅(約10時) 健脚回 神鉄観光事業部078(521) 032

▽初秋の味覚をさきどり「三木平井山ぶどう狩りハイク」 8月6日(日)集合三木上の丸駅10時5分(コース) 三木上の丸駅→丹波の尾崎→慈眼寺→八雲神社→平井山 ぶどう園(参観料の多引込) 原比須駅(約8時) 健脚回 神鉄観光事業部078(521) 032

奈良交通
▽万葉の大和路を歩く会「運き類の茶川・宇治川沿いの旅」 7月9日(日)集合近鉄高の原駅9時30分(コース) 高の原→三宮寺→宇治上神社→宇治川→塔島→寺守(合宿日帰り) 久世神社→正道宮(宿屋) 塔島→塔島神社→高の原(バスツアー) 徒歩約4()

▽夏のほのツアー「大台ヶ原原野一泊の旅」 8月6日(土)7日(日)雨天決行集合あべの橋駅東口テレメイトセンター17時30分(コース) あべの橋駅→大和上市駅→大台ヶ原→大蛇窪→正木ヶ原→生石ヶ原→大蛇窪→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上市駅→あべの橋駅(約9時) 会費大人5840円(小人3140円) 定員150名 電話申し込み制 あべの橋駅東口テレメイトセンター06(624) 0026

わさくらび

題字・小林政博三

このたびの阪神大震災で、会員の皆様には少なからず被害があったことと存じます。おくれはせながらお見舞い申し上げます。政府など行政は初めてのことで、おくれた対応の「口訳」にもならぬことを「言っています」が、ほとんどの人が初めての経験で、そんな中でボランティア活動がいろいろと評価されています。

新ハイキングの創立は昭和55年頃、やっと戦後の復興がなされ、山歩きをする人も出てきて、一部のプロ登山家だけでなく、ハイキングという誰でも歩ける山歩きを手助けしようとして「山歩き」で作り出したもので、ボランティアともいえるそんなものでした。それが今では手弁当の精神が「わさくらび」と忘れられて

いるところどころもあり、この際再認識が必要のようです。新しい関西の山行計画は、みんなで楽しむ方針の計画のようでも、観光ツアーみたいな考えでいるリーダーのおおきな「わさくらび」ではないように、うれしうれしい取りでも、山中夜、南紀の一等三角点の山、真珠山、熊山、新工石山、子ノ河山などを登りました。これからも関西の山に海軍介になりますのでよろしくお願ひします。

(玄蔵 正義)

2月17日、西尾さんの「地名を大切にしよう」は同感。10年位前に私の所属している一等三角点研究会会報で「山名考」として、漢字を公表したことがあります。

各地の町名歴史に照して、新町名に東西南北又は申史を記すための無さ、古来よりの地名の由来を聞くのは、私達だけでしようか。明原さんの「家族で歩く山登り」、小学六年生の素直らしい文才に感服。私は五人の子供が小学一年生になると、日曜日の朝、ハイキングに連れて行き、徐々に高い山を目指して、本年が六年生の夏に、全員で植ヶ岳の頂上を目指したのを最終回（給可直登）として「山の一年生」を想いました。今では全日本小学生の代表として、山で学んだ不屈の精神を大切に、現今の不安と闘ってまいります。その末子も、今年が二十歳になりました。明原さんら、さうと差別を劣る芝のし、かりした立派な女性に成長されることでしょう。

(多摩 健)

山の知り、馴染みの酒田屋へいくのが私の楽しみだが、一昨年の春頃、店のお客さんで常木さんという人に鳥爪の災を挨ってきまして、と頼まれました。湯好きで鳥爪の赤い実がみたいという、快く引き受けたものの、山田に行

けばすぐに見つかると思っていた私の考えが甘かったようで、なかなか見つけれない。

頼まれてから一年余を過ぎた昨年の12月4日、会社の山仲間と久しぶりで京都の金剛山に出かけた。戸寺のバス停で下車、高野川の橋を渡ってしばらく行くと前方のヤブに赤い実が見える。最初は袖かぶりだった、近づいてみると探して見つけた鳥爪の赤い実が、見つけた鳥爪の赤い実と見分けがつかない。やっと見つけたという思いと同時に感激もした。二、三個持ち帰り、常木さんに手渡した。

は女人岩界隈が西側にあることに気がつき、全部の結界門まで登ることになりました。

最後の結界門は、和佐又ヒッコテから大昔賢岳へ登り、頂上直前の石標を右にとると、1時間強のこのコースは5月月末から6月初旬に行けばシヤクナガが美しく咲き、静かな山歩きが楽しめます。

(熊本 博光)

もう一度も訪れたら、夏には白い花が咲き、秋には形形の赤い実がひくのを楽しみにしています。

第三の結界門は、瀬川バス停終点から川に沿って川原谷を登り、登りつめたところのレンガ柱にありまう。ここで、登山道を左にすると約40分、山上ヶ岳へ登れます。右手にして、植ヶ岳へ登ります。

平成5年8月27日の朝刊に、大峰山系大昔賢岳の「聖の道」発掘調査のニュースが掲載された。好奇心旺盛な私達は早速大昔賢岳へ登ることになった。

私達は登山を楽しんでいる中、大昔賢岳、とてつては行けぬ山があります。それは大峰山系の上ヶ岳です。

私達は登山を楽しんでいる中、大昔賢岳、とてつては行けぬ山があります。それは大峰山系の上ヶ岳です。

大昔賢岳へ登るには、大昔賢岳へ登り、頂上直前の石標を右にとると、1時間強のこのコースは5月月末から6月初旬に行けばシヤクナガが美しく咲き、静かな山歩きが楽しめます。

○新ハイ關西サービスチェーン

<p>名張・二岐温泉 〒624-0001 名張市名張1-1-1 電話 0248-511111</p>	<p>日御連 大和館 〒624-0001 名張市名張1-1-1 電話 0248-511111</p>	<p>秩父鉄道 クーポン券も 東武鉄道 利用できます 秩父 不動の湯 〒336-0000 秩父市山田2-4-3 電話 048-423-1120</p>	<p>富士登山・富士山 東海遊自然歩道 〒707-0000 七瀬山・ハリモミ林 ペンション ロットンテール 〒400-0000 山梨県富士市山田4-3-3 電話 0555-651851</p>
<p>本業 平ヶ岳登山の山小屋 〒624-0001 名張市名張1-1-1 電話 0248-511111</p>	<p>山小屋 櫻ちゃん荘 〒400-0000 山梨県富士市山田4-3-3 電話 0555-651851</p>	<p>汗をたっぱり流せる温泉と 日本海の鮮魚と山の幸 ハイカルの宿 ナガサキロッジ 〒949-0001 新潟県中野区 電話 0255-18512261</p>	<p>高山の後、萩原の花 妙高山と火打山 〒949-0001 新潟県中野区 電話 0255-18512261</p>

<p>大昔賢岳の山小屋 〒624-0001 名張市名張1-1-1 電話 0248-511111</p>	<p>山小屋 櫻ちゃん荘 〒400-0000 山梨県富士市山田4-3-3 電話 0555-651851</p>	<p>汗をたっぱり流せる温泉と 日本海の鮮魚と山の幸 ハイカルの宿 ナガサキロッジ 〒949-0001 新潟県中野区 電話 0255-18512261</p>	<p>高山の後、萩原の花 妙高山と火打山 〒949-0001 新潟県中野区 電話 0255-18512261</p>
---	---	---	--

明日の日も知らぬ命もて

松の木前神妙故日の山
木を捨てて向になるかよ妻云えど
この木はいつか家に成るなり
里山に入れば老相老心
輪廻れ山は草する

山行をバスで送いて卅年
行動範囲四万キロ
杉上開け松の木も開け松も開け
吾の山仕専続しし事

つづく想う八十八才
雪解けて山の頭には春の風
河内さ北越は徳天合掌

こんな素敵な出会いがある山
行きの中にはあります。行きずり
を語り合ひながら、少しの回り道
道草をしながら、そんな静かなハ
イキングを楽しみ歩くことを続け
たいと願っています。

(前) 寛子)

4月上旬 三瓶山に口でできた
山陰の山では大山と共に気になる
山だったので、前からぜひ登って
みたいと思っていた。

大塚駅から急行だんせん線の寝台
車に乗ると、翌朝山梨市駅に着く
出雲大社に参拝した後、太田市へ
向かい、そこからバスに乗る。回

民権舎「さんべ社」が今夜の宿。

国民宿舎といっても、露大風呂や
湯田舎などもあって淨々とした気持
屋敷を眺めながら寝る気分に入っ
ていると、日本人がなぜ温泉にこ
だわるのかわかるような気がした。

快晴の当日は、国民宿舎のすぐ
北側の登山道から登り始める。周
りの木々の枝は皮がめくれ、緑色
の芽が少し顔を出している。春の

山だ。途中、孫三瓶へ面壁する道
と子三瓶へまわりこむ道との分岐
点にさしかかり、後者を進む。子
三瓶へ男三瓶へ女三瓶へ孫三瓶と
いう具合に時計回りに歩く。

男三瓶へ女三瓶間は登山道が一部
雪に覆われていた。男三瓶を登っ
ている時にすれ違った女性の単独
行者と女三瓶の降りて再び会った。

ハイカーと出会ったのは、この女
性と子三瓶で美犬を連れただ人パ
ーティーの計4人分だけだった。登
たのが上陣白なのでもっとたくま
んの人と出会って思っていたのに
意外だった。

ともかく三瓶山は新ハイキング
読者にとっても、いい山なので
ぜひ歩かれてみてはいかがでしょ

うか。

「趣味は登山ですか」と聞かれ
るとちよつと面喰い。私の場合
登山というより子供達の野遊が
そのままだに山口を歩いたりして
いるのが好きだから。思わぬ所に

素敵な小広場を見つたりすると
自分だけの秘密の場所にしておき
たくなる。冷たい沢の虹の架かる
小さな滝、秋草の咲く日溜り。少
女の頃、そんな場所に出会ったび

に再び訪れる日のために、十山玉
やオクタンや小石を木の登みや右の
下に隠してきた。それらを取りに
行くことはほとんどなく、今でも
その小物は記憶の中でひっそり光っ
ている。

さすがに今ではそんな少女チヤ
ッなことはさっぱり無いが、北沢
の山にも比良の山中にも絶妙なの
いお気に入りの場所は沢山ある。

結果として登山山になった私の原
点はずいぶん山野はつつき歩きたか
ら、これからもせせと素敵な秘
密の場所探しに励みたい。目的も
なく、うろつきまわって、ああ、
花がきれい、空がきれいと言っ
ているのが好きな方、一緒にうろつ
きませんか？ (要鹿 弘子)

(野藤 哲哉)

京都市の天然記念物に指定され
ているウラボシの群落を訪ねて、井
ノ口山とその周辺を歩いてきた。

本誌イ母の「エリア別研究」片
波山(北山分久区)と、同題号の
『やぶ酒を懐懐記』井ノ口谷山』

(出口恵次氏)の記録のコピーを
贈って歩いたのだが、要所で大妻
参考になった。昭文社地図の「京
都北山」の95年度版には、井ノ
口谷から井ノ口山三角点間に赤い

実線が記入されたので、山行の前
日に、地図の調査執筆を担当して
いる北山クラブの金久下津大台長
に電話でルートの概要を尋ねたと
ころ、山域全体についての丁寧な

アドバイスを頂いた。また、井ノ
口山の山主さんで、井ノ口橋の所
有者でもある古塚氏にも入山の許
可を頂くために電話をした。もし
て、「明朝日時半頃に橋のゲート
を離れて下さいませんか」とのお
願いもした。

1月23日、あいにくの雨。9時
30分にバスを降りて井ノ口橋を渡
り、古塚さん宅のインターホンを
通して、開門して頂いたお礼を述
べて、いよいよ出発。井ノ口谷林道

を登りだして15分ほど経った頃
右手に赤テープを見つけて山道に

取りつく。橋流と支流の谷との中
間の支根の急登だが、道はくっ
まりとついで、広い大樹が立
つ所で一息入れている。樫の大樹が立
主根に登り着いた。お目当ての
大杉群が現れた。雨に濡れてにぶ
く光る巨大杉たちは、南斜面の森
林に点在しているのだが、一帯は
神秘的であり神秘的で、まさに狂
観であり狂観だ。養生杉、伏伏合
杉とも呼ばれるこの地のウラボシ
については、出口氏の記述に詳しい
のでここでは重複を避けるが、中
でも申すつけがたい二本のモン
スターは、絶景級、としか表現の
しようがない。

山名標が一つもなく、すっきり
とした井ノ口山三角点から東へ登
る。肌もぬく暖かい。おぼろげな
分岐に着くが、そこが左へ下ると、
樹海の中の小笠原を登って、600
級のピークに到着する。東へ延
びる尾根上の針葉道に誘い込まれ
ていく。そうなるが、南へ下る道を迷
落ち着いて判断できなかったのは、出口
氏の親切な山口記のおかげで、感
謝する。このポイントがコース中
唯一の露岩地帯で、汗波山が全容を
現わした。

ナベ谷峠までは道が生い茂って

歩きづらかったが、ようやく雨が
止んだので、気分は上々だ。

片波山へはナベ谷峠からの取り
つきと、頂上尾根の直下との二ヶ
所に急登があり、ワンピッチでは
登りきれなかった。2年ぶり二度
目の片波山だが、いつ来ても静か
で好感がある。北山を代表する
好山の一つだろう。

下山は道標合へ下るのだが、こ
のルートは初めてで、好奇心と期
待然に、小さな不安感が交錯する。
予想以上に道が複雑で、完全に
適応化している。三角点からコン
パスを真向東に合わせて、道を振
りながら急斜面を慎重に下る。谷
に出合っても道は無く、「谷をを
歩け」との北川氏の記述に従う。
林道へ降り立ち小休の後、大牟地
のバス停へ向かった。

コースタイムを時間20分だっ
たが、俄し登り下りが何ヶ所か
あり、道の不明確な場所もあった
ので、初心者グループによる全行
程の難走には、ご苦労があったら
も知れない。山域間一丁中。

(前中 毅)

白馬から花だより
6~8月を歩く(ミニ山行)
花と炊雲と新緑を求め山へ分け入る。白馬大池、
靉靄湖原、朝吹自然園、朝吹大池、白馬大池、
雨降山、火打山、八方尾根、白馬岳周辺
登山の方は軽装も可、夜は花のスライド上映、
6/4 針の木登山開き、6/25 風吹山開き、
7/2 雨降山開きです。
お問い合わせ 長野県北安曇郡白馬村おちくら
北原まで(テントキーパー)
TEL・FAX 0261-72-2151

九州の城隍様・日本百名山
宮崎浦市に一番近い宿
歴史風安楽登山口
歴史風グリーンホテル
〒891-1410
0998-7416(受付時)
0998-7416(予約時)
0998-7416(予約時)
0998-7416(予約時)

ハイキング・キャンプに
鈴鹿国定公園
朝明渓谷 あさけ茶屋
TEL・FAX 0563-17789

春・秋 小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和 田 森
〒399-0303 長野県北安曇郡
白馬村八方尾根
TEL 0266-172-5333
FAX 0266-172-5333

登山歴卅年のオーナーが白馬・
小谷周辺の自然案内へ案内
テントキーパー
1泊2食付き 6,000円から
TEL 0266-993
FAX 0266-993
0266-172-2151

八ヶ岳北沢山の中心地
99年築新築地蔵堂完成全館個室
木の香りと新築温泉養生木造旅館
オーレン 小嵐
1泊2食付き 6,000円
4月来3日月末開設
〒399-0100 小原町安
野市野原2720
TEL 0266-72-1270
FAX 0266-72-1270

日本唯一の女人禁制の山「大天
池」の登山口
桶村タチバナ屋
温泉・名水の里
旅館 紀の回屋 蒼八
1泊2食付 7,000円から
TEL 0266-104
FAX 0266-104
074765 410309

花開けば万人集まり
花見すれば一人無し……

庄編 原住
桜も散り、吹く風もかきわしい
5月の1日、「伊豆の踊り子」(川
端健成)の舞台となった山と溪流
の河津温泉旅館を訪ねる。

水生地トバス停から踊子ハイキ
ングコースの旧街道を歩き、ロマ
ン漂う石組みの巨大城トネルを
抜け針葉樹のモスグリーンや新
緑に明える山々を見て、ヒトリシ
ズカの咲く道を行けば、今にも踊
子の一行と出会えそうな気分にな
る。

寒天橋を渡り河津川沿いに引き、
神秘的な二階滝や平流の滝の瀑布
に感動して踊子街道に入る。明治
10年に植えられたという平太郎杉
並木の林道には淡白紫色のシヤガ
が揺れ、澄みきった空気が一瞬常
々しい。

心地よい疲労感とともに2時間
も歩いただろうか。ここからは今
日のお目当て、河津川滝巡りへ。
女武官の怪石の明を緩急自在に奔
流する最初の滝は、この川の形成
を語る岩橋も美しい釜淵で、か
つては地獄橋と恐れられた勇壮な
滝。2番目は白く流れる滝がえび

の尾のようなエビ滝。岩が蛇のウ
ロコに見えるへび滝「踊子」私
のブロンズ像のある初級滝にシヤ
ッター・ポイントで、滝の美と相
まってロマンチックな映面のワン
シーンを思い浮かべたい。ここは溪流
に紅葉がマッチングする11月下旬
に「滝祭り」が催されること。

あとは清らかなカニ滝、豪壮な出
合滝と続き、岩壁を垂直に削り
合流と続き、最大の滝は迫力満点
で爽快そのものだった。約9分の
滝巡りを終え、観光センターで土
産を物色して、ワサビのソフトク
リームを食べていると、ほんなつ

しいボンネットバスが駐車場に駐
まり、中から踊子姿の車掌さんが
降りて来た。まるで康成が熊入
と出会った時代にタイムスリップ
したような余韻を残して、「伊豆
の踊り子」はターンして走り去っ
た。

今日はせむらぎの音を聞きながら
往時の踊子に思いを巡らせて、
のんびりと露天風呂で浮世のあか
でも落とそうか。(霧生 功)

4月山行報告
2日「やまと地形図の会」岩尾
4日 田舎登尾(2万5千)「大

和杉木」へ。計330点 84%

10日 「大和登山会」例会。宮
崎・高松・上野山花見。28名

16日 「点のついで」例会。ロ
△吉野山(2万5千)「吉野山」
と花見。参加34名

21日 6月5日に行う「奈良リ
ビング」登山教室の下見。津風臣
瀬川尚流、同登壇

23日 雨なれど「測量の日」関
連行事「地形図を持って山の辺の
道を歩こう」案内。参加22名

24日 5月24日の「大和日記」
電報深谷渓谷下見。増水にて難
航。26日 伏見公民館「大和日記」
開講式。講師として案内。

25日 「大和温泉会」番外。笠
笠神の春の大祭へ。参加17名
(上田 博也)

会員募集
青年山友会

創立12年目、ハイキング、
スキー、キャンプ、チャリン
コ、企画名山山行など、独身
者中心の山遊会も会員200

名近く、特に女性会員多数の
ため明るい男子会員を歓迎し
ています。

当会にふさわしい方を紹介
介お願いいたします。(応募までの
方)。また、年齢制限解除の
フチノコ探検や、や日本百名
山を自居している(主にワブ
ン車利用)「フチノコクラブ」
も金無し段人を募集していま

す。会費は毎月一回梅田であ
り。資料請求は切手190円
同封して左記まで

〒664
伊丹市野北3の7の16
TEL0727(81)05226
足立 勲

山行計画

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記して
あるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往
復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着す
るように入会して申し込みください。「費用」のほかに参
加費(後述)その他の資料代費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に
連絡してください。体調が悪い、予定が変更になりは
例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発時の際、係
に保険料(日額50円)夜間泊りの場合は2日になり(50円)を支払
して頂きます。(A-1日保険会社と契約)

傷害保険特約内容は次の通りです。

山行き申込み書

山行
期日
住所 〒
電話番号
氏名
会員番号
(会費でない方は会員外と記入)
生年月日
緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の
住所氏名を記入してください。

ポンポン山北尾根から釈迦岳
(一般向き)

期日 7月1日出 日曜日
集合 17時高槻北口の歩道橋
のうえ8時30分

コース 高槻駅(タクシー)中畑
回廊橋トポン山北尾
根電通遊歩路ト釈迦岳ト
川久保尾根ト川久保(パ
ス)高槻駅

費用 約3000円(交通費)
地図 昭文社「和泉郡西山」
係 昭文社子 ○山崎義治
申込み 〒601-0101 城陽市寺
田大社10の10 新ハイキ
ング関西まで

ポンポン山はカットします。関
電の遊歩路に沿って歩きます。雨
天は行

*雨の強い時は「高槻しよう女園」
見物コースにします。

大塚・稲村ヶ岳 (一般向き)
期日 7月2日(日)8日(日)
集合 近鉄下市駅駅前時
1時20分

コース (8日)下市口駅(バス)
河川一帯ト河川遊歩路ト放
置(至不動産礼園・歴史
台・和泉料など)ト一宮

松田 敏男
「山の花と山の版画展」
5月1日(祝)〜6日(日)
正午〜午後6時
平安閣 京都市中京区寺町通三条上ル
TEL075-231-0694
関西の山の花の木版画小品と、緑による
山のシルクスクリーン版画を中心に
展覧します。

●山の本の紹介
「信仰の山」 吉村 達著
東京新聞出版局 定価1400円
(書籍発売中)
新ハイキング会員の吉村さんが、下北
半島登山から九州の英彦山に至る16山
を踏破された道真のメモリアルです。

（今日）宮上六軒大橋一
 レンゲ江一河川小橋一福
 村ヶ岳一山止上一法舟橋一
 五枝松野乳洞一前川洞川
 （バス）下市口駅
 費用 約13000円（交通費・
 宿泊代）保隆代1000円
 地図 昭文社「50大峰山脈」
 宿 洞川温泉「肥の園温泉」
 係 ◎洞川温泉
 申込み 76100101 城陽市寺
 田大群10の10 村田まで
 女人火除精舎に付にオオマレ
 シゲを見つづけます。週末泊でのん
 びり歩きます。雨天決行

平日大塚ハイク12
 比叡の道◎ 添磨屋から瓜生山
 期日 7月13日(日) 日帰り
 集合 J.R.瀬西線西大津駅前9
 時30分

コース 西大津駅一京阪野守山駅
 (電車) 滋賀里駅一岩橋
 寺跡一東海自然歩道一府
 縣境一掛旗(大鳥居)一
 天狗山一北白川町野守跡一
 瓜生山一北白川仕伏町
 (市バス) 京都四条河原
 町(解散15時30分)

南アルプス
 甲斐駒ヶ岳と仙丈岳
 (やや健脚向き)
 期日 8月12日(出家)15日(火)
 3泊4日(車中泊)
 集合 京都駅八条口近鉄改札口
 付近22時

コース (12日) 京都駅(バス交
 行)戸台へ(13日)戸台
 (バス) 北沢峠長嶺小屋一
 仙丈峠 駒津峠 甲斐駒
 ヶ岳(甲斐駒ヶ岳)仙丈峠
 双葉山一北沢峠長嶺小屋
 (通) (14日) 小屋一殿
 沢分岐一仙丈峠一仙丈
 尾一仙丈カール一馬ノ背
 ヒュウチー湖一北沢峠
 長嶺小屋(通) (15日)
 北沢峠(バス)戸台へ(バ
 ス)京都駅(19時頃迄)
 *貸切バス使用
 費用 約35000円(交通費
 宿泊代) *集合時に解散
 地図 昭文社「10甲斐駒ヶ北
 岳」
 係 ◎山田智哉 ○山宮義治
 申込み 76100101 城陽市寺
 田大群10の10 村田まで
 定員30名(全員に限定)
 二山共に南アルプス北部の主峰

費用 保隆代500円(交通費各員
 地図 昭文社「77京都北山」
 係 ◎前中 駿 ◎湯浅次男
 申込み 76100101 城陽市寺
 田大群10の10 新ハイキ
 シンク関西まで
 比叡南峰を横断する。幻の
 都 大津京にゆかりの崇福寺跡や
 東山の北白川城跡を訪ねる。天宮
 山三筋点へも息を延ばす。雨天中
 止

京都北山歩き30
 (一般向き)
 期日 7月16日(日) 日帰り
 集合 京阪出町駅8時30分
 コース 出町駅(バス)大赤山
 口一桑谷一鉄塔一夏峰一
 桑谷山行徳一東峰一久多
 峰一能見川林道一能見口
 (バス) 出町駅
 費用 約3000円(交通費)
 地図 昭文社「徳富北山」
 係 ◎山田智哉 ○上村 操
 申込み 76100101 城陽市寺
 田大群10の10 村田まで
 峰沢が近くに見える。比叡が遠望
 できる展望のよいコースを久多峰
 へ歩きます。桑谷山の山頂は樹林
 の中で。小雨決行

三石山 (一般向き)
 期日 7月30日(日) 日帰り
 集合 南海野洲線御幸止駅改札
 口9時30分(難波発8時
 40分発行が便利)
 コース 御幸止駅一杉村公園一山
 田分岐一鉄塔一三石山
 一林道一三雲院一カラ滝一

三石山 (一般向き)
 期日 7月30日(日) 日帰り
 集合 南海野洲線御幸止駅改札
 口9時30分(難波発8時
 40分発行が便利)
 コース 御幸止駅一杉村公園一山
 田分岐一鉄塔一三石山
 一林道一三雲院一カラ滝一

集合 J.R.京都駅7時45分発湖
 西線米原行きの前から二
 両目に乗車(キップは近
 江野洲駅まで)
 コース 京都駅(電車) 近江高島
 駅(バス) 吉野一野洲一
 所山一オーム岩一阿波
 利山一鶴川越一鹿ヶ瀬道
 (バス) 近江野洲駅(解
 散15時40分)
 費用 保隆代500円(交通費各員)
 地図 昭文社「46比良山系」
 係 ◎渡中 敏 ◎湯浅次男
 申込み 76100101 城陽市寺
 田大群10の10 新ハイキ
 シンク関西まで
 リトル比良を縦走する。オーム
 岩は2700mの展望。雨天中止
 文学歴史散歩
 元山山口から高安の崖へ
 (一般向き)
 期日 8月27日(日) 日帰り
 集合 近鉄元山山口駅9時
 コース 元山山口駅一全勝寺一岸
 駒山口神社一猿渡分岐一
 千光寺一鳴川峠一馬場寺一
 十三峠一水呑地蔵一土相
 神社一近鉄服部川駅
 費用 約10000円(近鉄運賃

越ヶ岳一肥後見住(公団
 一海津野見住駅
 費用 約20000円(大阪から
 交通費・入宿代等)
 地図 昭文社「55金剛山・岩
 涌山」
 係 ◎奥村誠治
 申込み 76100101 松本市城山台2
 の20の7 奥村まで
 杉谷公園から三石山、根谷谷に
 下る峰間コースを歩きます。小雨
 決行

比良・白滝谷から比叡岳
 (一般向き)
 期日 8月6日(日) 日帰り
 集合 京阪出町駅8時
 コース 出町駅(バス)坊河一
 牛ノ木一白滝谷一木谷峠一
 比良岳一長谷山一荒川峠
 一止谷台(合) J.R.志保駅
 (解散)
 費用 約35000円(交通費)
 地図 昭文社「46比良山系」
 係 ◎村田智哉
 申込み 76100101 城陽市寺
 田大群10の10 村田まで
 夏山トレッキングを兼ねて、白
 滝谷から比叡岳走路を歩きます。
 小雨決行

山行報告
 新ハイキングクラブ版

天ヶ岳 (木塚ハイク8)
 3月9日(日) 晴れ
 京阪出町駅9:00(電車) 鞍馬
 駅9:30(バス) 乗車10:03(10)
 戸谷峠(河原10:55) 55(10)
 11:17(15) 天ヶ岳12:15(20)
 鉄線尾筋12:30(25) 13:20(1)
 14:15(15) 15:30(15) 16:55
 (15) 18:00(15) 18:30(解散)
 日産の暖かい早春の好日だ。
 たが、天ヶ岳山頂付近には20での
 降雪があった。鉄線尾筋では真っ
 白な比良山や重葎とした北山の通
 山を眺めながらのランチタイム。

(参加者) 田中孝子 伊藤みほる
日高史緒 吉田孝子 田中まゆ子
林 暢子 南 尊子 辻 嘉一郎
辻 貞子 前田政雄 宮田喜次郎
高野道二 田三三枝 阪口千鶴子
及原佑美 三宅 明 越前ヨシシ
岡田 昇 青木一雄 藤田美穂子
小西健雄 新治悦子 森三郎男
城下末子 明神洋行 明神由津子
上尾俊枝 河江光枝 矢野由美子
鈴木久子 辻村孝子 下山三千子
今西美男 小林政男 水見真砂子
水田周二 ○湯浅次男 (計30名)
◎途中 級

高野山より高野位山縦走
3月12日(日) 曇りのち小雨
JR 竹根駅 10・30(集合) 351ピー
ク15・50(11) 461 坂野橋手前12・
00(集合) 301 坂野ノ里12・501
高野位山13・20(雨のため小休止
301 高野位山登山口14・10(雨の
ため東尾にてミーティング) 15・
101 JR 坂野駅15・40(解散)
坂野ノ里山を通過後、北尾となる
高野位山から南への稜線コースは
急峻の岩肌が二か所あり、雨のため
め危険と判断し、参詣コースの階
段道を下山した。小人数の相気あ
いあいの山行だった。

(参加者) 今津吉司 嵯峨美穂子
中山法忠 藤村修彦 三木彰子
山本武臣 山本公子 今村 真
○須藤 隆 ◎井上 保
(計10名)

獅子ヶ岳
3月15日(日) 晴れ
伊勢自動車道勢多交差点にて9・
30(集合) 注連指(車) 奥出橋10・
101 林道注連指橋終点登山口10・
401 小坂分岐11・531 湯浅道12・
00(集合) 13・001 注連指川源流
の谷13・501 林道注連指西側終
点14・301 奥出橋15・30(解散)
天候はまずまず。獅子の嶺は柱
から頭へ、尻尾の背から尻尾へ
時計回りにぐるぐる一周。楽しい
山行だった。A班とB班に分かれ
て行動した。
ヤブツバキが……よかったです。

(参加者) 明定保夫 藤澤元博
藤澤淑子 高橋 寛 吉田真一
下山 鶴 中川博史 藤原健治
松田紀子 寺西 洋 酒野良一
林 真司 藤田和洋 石田真由美
新村正夫 川本 隆 福田恵美子
木下郁子 山本雅子 岡本美千子
高橋八人 大野 博 森 美香子
大野孝子 大野 祐 大矢知正浩

大野靖紀 大矢知正浩
○藤田 浩夫 ○北川 明 ○新井孝夫
○藤澤 隆 ○尾崎美五 (計35名)
金剛山から殊形山
(京都北山歩き34)

3月21日(日) 晴れ
京都出町筋駅京都バス乗り場9・
00(バス) 元寺バス停9・301 江
文軒社前小松美術館前9・401 江
551 冬平新井社10・401 金剛山
11・151 殊形山11・50(集合) 12・
401 大原分岐13・051 201 殊形山
13・501 14・101 古短合15・45
(バス) 出町筋駅16・15(解散)
黄色いマンナクが道端で春の
訪れを告げた。初歩向きには
長いコースで、急坂もあった。

(参加者) 加藤元彦 新出孝子
前田政雄 小林 裕 金野徳子
大木政夫 明神洋行 明神由津子
水井智一 越前美雄 辻 嘉一郎
血原清男 血原孝子 寺本孝男
下西 利 若木徳二 吉田孝子
辻村延夫 立川郁夫 湯見千恵子
藤澤元博 藤澤淑子 三宅 明
甲井昌子 青木一雄 岡崎なか乃
平 幸子 尾比裕美 今西美男
松野道二 上坂俊枝 柳野賢子
高橋純治 古村孝子 小笠野枝

竹田利夫 藤 健 前川良次郎
小田潤子 仲沢孝子 中上紀代子
神谷孝子 北尾佳子 吉川正二郎
吉川昌子 堀 久子 渡合友香
前田孝子 尾本香雄 高月マコ
下村孝子 高島 香 佐々木徳子
神山和也 山本孝子 元井洋子
熊大英雄 日高史緒 大宮健雄子
坂山隆二 ○高橋 寛
◎田中 毅 (計62名)

高野山と粉河寺
3月26日(日) 曇りのち晴れ
JR 坂本駅 8・55(集合) 9・041
J 及 坂本駅 9・401 東杉原10
(集合) 坂本駅 9・401 東杉原10
・101 一本松10・501 田代峠11・
401 高野山12・10(集合) 13・101
明神岩13・201 一本松14・201 粉
河寺15・301 501 粉河駅16・10
(解散)
朝方の折々すっきり上がり、残
雪の道歩き。山頂での昼食は
日だまりの中、のんびりでした。
菜の花と鏡池が満開だった。
せきんの御旗刀で、和氣あいあ
いの楽しい山行ができた。
(参加者) 一野口 隆 明定保夫
折野東彦 湯浅次男 山崎多恵子
高橋 寛 竹田利夫 千葉千枝子

森澤元博 森澤淑子 石田芳弘
飯田久子 平政孝子 堀 久子
栗岡孝子 今西光男 尾比裕美
木島潤子 前田政雄 兼田孝子
横井 徹 横井孝子 井藤正昭
関口沙子 中村厚香 中上紀代子
小田潤子 中路加代子
○岡田 昇 ◎奥村誠治 (計35名)

恵徳越え (熊野参り)
4月2日(日) 曇り時々晴れ
坂本上野駅 9・00(集合) 201 葛
城山9・401 451 香掛山415(集
11・051 151 車道11・55(集合)
12・451 車道終点13・101 451
412 岩南のピーク14・101 201
みず山△430・314・351
551 尾花△151 トロッコ橋15・
30(解散)

冷たい風の吹き荒れる一日。三
グループに分かれて古い道を辿っ
た。時間にはゆとりがあったので、
山頂周辺などがゆっくりできた。
牛車山や水尾の明、ポンカン山等
を地図とコンパスで探した。トロッ
コ列車も快達だった。
(参加者) 新山孝子 辻 嘉一郎
寺本孝男 辻村延夫 松尾久し子
松尾敏一 鈴木春男 岡田昌久子
前田政雄 湯浅次男 佐田昌子

里井昌子 大木政夫 大木裕子
青木一雄 高塚博介 高塚昌子
上坂俊枝 土肥三枝 宮田喜次郎
井上直樹 木本文彦 阪口千鶴子
和田直樹 山本 勉 小林はなえ
布地英美 北川良子 野里マコ
高野純治 作田和夫 伊藤千恵子
前川孝子 加藤元彦 田中三恵子
高月マコ 小笠野枝
仲沢孝子 ○中村 登
○小笠野枝子 ◎藤元 彦
(計10名)

仏隆寺から三郎ヶ岳
4月9日(日) 曇りのち雨
近鉄藤原駅 9・03(バス) 西井バ
ス停9・201 仏隆寺9・451 10
101 唐戸峠10・251 301 カラト山
10・551 送い峠11・151 201 林道
11・301 杉林林の中11・35(集合)
12・151 301 三郎ヶ岳12・401 451 高
城山13・201 351 三郎峠14・001 仏
隆寺14・151 301 高尾山14・52(バ
ス) 藤原駅15・00(解散)

仏隆寺から三郎ヶ岳
4月9日(日) 曇りのち雨
唐戸峠から三郎ヶ岳を辿り三郎
ヶ岳へ。前のため展望が利かず残念
だった。下山は高尾山から仏隆
寺へのコースを。上井原孝子
(参加者) 加藤 彦 上井原孝子

三浦弘幸 種本方雄 湯浅道秀
瀧尾健治 松田紀子 藤澤明美
近藤 恭 飯田 昇 山崎多恵子
山崎義治 渡辺達郎 新山孝子
森本政二 酒野良一 明定保夫
木嶋 修 川人郁子 足野正弘
森澤元博 藤澤淑子 中島 勉
鈴木孝子 尾比裕美 酒原末夫
徳田 哲 藤原洋行 土屋孝枝子
沖 伸 藤田勇雄 原田健美
原田孝子 湯浅次男 中川博史
吉田孝子 藤村 寛 安田文美江
井上孝子 藤村 寛 千葉千枝子
今西光男 森 昌好 井上孝孝子
京井 正 横井孝子 林 美穂子
平 幸子 岡田 昇 岡田孝子
青木一雄 宇山尚志 佐吉田孝子
多智留二 多智留子 青木和子
堀 久子 関口沙子 石田芳弘
中西洋行 ○上村 操
◎田中 毅 (計62名)

鎌倉山から殊形山
(大磯ハイキング)
4月13日(日) 晴れ
出町筋駅 7・30(集合) 43(バス)
坊野 8・581 551 ナナブー 451
551 鎌倉山10・431 551 オノロ坂
峠12・00(集合) 501 殊形山13・

鎌倉山から殊形山
(大磯ハイキング)
4月13日(日) 晴れ
出町筋駅 7・30(集合) 43(バス)
坊野 8・581 551 ナナブー 451
551 鎌倉山10・431 551 オノロ坂
峠12・00(集合) 501 殊形山13・

151 351 △14・111 251 中村
乗越14・431 501 伊勢谷16・381
45(バス) 出町筋駅17・45(集合)
鎌倉山頂からは比良や北山の雄
望を眺めた。イワウチワ、カタ
バ、タムシバナなど春を代表す
る花々が満開だった。
(参加者) 西沢広二 瀧尾健治
三浦弘幸 立川郁夫 岡 寛子
岡本政一 和泉元二 下山三千子
北尾佳枝 城下末子 田中まゆ子
田中孝子 芝野泰明 網本美穂子
前田政雄 木田潤子 辻 嘉一郎
辻 孝子 横井和子 瀬野孝子
鈴木春雄 上坂俊枝 高野純治
村上春代 飯田久子 田辺あ子
細野明美 中島 隆 平 幸子
青木一雄 三宅 明 岡田 昇
高橋明美 中島利子 森 シズ子
杉下昌子 今西美男 藤村ゆかり
小林政男 水見真一 水見真砂子
藤田明子 林 暢子 真 直美
伊藤健二 北尾佳子 土屋孝枝子
◎藤田 毅 ○湯浅次男
◎前中 毅 (計50名)

鎌倉山から殊形山
(大磯ハイキング)
4月16日(日) 晴

鎌倉山から殊形山
(大磯ハイキング)
4月16日(日) 晴

近鉄御所駅9・00(集合)00発

(2) 近鉄ロープウェイ前8・20(40) 藤原池9・50(1) 行者の滝10・15(20) 葛城山頂11・40(1) 12・30(1) 龍井谷林道13・20(1) 25(1) 40(1) 35(1) 40(1) 河内バス停16・15(2) (バス) 近鉄富田林駅16・35(1) (解散) 雨の中を歩きました。葛城山頂では、鳴の半焼きと佐ビールで接待され、ショウジョウバカマに見送られ下山すると、弘川寺は満開の花が山奥まで見えました。

三十三間山

4月16日(日) 曇り JR近鉄今津駅9・10(バス) 倉見10・00(1) 林道登山口10・20(1) 草原12・00(1) 観音12・15(1) 倉見13・00(1) 水尾13・50(1) 14・10(1) 白見15・50(1) 16・00(2) 近鉄今津駅15・50(1) (集合) 00発

50(解散)

山頂は、立ってられない程の強風で、頂上の草履で山頂を記念した。登山道には可憐なマメザクラが満開だった。三方五湖を展望十分楽しんだ。(参加者) 野間研夫 芝野幸明 有藤清英 妹尾一正 妹尾公代 横山昌徳 岡川 昇 岡田孝孝子 新出孝子 鶴尾雅治 上井恵美子 尾野正弘 横井 隆 横井孝子 上田敏子 鈴木昌子 山崎多恵子 岡本政一 林 暢子 田中吉英江 美村孝治 芳村三枝 穂本芳雄 小林 穂 木島清子 則定保夫 辻村益夫 今津省司 辻 翠一郎 寺本孝男 藤辺達郎 永田博美 阿部裕彦 南 真子 高橋 寛 中尾 勉 藤原明美 山本早智子 吉原清夫 ○山崎雅治 (計21名) ◎要車馬子

三十三間山

4月23日(日) 雨のち曇り JR新大阪駅8・00(集合) 10(バス) 近鉄御所駅8・00(集合) 10(バス) 新御所道南紀バスエリ7・20(1) 20(1) 倉山16・10(1) 20(1) 東峰11・15(1) 20(1) 三原山11・35(集合) 12・15(1) 観音13・25(1) 35(1) 佐陣ダム15・30(1) 50(1) 新大

阪急行・15

午前中の強い雨も、尾すきには上がり、満開のヒカゲツツジが日を楽しませてくれた。変化のあるダイナミックなコースだった。(参加者) 岡田 昇 岡田孝孝子 宮坂敏彦 尾比裕美 上井恵美子 三浦幸 野口 修 藤原清治 則定保夫 木島清子 稲本芳雄 寺西 幸 鈴木久子 藤村敏彦 平 幸子 前田孝子 高月ミツヨ 藤田茂雄 本田孝子 伴村昌孝子 北川由子 高橋慶子 仲次孝子 栗岡孝子 船田節子 安田文美江 松本 武 小笠 学 猪俣孝子 小西静雄 三宅 明 広瀬さよ子 井上 保 今村 眞 須藤岡 細 ○村田智雄 ◎津市(計27名) 中八ヶ岳を歩く 藤原岳・天狗岳・白駒池 5月2日(日) 雨夜も5日(日) 3泊4日(平日) 2日晴れ 京都駅八条口22・00(集合) 22・10(バス) 行

三十三間山

4月23日(日) 雨のち曇り JR新大阪駅8・00(集合) 10(バス) 近鉄御所道南紀バスエリ7・20(1) 20(1) 倉山16・10(1) 20(1) 東峰11・15(1) 20(1) 三原山11・35(集合) 12・15(1) 観音13・25(1) 35(1) 佐陣ダム15・30(1) 50(1) 新大

明神蔵行 前田孝子 三宅 明 渡辺達郎 北川孝子 佐古田文字 北川由子 森川芳雄 高月ミツヨ 仲次孝子 山崎孝子 高橋孝子 松村由雄 中村和子 藤原昌男 ○要車馬子 ◎村田智雄 (計27名) (社名)

音山から熊ヶ岳 5月3日(日) 曇り時々雨 近鉄御所駅9・00(集合) 9・00(バス) 下宿9・15(20) 吉河山 聖堂10・10(25) 吉河山11・00(1) 20(1) 25(1) 35(1) 途中で12・00(集合) 12・40(1) 熊ヶ岳12・50(1) 大峰13・10(1) 20(1) 不徳滝14・00(1) 深田山14・20(1) (自由行動) 15・00(1) 駐車場バス停15・06(バス) (解散) 15・30(解散) 霧は霧がかり薄く「幻想的な景色」が、と云う人がいた。登山道には材料イロイロの川が流れていた。白道は緑と白のコントラストが美しい。 (参加者) 前田孝子 千葉千枝子 北川 武 山本 勉 土屋孝子 横井孝子 青木一雄 川上久照 平 幸子 森澤高博 森澤孝子 栗成英子 新山孝子 三木孝子 宇山昌志 宮崎孝子 深坂 寛 深坂孝子 徳川 哲 大尾藤孝子

酒井 啓 中村英雄 宮村孝次郎 ○則定保夫 ◎中西信行 (計25名) (社名) 新ハインキングクラブ慶賀 入会のお知らせ このページの山行機会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(総)はすべて無償の奉仕で、各自で初歩の買い代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。 あなとも新ハインキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会費には毎月「新ハインキング」別冊関西の山(年間隔月6回分)をお届けします。会員はこのページの山行機会に参加できます。

音山から熊ヶ岳 5月3日(日) 曇り時々雨 近鉄御所駅9・00(集合) 9・00(バス) 下宿9・15(20) 吉河山 聖堂10・10(25) 吉河山11・00(1) 20(1) 25(1) 35(1) 途中で12・00(集合) 12・40(1) 熊ヶ岳12・50(1) 大峰13・10(1) 20(1) 不徳滝14・00(1) 深田山14・20(1) (自由行動) 15・00(1) 駐車場バス停15・06(バス) (解散) 15・30(解散) 霧は霧がかり薄く「幻想的な景色」が、と云う人がいた。登山道には材料イロイロの川が流れていた。白道は緑と白のコントラストが美しい。 (参加者) 前田孝子 千葉千枝子 北川 武 山本 勉 土屋孝子 横井孝子 青木一雄 川上久照 平 幸子 森澤高博 森澤孝子 栗成英子 新山孝子 三木孝子 宇山昌志 宮崎孝子 深坂 寛 深坂孝子 徳川 哲 大尾藤孝子

山行リーダー募集 新ハインキングクラブ関西では、会員の増加に伴って、山行計画の回数を増やしていく必要がありま。リーダーは2か月に一回程度の山行計画を立案し、実施して頂きます。 申し込みの受け付けなど、いろいろの条件がありますが、経験のある方や、やってみたいと思われの方は当会本部(村田)までご連絡下さい。

音山から熊ヶ岳 5月3日(日) 曇り時々雨 近鉄御所駅9・00(集合) 9・00(バス) 下宿9・15(20) 吉河山 聖堂10・10(25) 吉河山11・00(1) 20(1) 25(1) 35(1) 途中で12・00(集合) 12・40(1) 熊ヶ岳12・50(1) 大峰13・10(1) 20(1) 不徳滝14・00(1) 深田山14・20(1) (自由行動) 15・00(1) 駐車場バス停15・06(バス) (解散) 15・30(解散) 霧は霧がかり薄く「幻想的な景色」が、と云う人がいた。登山道には材料イロイロの川が流れていた。白道は緑と白のコントラストが美しい。 (参加者) 前田孝子 千葉千枝子 北川 武 山本 勉 土屋孝子 横井孝子 青木一雄 川上久照 平 幸子 森澤高博 森澤孝子 栗成英子 新山孝子 三木孝子 宇山昌志 宮崎孝子 深坂 寛 深坂孝子 徳川 哲 大尾藤孝子

向 意好 吉田誠宏 小山雄造 早川正通 高橋明美 米川恵三 村上泰男 平 慎一 高橋静治 志野正弘 本田晴夫 上 喜蔵 南木一郎 宮川晴夫 上里内孝子 田辺孝子 藤原京子 丸山裕一 丸山徳子 田中淳史 中野小百合 岡田昌彦 若井克人 松尾省三 高橋孝子 堀 勇夫 中村 勉 高橋孝子 辻 道子 細木美恵子 北村広幸 森島 満 藤原紀美代 宇賀孝子 吉沢洋一 沢田重光 井上孝子 森 和久 藤田清夫 河村中夫 矢倉ひろ 河端 敦 高田三三 安藤達美 手嶋洋子 横山昌明 鈴木正雄 田中俊孝子

音山から熊ヶ岳 5月3日(日) 曇り時々雨 近鉄御所駅9・00(集合) 9・00(バス) 下宿9・15(20) 吉河山 聖堂10・10(25) 吉河山11・00(1) 20(1) 25(1) 35(1) 途中で12・00(集合) 12・40(1) 熊ヶ岳12・50(1) 大峰13・10(1) 20(1) 不徳滝14・00(1) 深田山14・20(1) (自由行動) 15・00(1) 駐車場バス停15・06(バス) (解散) 15・30(解散) 霧は霧がかり薄く「幻想的な景色」が、と云う人がいた。登山道には材料イロイロの川が流れていた。白道は緑と白のコントラストが美しい。 (参加者) 前田孝子 千葉千枝子 北川 武 山本 勉 土屋孝子 横井孝子 青木一雄 川上久照 平 幸子 森澤高博 森澤孝子 栗成英子 新山孝子 三木孝子 宇山昌志 宮崎孝子 深坂 寛 深坂孝子 徳川 哲 大尾藤孝子